

ソーシャル・キャピタルの醸成に関する 調査研究報告書

～とちぎ県民の絆づくりに向けて～



新・とちぎ学びかがやきプラン推進プロジェクトチーム

(栃木県総合教育センター生涯学習部 調査)

目 次

I 調査の目的と概要

- 1 調査の目的 1
- 2 調査の概要 1

II 集計結果

- 1 回答数 2
- 2 回答者の基本的属性 2
- 3 本県のソーシャル・キャピタルの醸成（単純集計から） 5
- 4 本県のソーシャル・キャピタルの醸成（全国調査との比較） 13
- 5 ソーシャル・キャピタルの醸成状況 20

III ソーシャル・キャピタルの醸成に関わるもの

- 1 年代別との相関性 21
- 2 居住年数との相関性 27
- 3 同居家族との相関性 32
- 4 ソーシャル・キャピタルの要素同士の相関性 38
- 5 ソーシャル・キャピタルの醸成に関わるもの（まとめ） 49

IV 地域のまとまり、地域への愛着・誇り、地域への居住継続意識

- 1 地域のまとまり、地域への愛着・誇り、地域への居住継続意識との相関性 54
- 2 地域のまとまり、地域への愛着・誇り、地域への居住継続意識同士の相関性 61
- 3 地域のまとまり、地域への愛着・誇り、地域への居住継続意識との相関性から見てきたもの . . 63

V 意見・記述、その他の調査結果

- 1 地域活動についての記述 64
- 2 その他のクロス集計結果 76

VIとちぎ県民の絆づくりに向けて

- 1 調査結果のまとめ 79
- 2 終わりに 81

資料

- 参考文献 82

アンケート調査用紙

とちぎ学びかがやきプラン推進事業プラン推進プロジェクトチーム委員名簿

I 調査の目的と概要

1 調査の目的

栃木県では平成 23 年 3 月に「栃木県生涯学習推進計画四期計画『新・とちぎ学びかがやきプラン』」を策定し、「生涯学習による栃木県民の『絆』づくりを目指します」を基本目標に生涯学習関連施策を展開している。

奇しくもこの計画が策定された時期に、東日本大震災が発生した。未曾有の被害をもたらした大災害ではあったが、震災後の人々がとった行動は、改めて地域の大切さ、人のつながりの大切さを再認識させ、「絆」が復興を支える合言葉となった。

この計画は平成 23 年度から平成 27 年度までの 5 か年を計画期間とし、社会の状況の変化や施策の成果を評価し、必要に応じてその見直しを行うこととしている。

計画の折り返しに当たる平成 25 年度を経て、新・とちぎ学びかがやきプラン推進プロジェクトチームでは、これまでの本県における生涯学習の推進を見直し、今後の方向性を見いだすために、プランの目標に掲げた「とちぎ県民の絆」の捉え方等について議論を交わした。

その中で、人と人とのつながり状況を把握するための手立てとして、「ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）」の視点が有効ではないかという提案があった。ソーシャル・キャピタルの概念については諸説あるが、米国の政治学者 R.パットナムは、「ネットワーク」「信頼」「社会参加（互酬性の規範意識）」といったソーシャル・キャピタルの蓄積により、人々の協調行動が活発になり、社会の効率性を高めることにつながると唱えている。つまり、「ネットワーク」「信頼」「社会参加（互酬性の規範意識）」というソーシャル・キャピタルの要素をもとに、ソーシャル・キャピタルの蓄積（醸成）状況を測定すれば、本県の人と人とのつながり状況を把握し、何がつながりをつくる要因かを探ることができるものと考えた。ソーシャル・キャピタルの測定については、過去に国内で行われた調査等を基に作成した調査票によって、アンケート調査を実施することとした。

これによって、計画の目標である「とちぎ県民の絆」を具体的に捉え、本県社会教育・生涯学習行政の施策の方向性を示していきたいと考えた。

2 調査の概要

(1) 調査対象

栃木県民（県外居住者で県内の大学等に在学する学生及び県内の企業に勤務する会社員等を含む）

(2) 調査時期

平成 25 年 12 月～平成 26 年 1 月

(3) 調査方法

アンケートによる自記式回答

(4) 調査内容

巻末資料の調査用紙のとおり

Ⅱ 集計結果

1 回答数

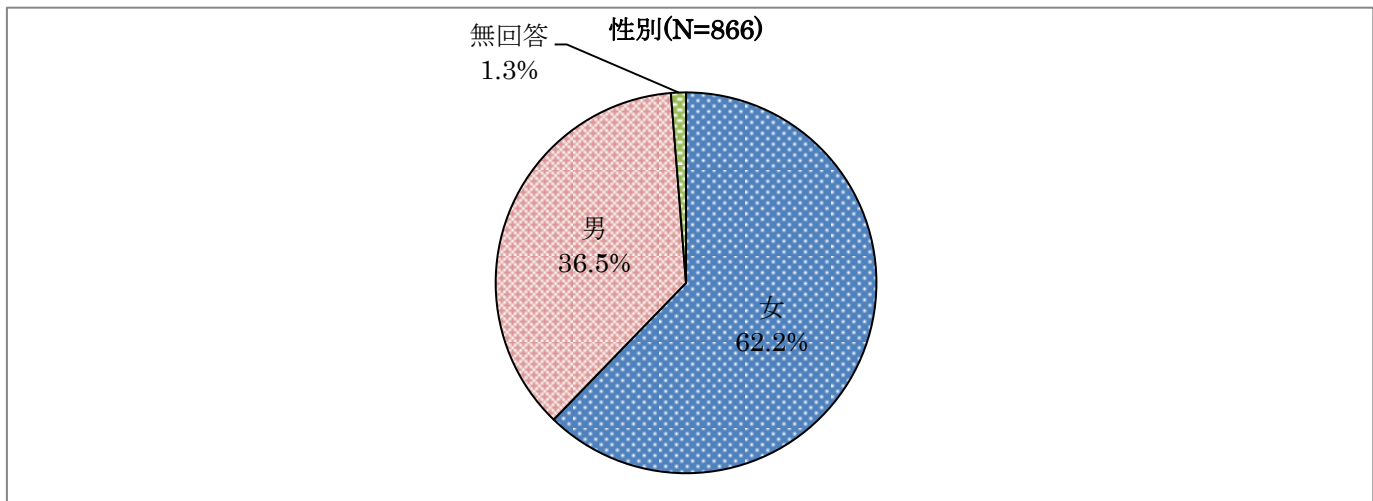
866 名

2 回答者の基本的属性

本調査では、質問票を配布する際に男女比、年代比等、なるべく均質になるよう配慮はしたが、以下の結果に示すとおり、若干のずれが生じている。実際の本県における男女比、年代比等と調査結果との比較も掲載した。

① 性別

【図 1】

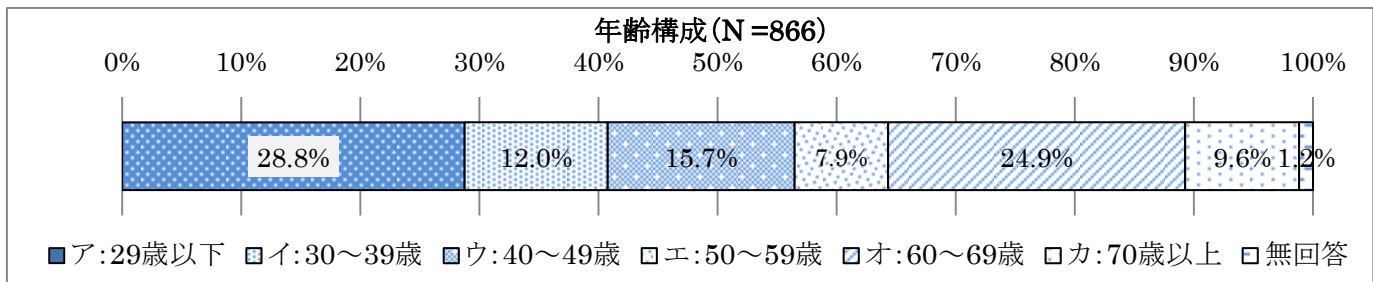


回答者のうち女性はい62.2%、男性は36.5%である。

本県の人口は、調査実施時（平成 25 年 10 月 1 日現在）1,987,119 人で、うち女性が 1,000,054 人で全体に占める割合は 50.3%、男性が 987,065 人で 49.7%あった。よって、回答者全員について得られた調査結果については、女性の意見が若干強く反映されている可能性があることに注意して数値を読み取っていく必要がある。

② 年齢構成

【図 2】



上段(人) 下段(%)

【表 3】

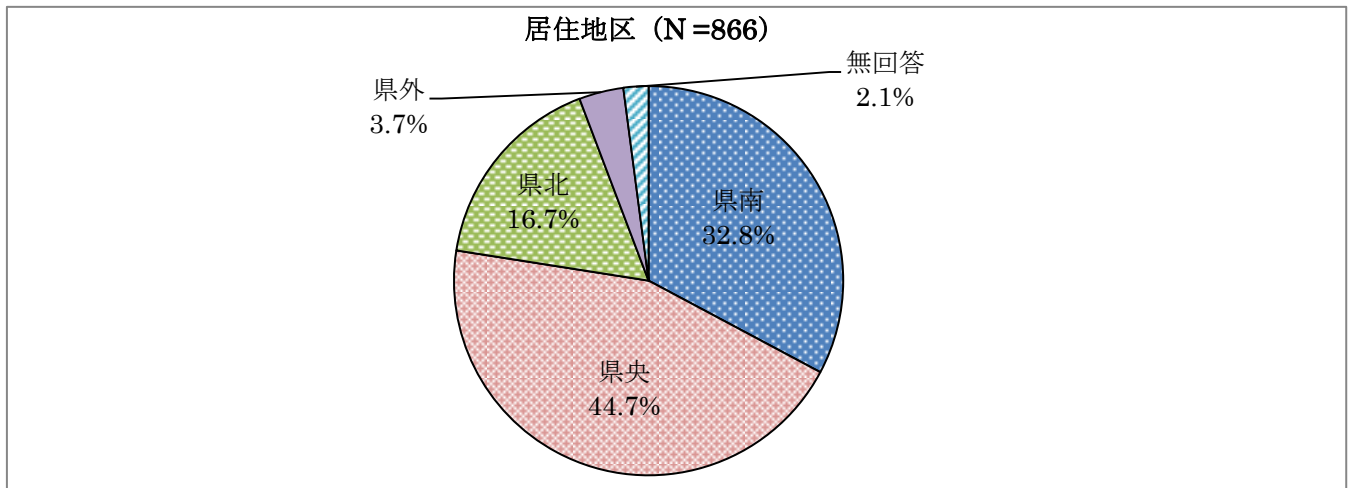
	29 歳以下	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70 歳以上	無回答その他
調査対象の年代別回答者(N=866)	249	104	136	68	216	83	10
	28.8	12.0	15.7	7.9	24.9	9.6	1.2
県年代別人口(総人口 1,987,119 人)	543,401	259,485	271,244	256,548	297,234	337,475	21,732
	27.3	13.1	13.7	12.9	15.0	17.0	1.1

回答者全体の年齢構成【図 2】から、「ア：29 歳以下」の回答者が 28.8%で最も割合が高く、「オ：60～69 歳」が 24.9%と続く。最も割合が低いのは「エ：50～59 歳」で 7.9%であった。

【表 3】調査対象の年代別回答者と県年代別人口（平成 25 年 10 月現在）の割合を比較すると、「70 歳以上」が 7.4 ポイント（県 17.0%、回答者 9.6%）回答者が下回っている。また「60～69 歳」では 9.9 ポイント（県 15.0%、回答者 24.9%）回答者が上回っている。回答者全員について得られた調査結果については、「60～69 歳」の意見が若干強く反映されていたり、「70 歳以上」の意見が反映されにくくなっていたりする等の可能性もあることを考慮する必要がある。

③ 居住地区

【図4】



【表5】

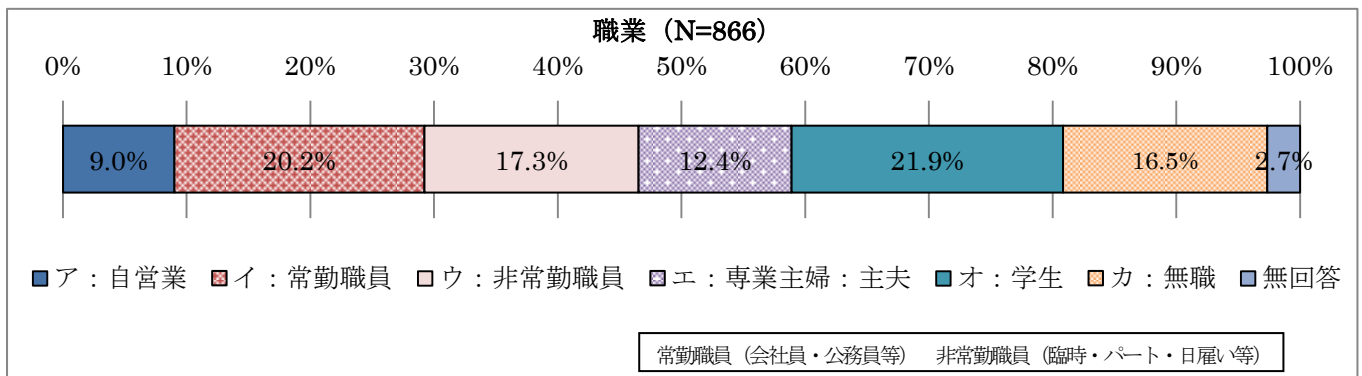
県南	【下都賀地区】 【安足地区】	1 壬生町 2 野木町 3 岩舟町※ 4 小山市 5 栃木市 6 下野市
		7 佐野市 8 足利市 ※調査時は岩舟町であったが現在は栃木市
県央	【河内地区】【上都賀地区】 【芳賀地区】	9 宇都宮市 10 上三川町 11 鹿沼市 12 日光市 13 真岡市
		14 益子町 15 茂木町 16 市貝町 17 芳賀町
県北	【塩谷南那須地区】 【那須地区】	18 矢板市 19 さくら市 20 那須烏山市 21 塩谷町 22 高根沢町
		23 那珂川町 24 大田原市 25 那須町 26 那須塩原市
県外		27 その他

回答者の居住地は、県を「県南地区」、「県央地区」、「県北地区」の3つのエリア【表5】に分けて示す。なお、県外居住者で県内企業への勤務者からの回答も見られたが、それらの回答も除外せずに集計に加えている。

回答者の割合は、「県央地区」が44.7%で最も多く（県央地区人口879,937人※、県総人口に占める割合44.3%）、続いて「県南地区」の32.8%（県南地区人口721,668人※、県総人口に占める割合36.3%）、「県北地区」の16.7%（県北385,514人※、県全体に占める割合19.4%）である。（※人口は平成25年10月1日現在）各地区における回答者の割合は、概ね実際の各エリアの人口分布に近い値となっている。

④ 職業

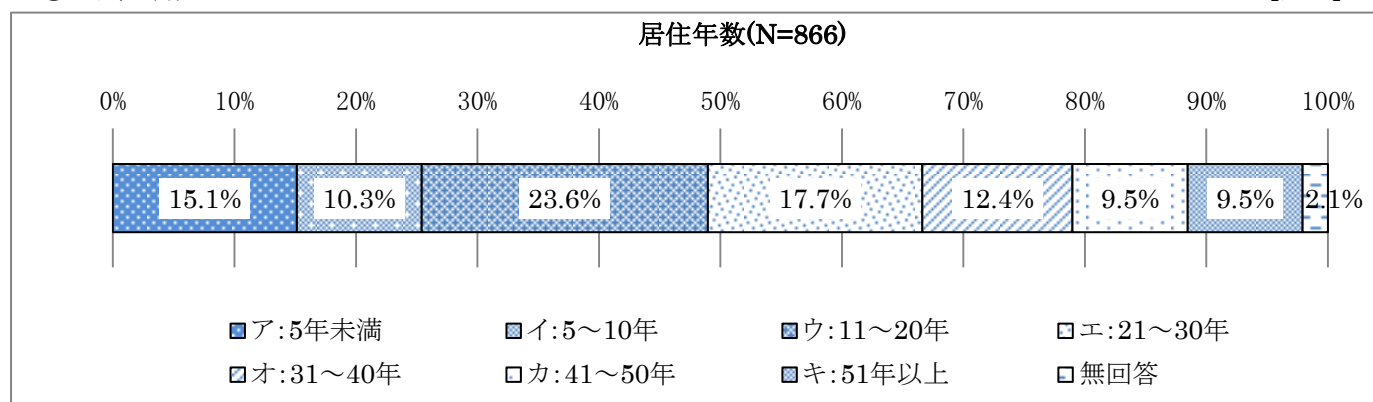
【図6】



回答者全体の職業別に見た割合では、「オ: 学生」が21.9%で最も高く、続いて「イ: 常勤職員」20.2%となる。

⑤ 居住年数

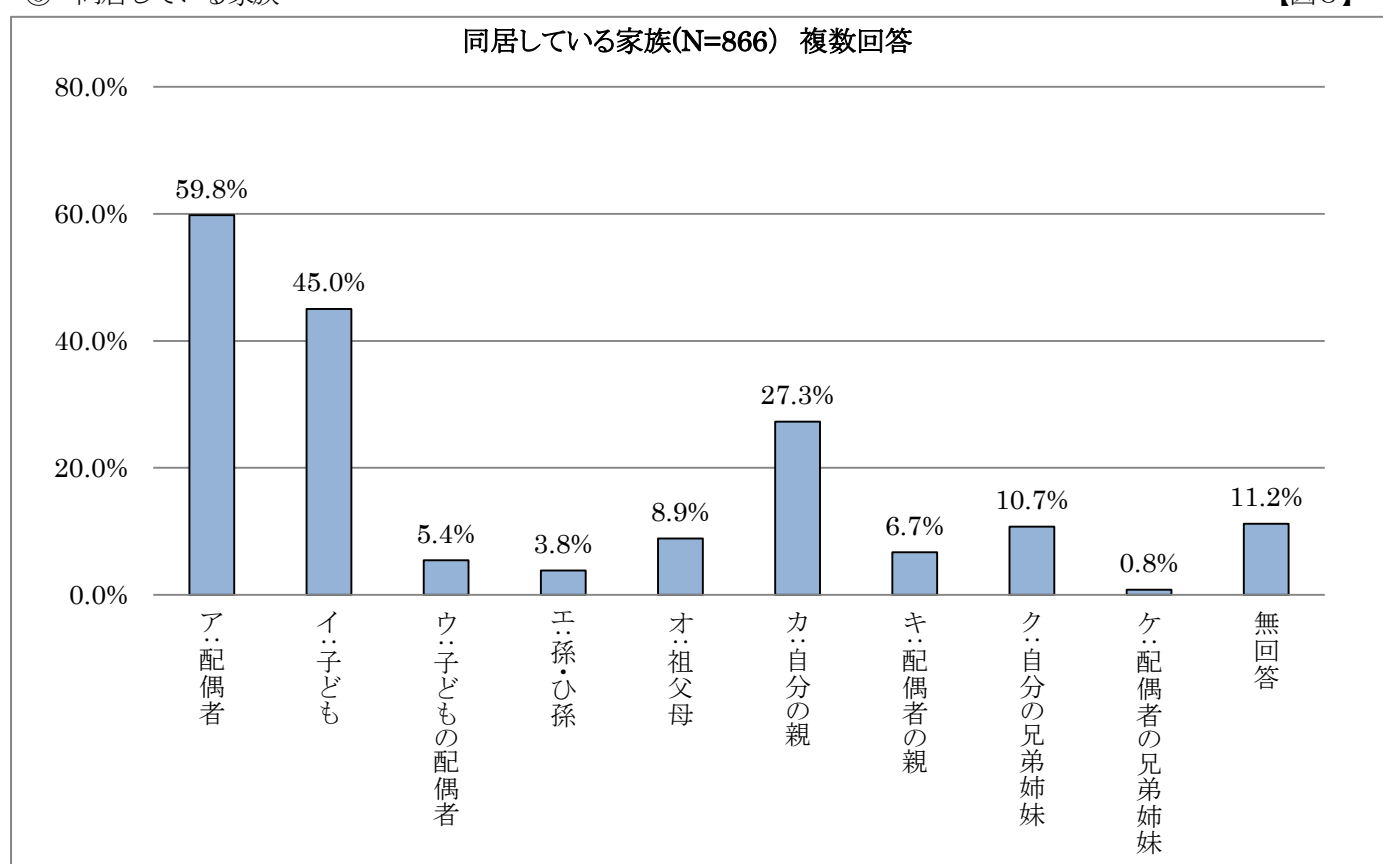
【図7】



回答者全体の居住年数の割合をみると、「ウ:11～20年」が23.6%で最も多く、「エ:21～30年」17.7%、「ア:5年未満」15.1%と続く。

⑥ 同居している家族

【図8】



「ア:配偶者」と同居しているという割合が59.8%で、回答者全体のうち約6割が既婚者である。次に「イ:子ども」が45.0%、「カ:自分の親」が27.3%と続く。また、「オ:祖父母」(8.9%)、「エ:孫・ひ孫」(3.8%)等との同居、つまり3世代以上の家庭は約1割強と推定できる。

3 本県のソーシャル・キャピタルの醸成（単純集計から）

調査票の問1から問4までの回答についての単純集計結果を示す。

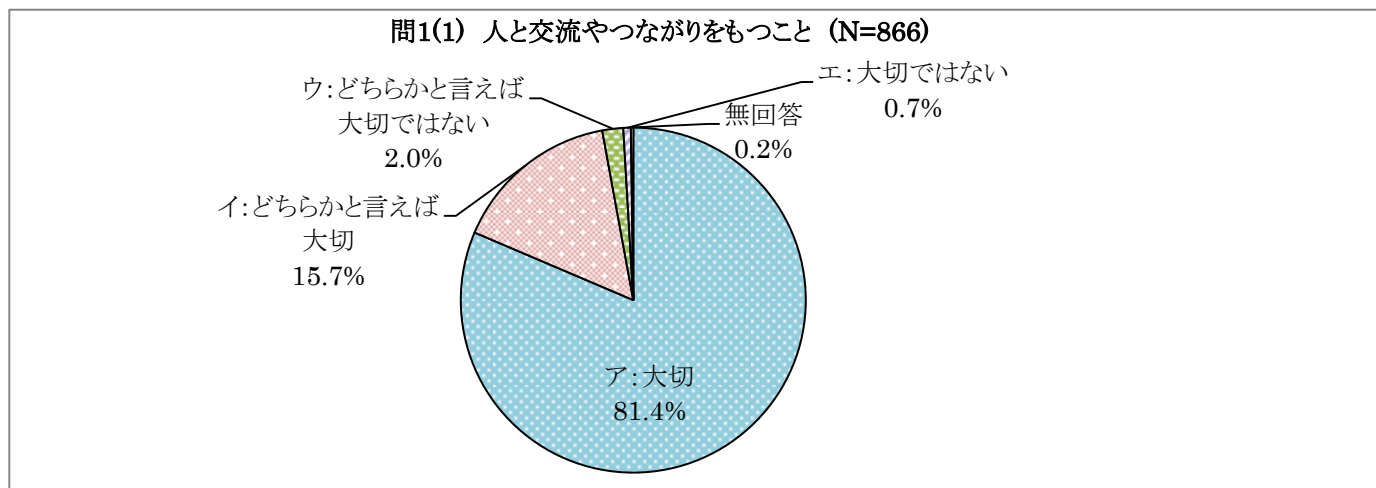
(1) 人との交流・つながりについて

① 交流・つながりへの意識

問1 (1)

人と直接会って話をしたり、一緒に活動したりして、交流・つながりをもつことについて、どのように考えますか。
(SA)

【図9】



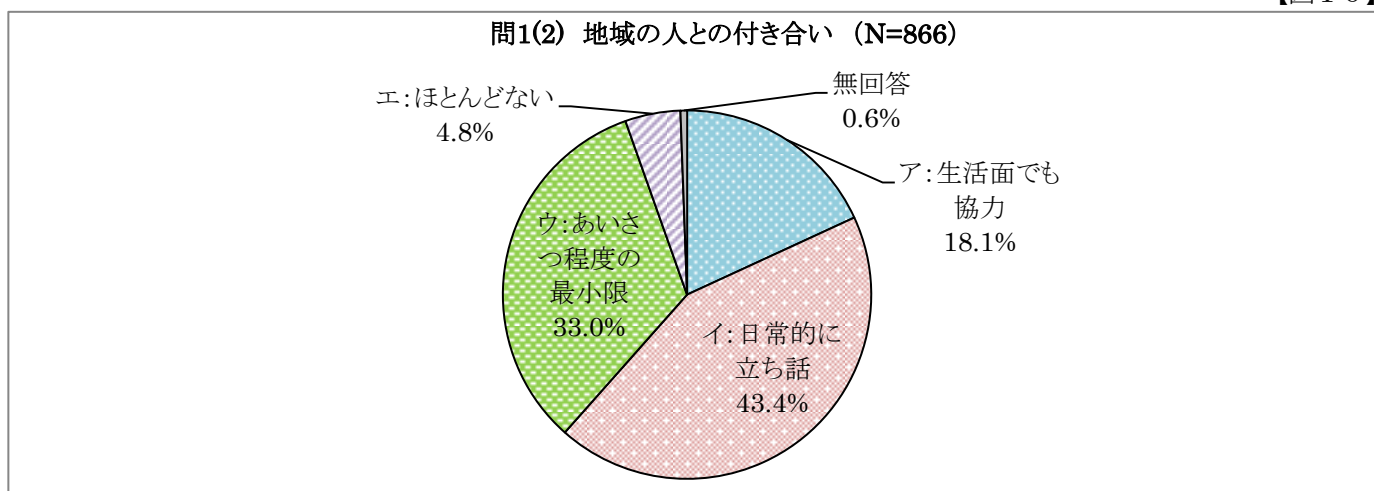
「直接会って話をしたり、一緒に活動したり」という点で人との交流・つながりについての意識を質問した。全体では、81.4%が「ア：大切だと思う（以下、大切）」と回答している。「イ：どちらかと言えば大切だと思う（以下、どちらかと言えば大切）」は15.7%である。「大切」、「どちらかと言えば大切」を合わせると97.1%である。

② 地域の人との付き合い

問1 (2)

地域の方とどのようなお付き合いをされていますか。(SA)

【図10】



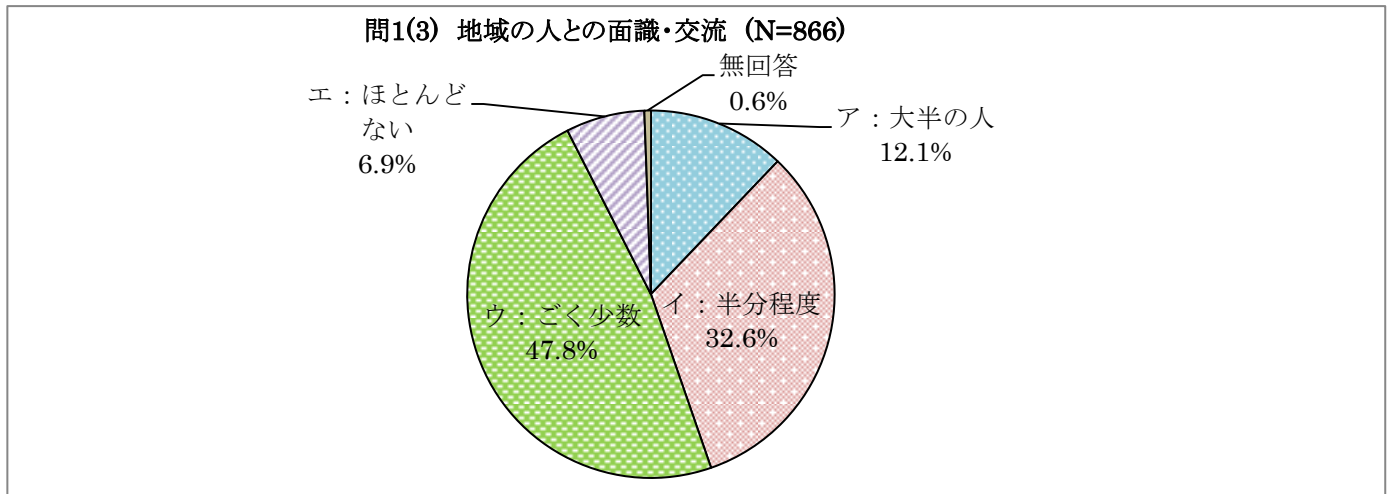
地域の人との付き合いの程度を質問した。「イ：日常的に立ち話をする程度の付き合いはしている（以下、日常的に立ち話）」が43.4%で最も多い。続いて「ウ：あいさつ程度の最小限の付き合いしかしていない（以下、あいさつ程度の最小限）」が33.0%である。「ア：互いに相談したり日用品の貸し借りをしたりするなど、生活面でも協力し合っている人もいる（以下、生活面でも協力）」は18.1%である。「生活面でも協力」「日常的に立ち話」「あいさつ程度の最小限」を合計すると94.5%である。4.8%ではあるが「ほとんどない」という回答も見られる。

③ 地域の人との面識・交流

問1（3）

地域のどのくらいの人と面識・交流がありますか。（S A）

【図1 1】



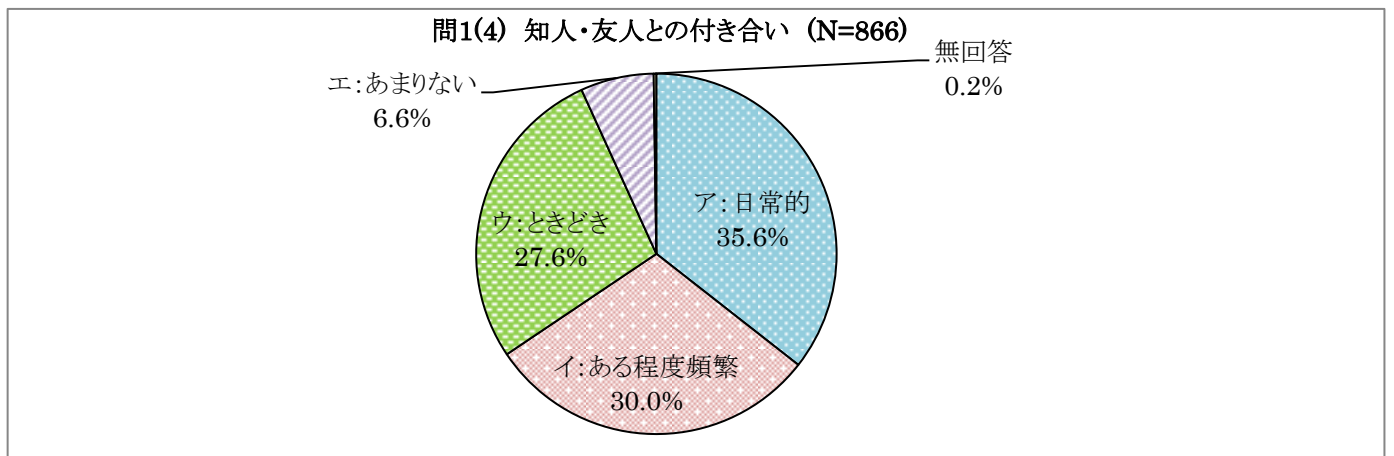
地域のどのくらいの人と面識・交流があるかについての質問した。「ウ：地域のごく少数の人とだけ（以下、ごく少数）」が47.8%で最も高い割合である。「イ：地域の半分程度の人と（以下、半分程度）」と回答した割合は32.6%でほぼ3分の1である。「ア：地域の大半の人と面識・交流がある（以下、大半の人）」と回答した割合は12.1%である。「大半の人」「半分程度」「ごく少数」を合わせ、地域の人と何らかの面識・交流がある割合は92.8%と9割以上を占める。6.9%が「ほとんどない」と回答している。

④ 友人・知人との付き合い・交流

問1（4）

友人・知人（地域内外を問わず）とのつきあい・交流はありますか。（S A）

【図1 2】



知人・友人（地域の人に限らず）との交流の頻度について質問した。「ア：日常的（ほぼ毎日）にある（以下、日常的）」と回答した割合は35.6%で最も高かった。「イ：ある程度頻繁（週に2～3回）にある。（以下、ある程度頻繁）」が30.0%、「ウ：ときどき（月に1回程度）ある（以下、ときどき）」が27.6%と続く。「日常的」「ある程度頻繁」「ときどき」を合わせ、何らかの付き合いをしている割合は93.2%である。

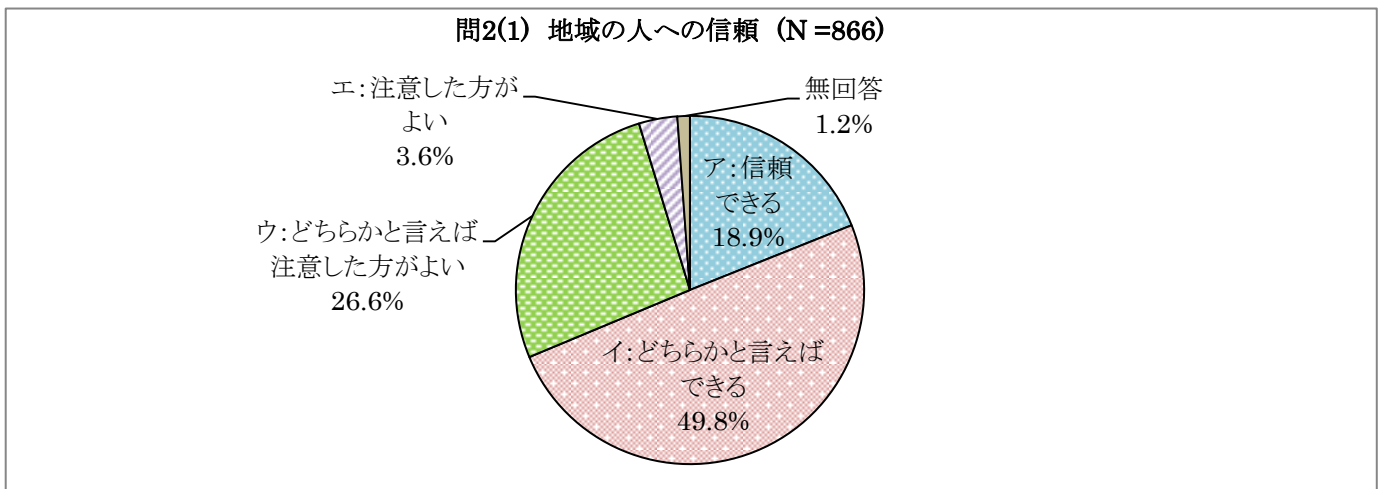
(2) 他人への信頼について

① 地域の人への信頼

問2 (1)

地域の方は信頼できると思いますか。それとも注意をするに越したことはないと思いますか。(SA)

【図1 3】



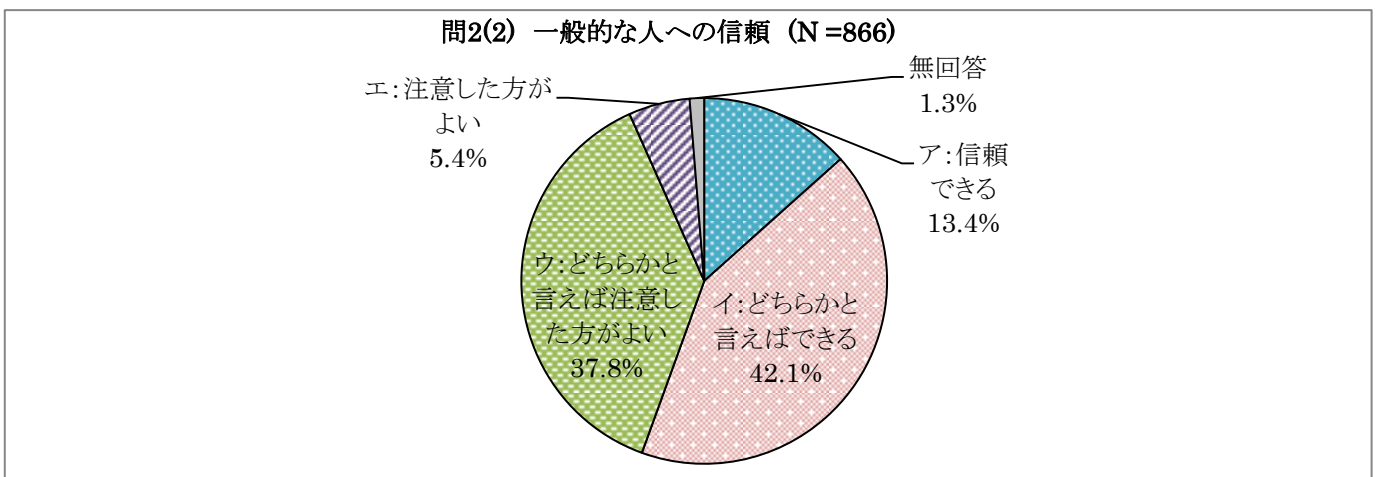
地域の人に対する信頼についての質問である。「イ：どちらかと言えば信頼できる（以下、どちらかと言えばできる）」が 49.8%でほぼ半数である。「ア：ほとんどの人は信頼できる（以下、信頼できる）」は 18.9%である。「信頼できる」「どちらかと言えばできる」を選んだ合計の割合は 68.7%である。「ウ：どちらかと言えば注意をするに越したことはない（以下、どちらかと言えば注意した方がよい）」は 26.6%で、「エ：注意をするに越したことはない（以下、注意した方がよい）」は 3.6%である。「どちらかと言えば注意した方がよい」「注意した方がよい」の合計の割合は 30.2%である。

② 一般的な人への信頼

問2 (2)

一般的に人は信頼できると思いますか。それとも注意をするに越したことはないと思いますか。(SA)

【図1 4】



一般的に人は信頼できるかという質問への回答である。「イ：どちらかと言えば信頼できる（以下、どちらかと言えばできる）」が 42.1%で最も高い割合である。続いて「ウ：どちらかと言えば注意をするに越したことはない（以下、どちらかと言えば注意）」が 37.8%である。「ア：ほとんどの人は信頼できる（以下、信頼できる）」は 13.4%で、「どちらかと言えばできる」を合わせると 55.5%である。

(3) 地域活動への参加について

① 地域活動への参加状況

問3 (1)

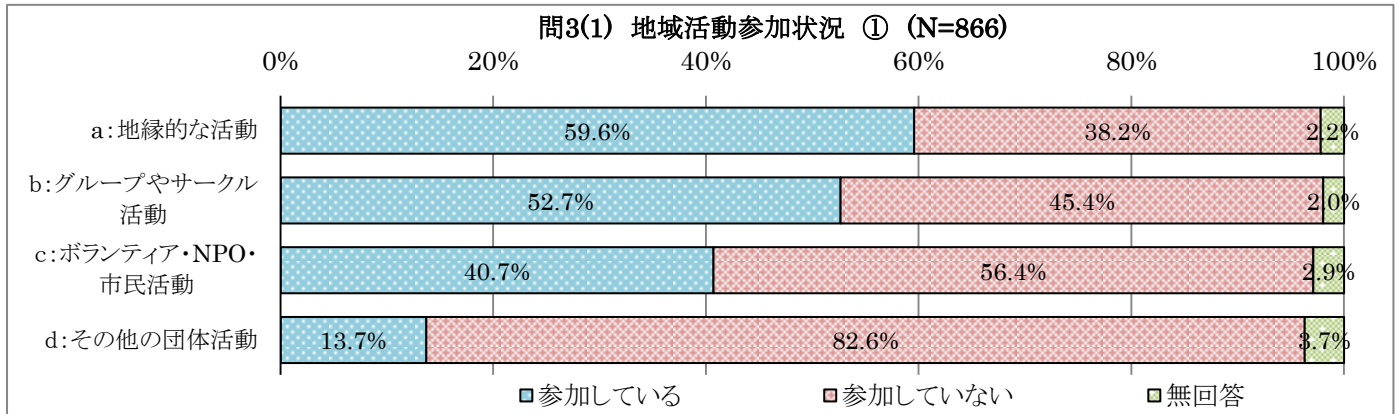
現在、以下のa～dの項目への参加状況について、あてはまるもの。(SA)

1：週3回以上 2：週1～2回 3：月2～3回 4：月1回程度 5：年数回程度 6：参加していない

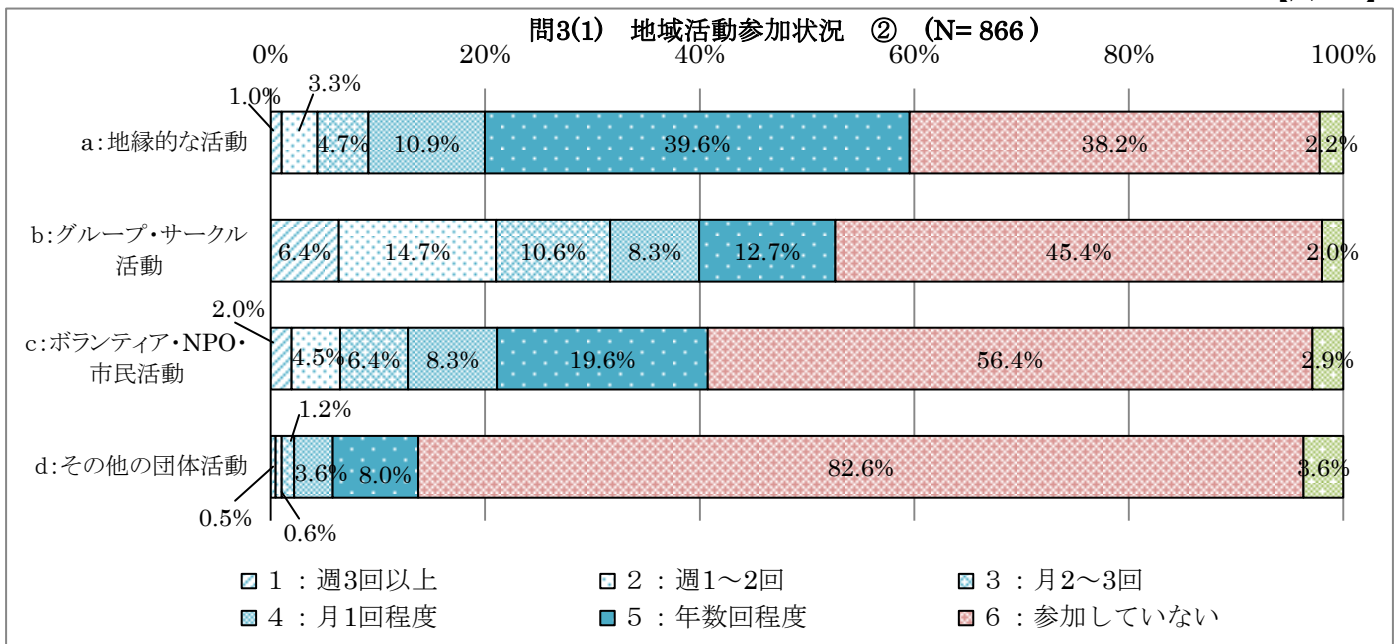
活動分類表

- a 地縁的な活動・・・自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、子ども会育成会等
- b グループやサークル活動・・・スポーツ・趣味・子育て・講座修了者で立ち上げたもの等
- c ボランティア・NPO、市民活動・・・まちづくり、福祉、スポーツ指導、環境保護、防災・防犯等
- d その他の団体活動・・・商工会、業種組合、宗教、政治等

【図15】



【図16】



地域活動への参加状況について質問した。活動は分類表のとおり、a～dの4つの分野に分けた。

【図15】は、回答者全体の活動への参加の有無である。「a：地縁的な活動」への参加が59.6%と最も高い割合である。以下「b：グループやサークル活動」52.7%、「c：ボランティア・NPO・市民活動」40.7%、「d：その他の団体活動」13.7%と続く。

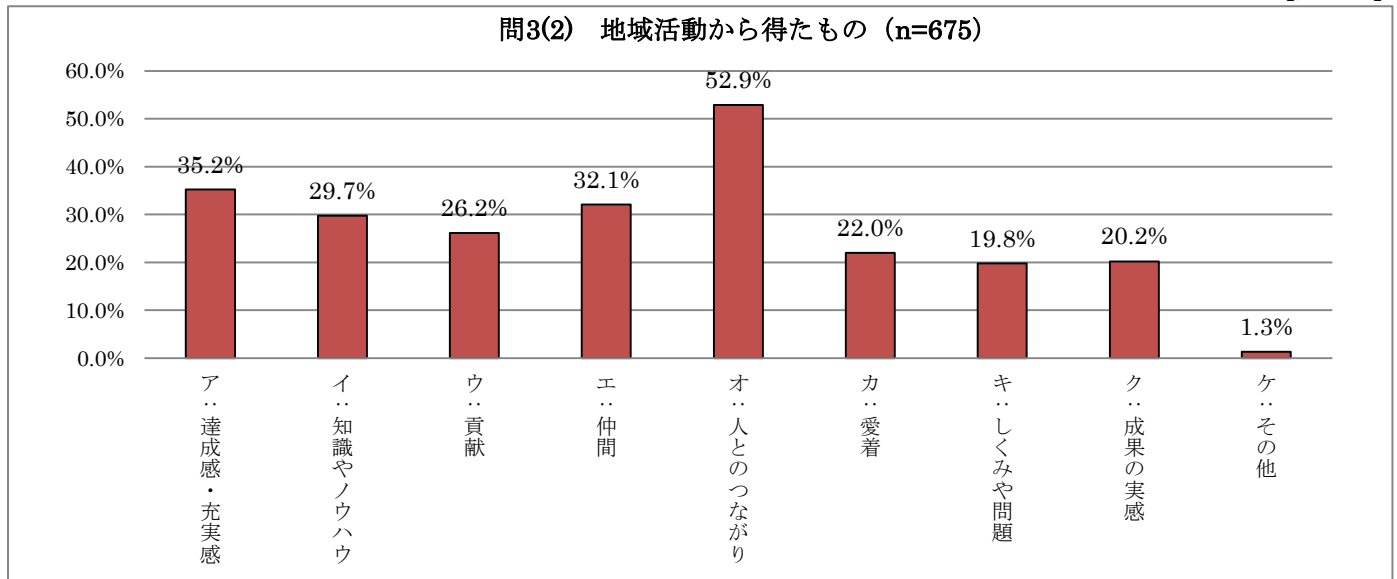
【図16】は、地域活動への参加頻度である。「参加していない」を除けば、「a：地縁的な活動」「c：ボランティア・NPO・市民活動」「d：その他の団体活動」はいずれも、「5：年数回程度」参加しているという回答が最も多い。「b：グループ・サークル活動」は「2：週1～2回」活動しているが14.7%で最も高い割合である。

② 地域活動から得たもの

問3 (2)

問3 (1) a～dの1つでも1～5に○を付けた方にうかがいます。活動に参加してどんなことを得ましたか。【MA】

【図17】



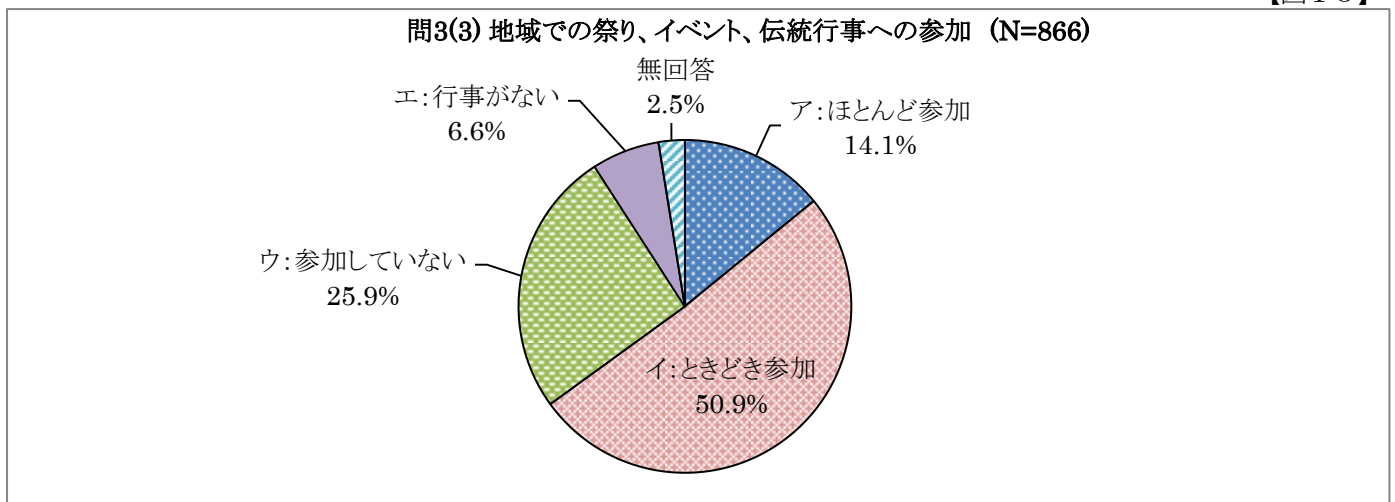
「問3(1)の地域活動への参加から得たもの」について質問した。「オ：地域のさまざまな人とのつながりができた（以下、人とのつながり）」が52.9%で最も高い。次に「ア：達成感・充実感を味わえた（以下、達成感・充実感）」35.2%、「エ：価値観を共有できる仲間ができた（以下、仲間）」32.1%と続く。

③ 地域での祭り、イベント、伝統行事への参加状況

問3 (3)

地域での祭り、イベント、伝統行事等への参加状況についてうかがいます。【SA】

【図18】



祭り・イベント・伝統行事等への参加状況について質問した。「イ：ときどき参加している（以下、ときどき参加）」という回答が50.9%で最も多い。「ア：ほとんど参加している（以下、ほとんど参加）」の14.1%と合わせて、全体の65.0%が地域の「祭り・イベント・伝統行事」に参加していることが分かる。「ウ：地域での祭り、イベント、伝統行事等はあるが参加していない（以下、参加していない）」は25.9%、「エ：地域で実施している祭り、イベント、伝統行事等がない（以下、行事がない）」は6.6%である。合計すると32.5%、3割強は地域での「祭り、イベント、伝統行事等」に参加していないということになる。

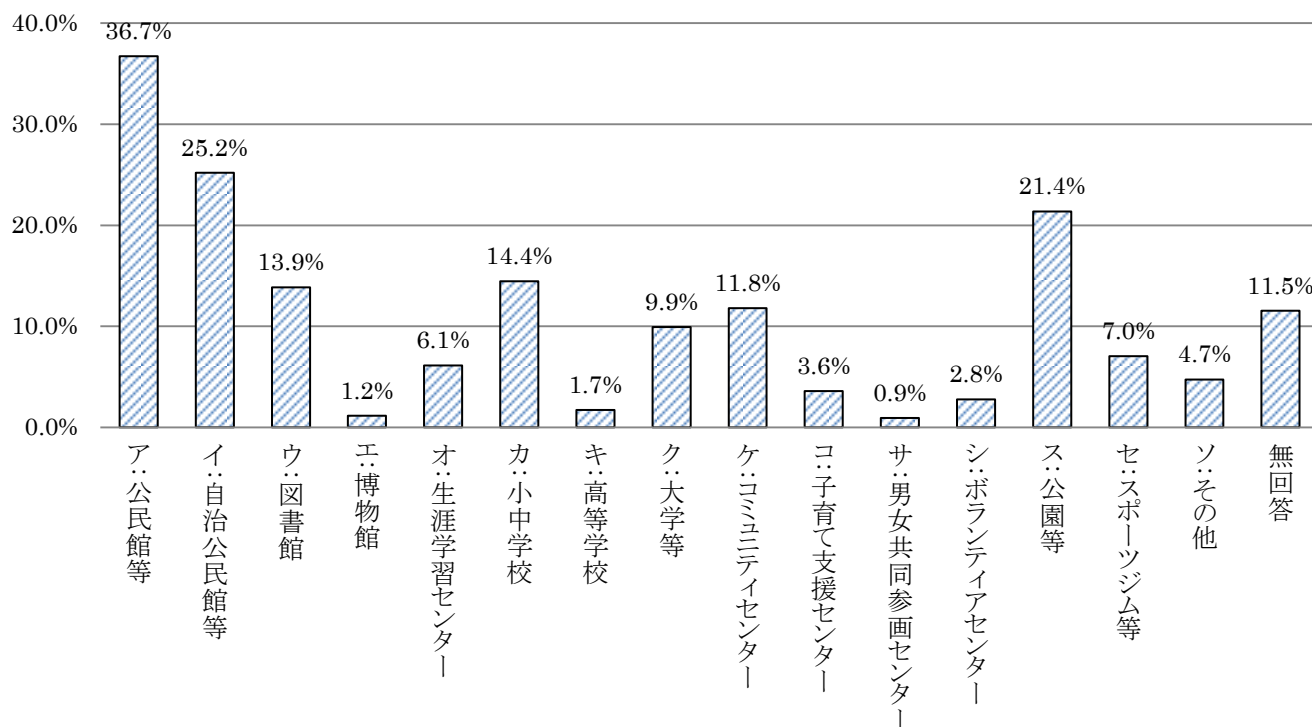
④ 人との交流に利用する施設・場所

問3（4）

人と交流するときによく利用する施設・場所についてうかがいます。【MA】（主なもの3つまで）

【図19】

問3(4) 交流するときによく利用する施設・場所 (N=866)



【その他の記述】

保育園・児童館、レストラン・飲食店・コンビニ、ショッピングモール、YMCA、自宅、お互いの家、家の近く（道端）、体育館、カルチャーセンター、老人保健センター、NHK、スタジオ、宗教の集会所、寺社、新年会の会場、福祉センター、市民情報センター、ほほえみセンター

利用しているという回答が最も多かったのは、「ア：公民館等」の 36.7%であった。次が「イ：自治公民館等」25.2%、「ス：公園等」21.4%で、それぞれ 20%以上の回答があった。

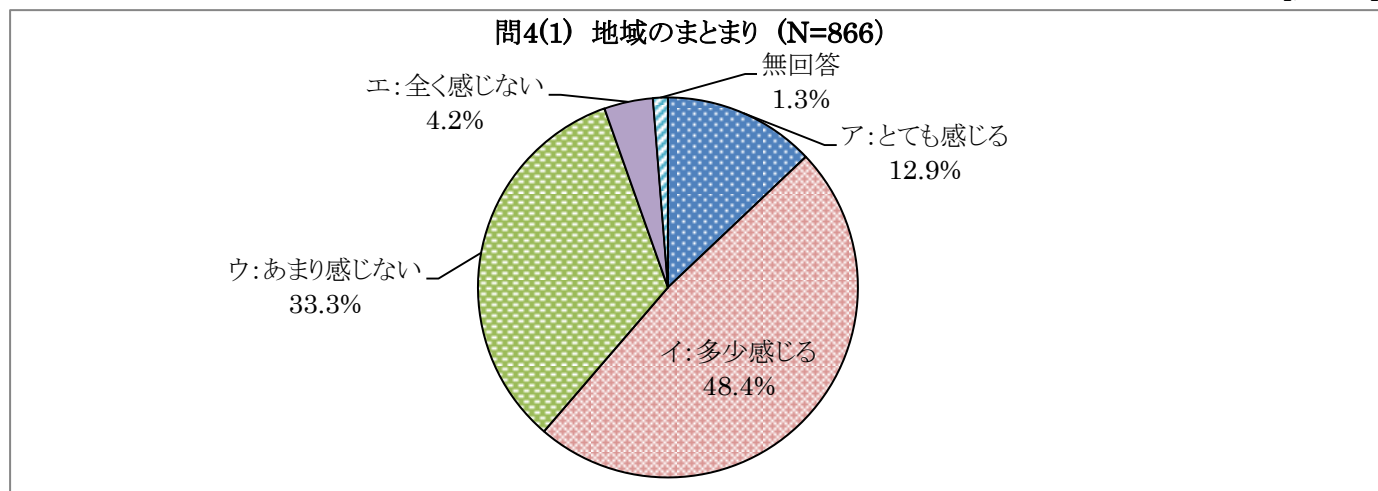
(4) 地域について感じていること

① 地域のまとまりについて

問4 (1)

あなたの地域はまとまりがありますか。【SA】

【図20】



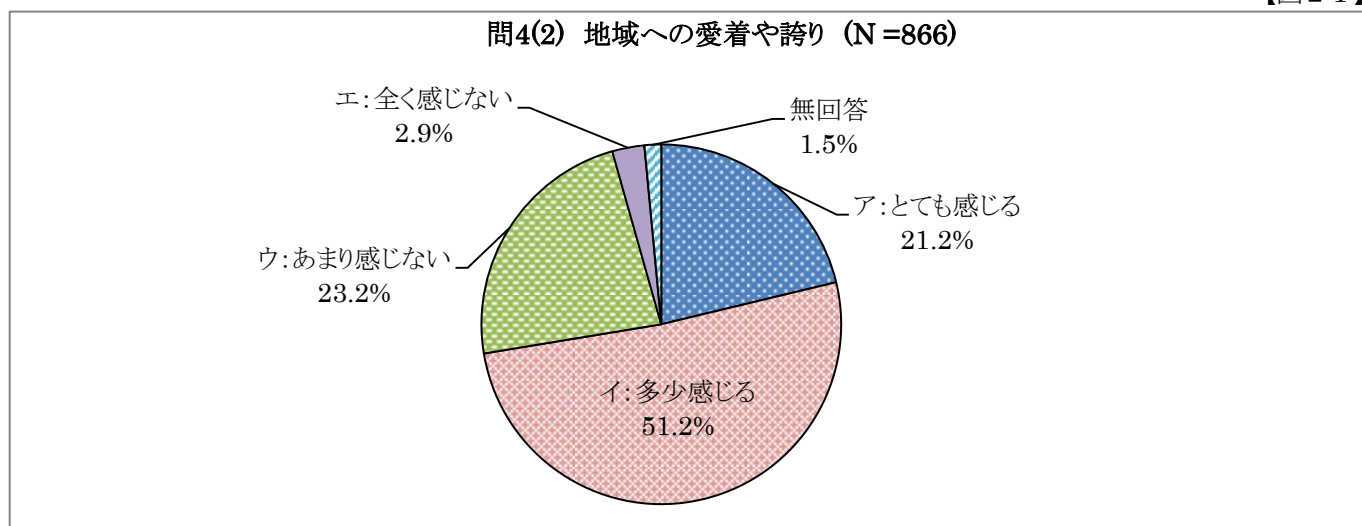
地域のまとまりを感じるかについて質問した。「イ：多少感じる」が48.4%で最も高い割合である。「ア：とても感じる」は12.9%である。「とても感じる」「多少感じる」の合計の割合は61.3%である。

② 地域への愛着や誇りにについて

問4 (2)

地域に愛着や誇りを感じていますか。【SA】

【図21】



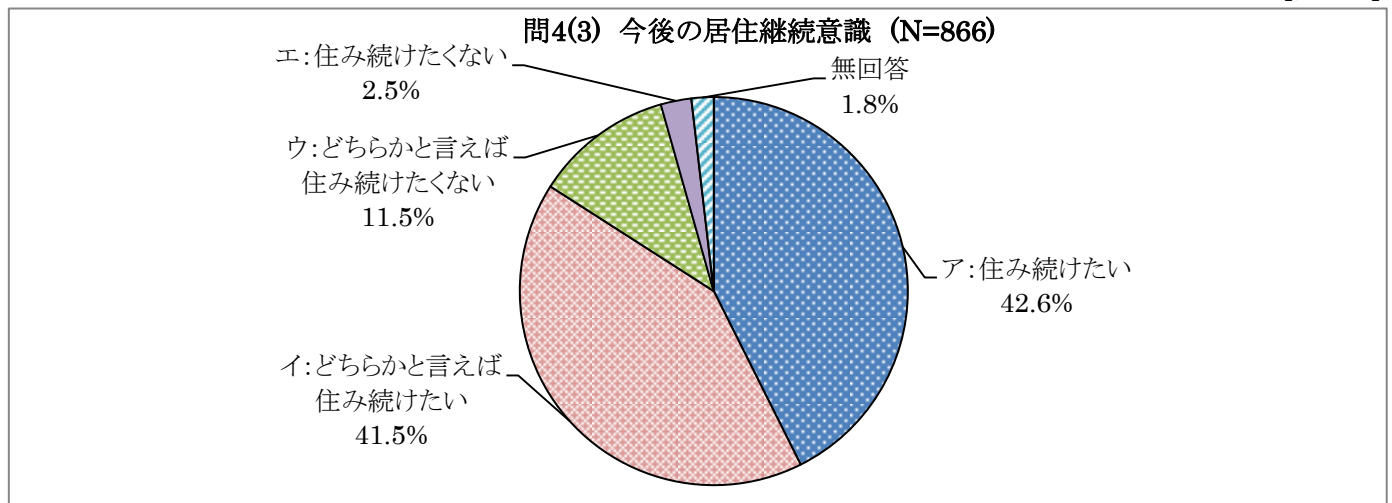
地域への誇りや愛着を感じているかについて質問した。「イ：多少感じる」は51.2%で最も選んだ割合が高い。「ア：とても感じる」が21.2%である。「とても感じる」と「多少感じる」の合計の割合は72.4%である。

③ 今後の居住継続意識

問4（3）

この地域に今後も住みたいと思いますか。【SA】

【図22】



今後も現在居住している地域に住み続けたいかについて質問した。全体では「ア：住みたい」が42.6%で最も高い割合である。「イ：どちらかと言えば住みたい」が41.5%で続く。「住みたい」「どちらかと言えば住みたい」の合計の割合は、84.1%である。

4 本県のソーシャルキャピタルの醸成（全国調査との比較）

本県のソーシャルキャピタルの醸成状況を把握するために、ソーシャル・キャピタル政策展開研究会が実施した「社会生活に関するアンケート調査」（「わが国のソーシャル・キャピタル政策展開に向けて報告書」による）の結果と本調査の結果の比較を行った。

「社会生活に関するアンケート調査」の実施概要は以下のとおりである。

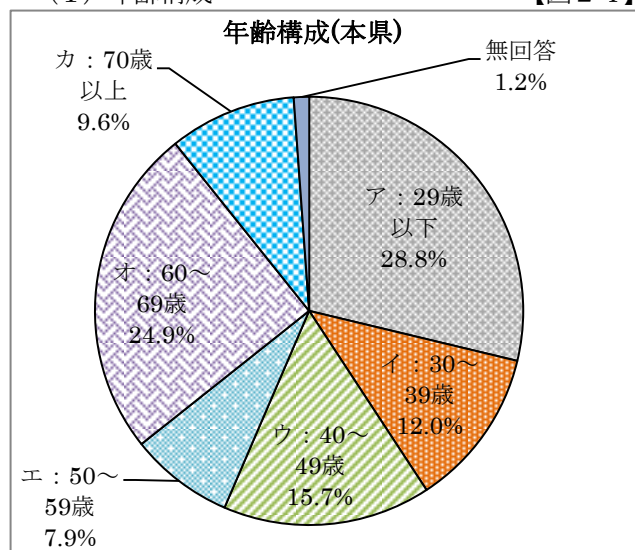
実施時期 2007年8月（報告書提出2008年2月） 調査方法 web アンケート方式 回答者数 3,000名

比較する際の留意点として、今回本県で実施した「人とのつながり、地域での活動等に関する調査」とは質問や選択肢が異なる場合があった。よって、正確な比較は困難であることを踏まえた上で、概ね質問の趣旨が近いものを対比させながら醸成状況をみていくこととした。

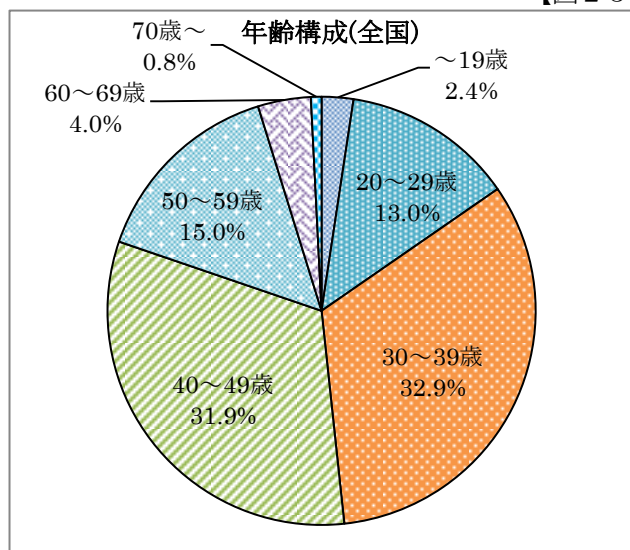
なお、本県の回答者総数は866名である。

（1）年齢構成

【図24】



【図25】



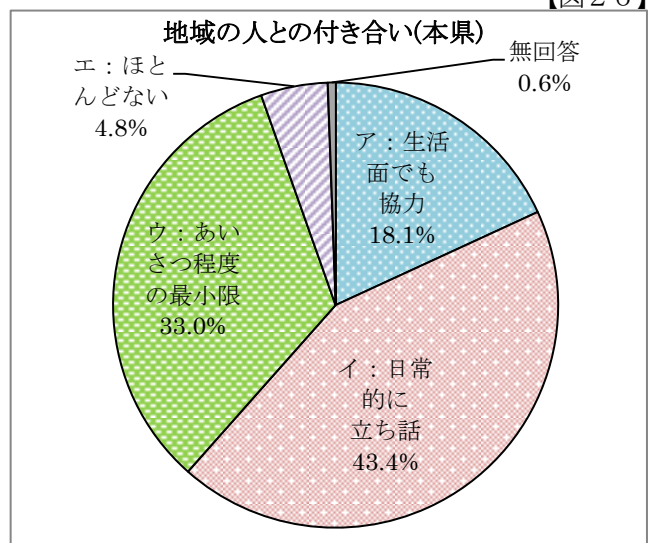
29歳以下（～19歳、20～29歳）…本県28.8%：全国15.4%、30～39歳…本県12.0%：全国32.9%、40～49歳…本県15.7%：全国31.9%、50～59歳…本県7.9%：全国15.0%、60～69歳…本県24.9%：全国4.0%、70歳以上…本県9.6%：全国0.8%である。

（2）地域の人との交流・つながりから

①地域の人との付き合い

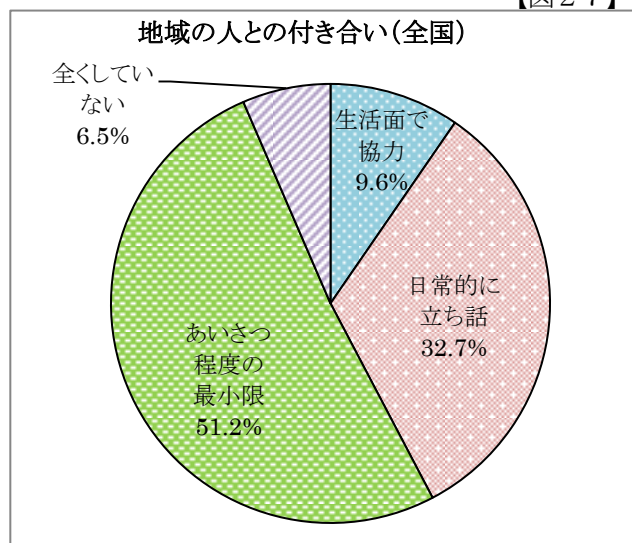
【本県 問1(2)】地域の方とどのようなお付き合いをされていますか。（SA）

【図26】



【全国】あなたは、ご近所の方とどのようなお付き合いをされていますか。（SA）

【図27】



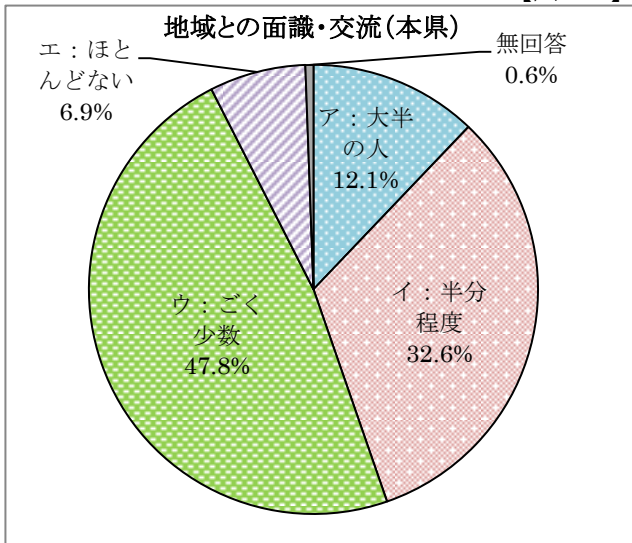
「生活面でも協力」 本県18.1%：全国9.6% …本県の方が8.5ポイント上回る。

「生活面での協力」＋「日常的に立ち話」 本県61.5%：全国42.3% …本県の方が19.2ポイント上回る。

② 地域の人との面識・交流

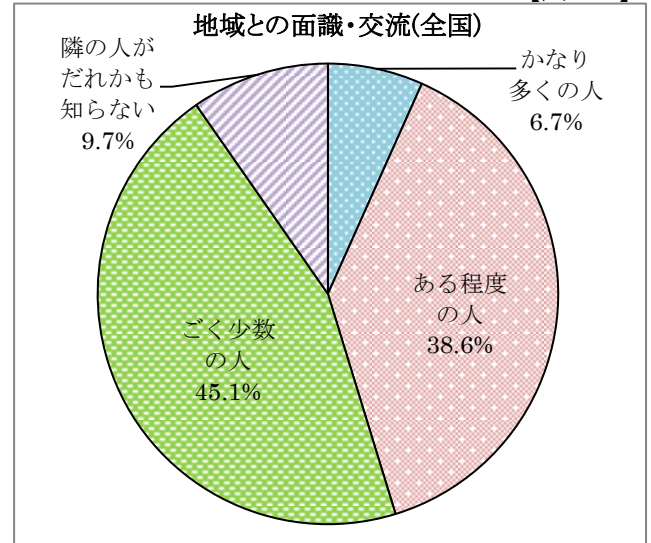
【本県 問 1 (3)】 地域のどのくらいの人と面識・交流がありますか。(S A)

【図 2 8】



【全国調査】 つきあっている人の数はどのくらいですか。(S A)

【図 2 9】

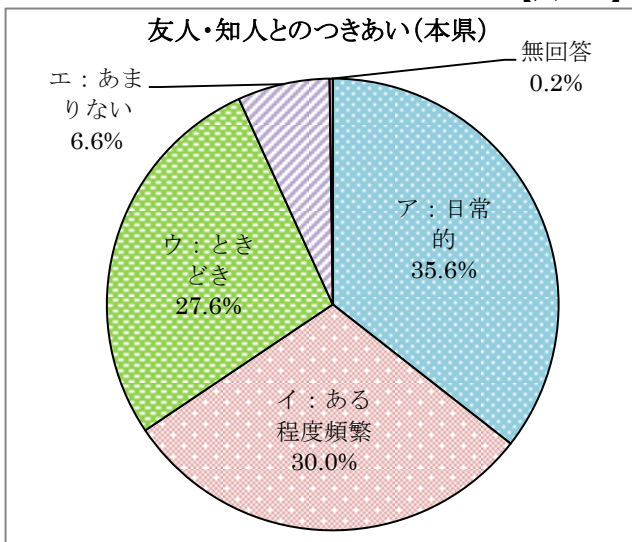


本県「大半の人」12.1%：全国「かなり多くの人」6.7% …本県が5.4ポイント上回る。
 本県「ほとんどない」6.9%：全国「隣の人がだれかも知らない」9.7% …2.8ポイント本県が下回る。

③ 友人・知人との付き合い

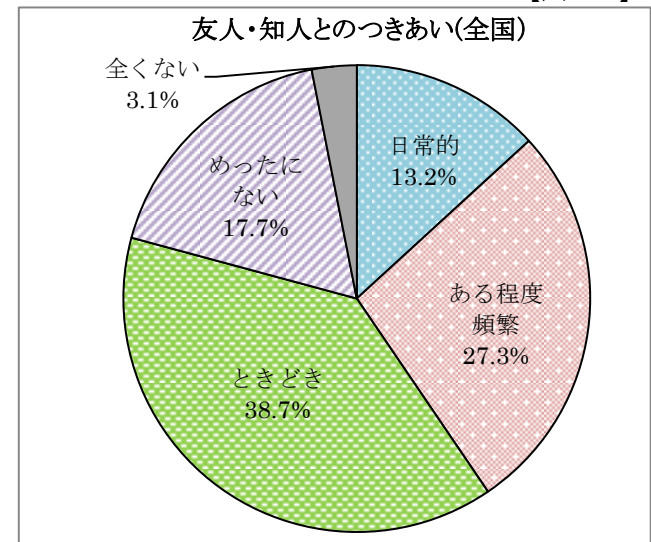
【本県 問 1 (4)】 友人・知人（地域内外を問わず）との付き合い、交流はありますか。(S A)

【図 3 0】



【全国調査】 友人・知人とのつきあい（学校や職場以外で）について、あなたは普段どの程度の頻度でつきあいをされていますか。(S A)

【図 3 1】



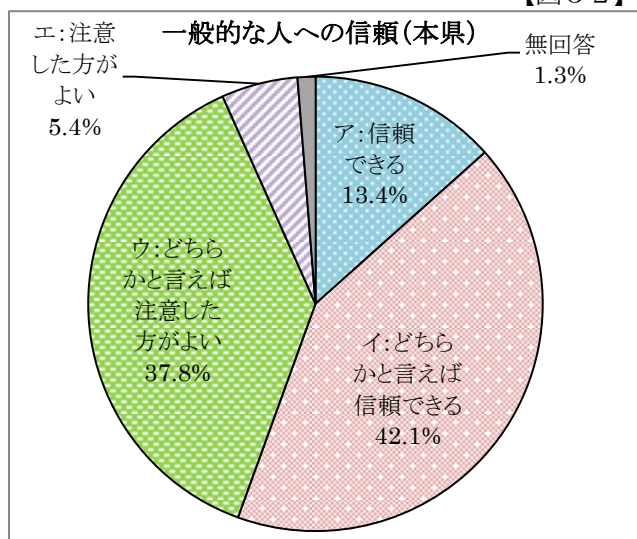
「日常的にある」 本県 35.6%：全国 13.2% …本県が22.4ポイント上回る。
 「ある程度頻繁」 本県 30.0%：全国 27.3% …本県が2.7ポイント上回る。

(3) 人への信頼について

① 一般的な人への信頼

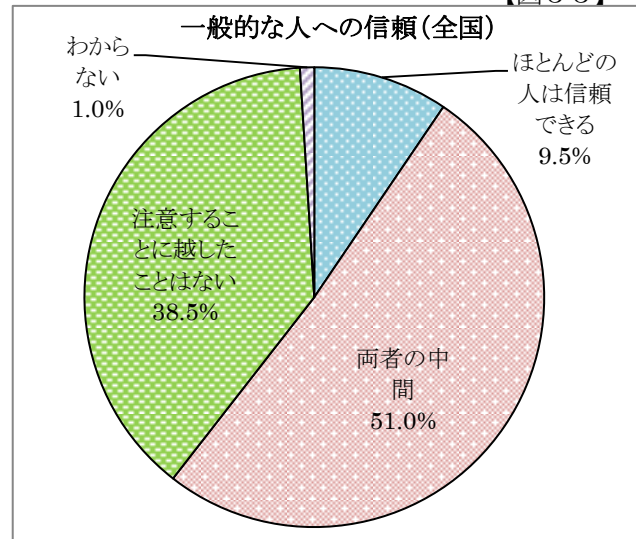
【本県 問 2 (2)】一般的に人は信頼できると思いますか。それとも注意をするに越したことはないと思いますか。(SA)

【図 3 2】



【全国】あなたは、一般的に人は信頼できると思いますか。それとも注意をするに越したことはないと思いますか。(SA)

【図 3 3】



本県「信頼できる」13.4%：全国「ほとんどの人は信頼できる」9.5% …本県が3.9ポイント全国を上回る。

(4) 地域活動への参加について

① 地縁的な活動

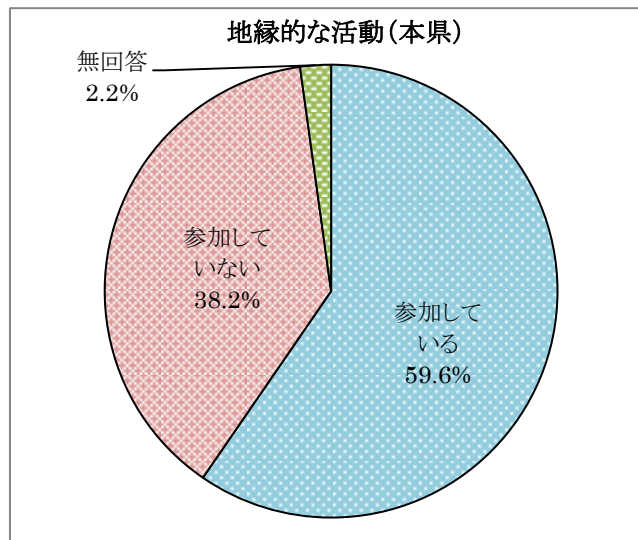
【本県 問3(1)】

a～dの項目への参加状況について選択。(SA)

- | | |
|----------|-----------|
| 1：週に3回以上 | 2：週に1～2回 |
| 3：月に2～3回 | 4：月に1回程度 |
| 5：年に数回程度 | 6：参加していない |

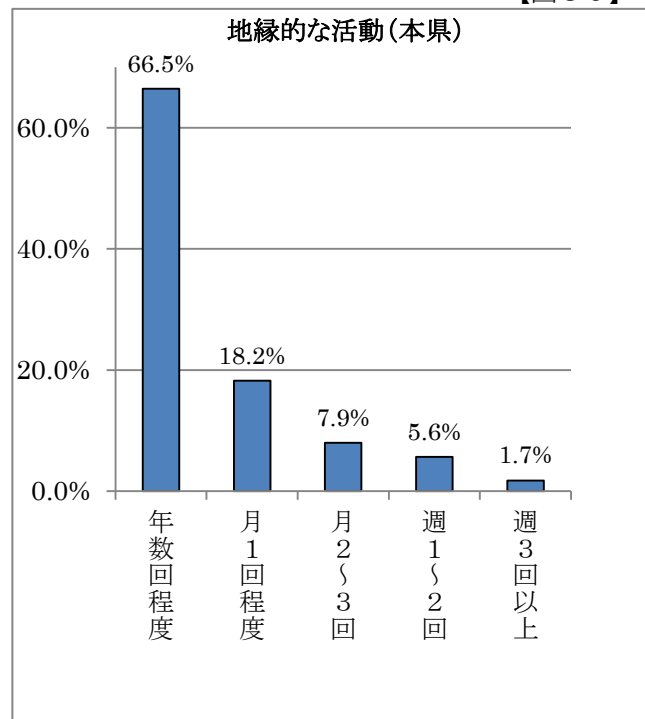
a 地縁的な活動 …自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、子ども会育成会等

【図34】



「参加している」…本県 59.6%、全国 22.0% 本県が 37.6 ポイント上回る。

【図36】



「年数回程度」本県 66.5%：全国 47.1%
「月に2～3回」本県 7.9%：全国 14.6%

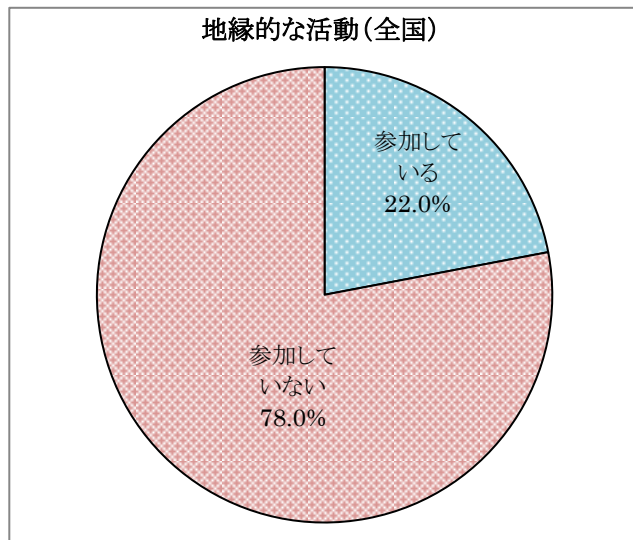
【全国】

1～4の項目について、活動の有無、及び「活動している」と回答した方のみ選択。(SA)

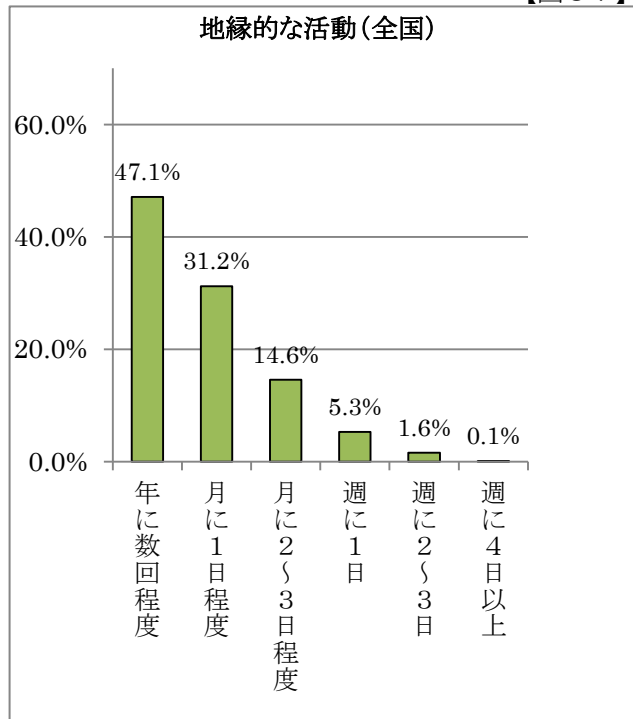
- | | |
|------------|----------|
| 1：年に数回程度 | 2：月に1日程度 |
| 3：月に2～3日程度 | 4：週に1日 |
| 5：週に2～3日 | 6：週に4日以上 |

1 地縁的な活動 …自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、子ども会など

【図35】



【図37】



「月に1回程度」本県 18.2%：全国 31.2%
「週1回以上の合計」本県 7.3%：全国 7.0%

② グループ・サークル活動（スポーツ・趣味・娯楽活動）

【本県 問3(1)】

a～dの項目への参加状況について選択。(SA)

- | | |
|----------|-----------|
| 1：週に3回以上 | 2：週に1～2回 |
| 3：月に2～3回 | 4：月に1回程度 |
| 5：年に数回程度 | 6：参加していない |

b グループやサークル活動 …スポーツ・趣味・子育て・講座修了者で立ち上げたもの等

【全国】

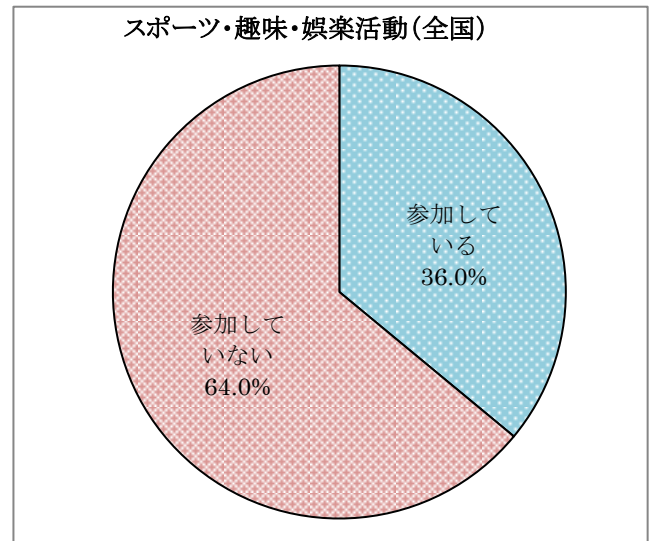
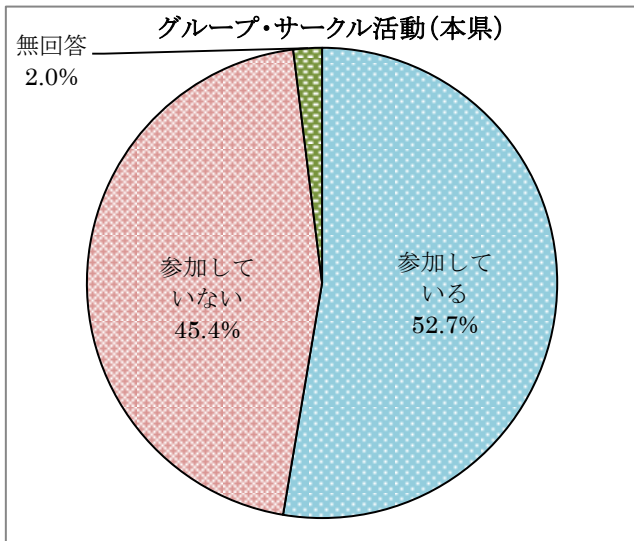
1～4の項目について、活動の有無、及び「活動している」と回答した方のみ選択。(SA)

- | | |
|------------|----------|
| 1：年に数回程度 | 2：月に1日程度 |
| 3：月に2～3日程度 | 4：週に1日 |
| 5：週に2～3日 | 6：週に4日以上 |

2 スポーツ・趣味・娯楽活動 …各種スポーツ、芸術文化活動、生涯学習など

【図38】

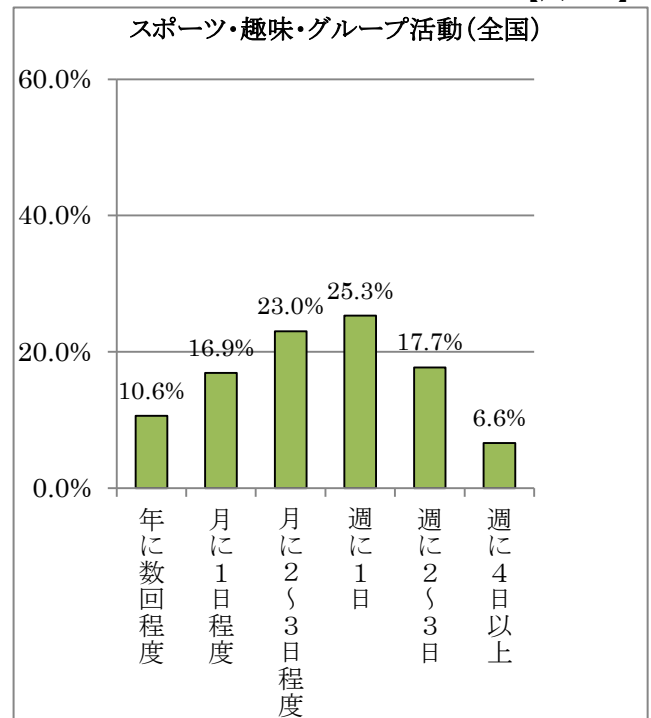
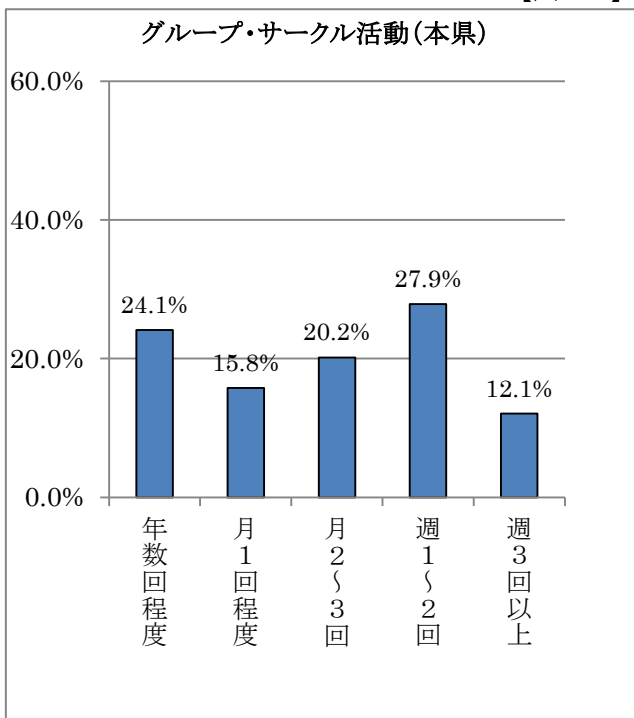
【図39】



「参加している」…本県 52.7%、全国 36.0% 本県が 16.7 ポイント上回る。

【図40】

【図41】



「年数回程度」本県 24.1%：全国 10.6%
「月2～3回」本県 20.2%：全国 23.0%

「月1回程度」本県 15.8%：全国 16.9%
「週1回以上の合計」本県 40.0%：全国 49.6%

③ ボランティア・NPO・市民活動

【本県 問3(1)】

a～dの項目への参加状況について選択。(SA)

- | | |
|----------|-----------|
| 1：週に3回以上 | 2：週に1～2回 |
| 3：月に2～3回 | 4：月に1回程度 |
| 5：年に数回程度 | 6：参加していない |

c ボランティア、NPO、市民活動 …まちづくり、福祉、スポーツ指導、環境保護、防災・防犯等

【全国】

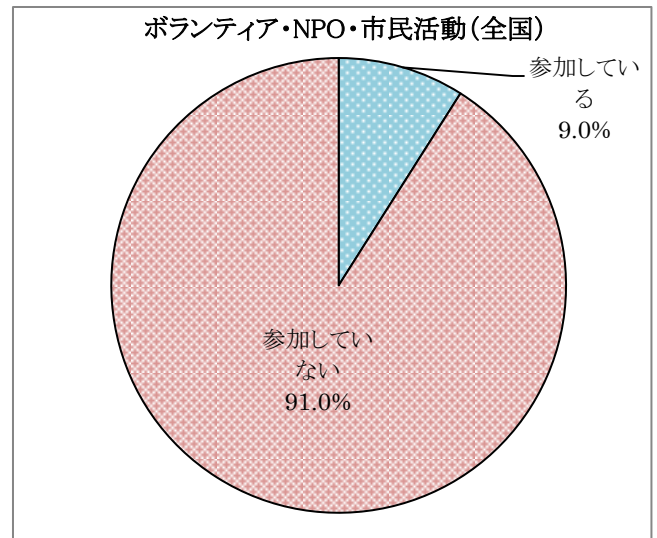
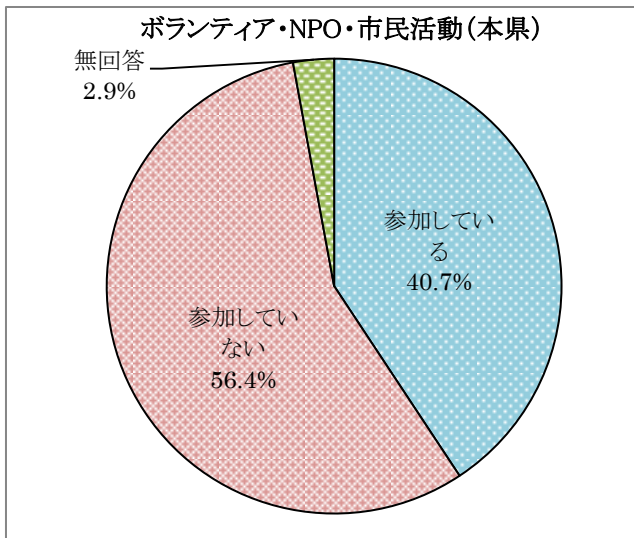
1～4の項目について、活動の有無、及び「活動している」と回答した方のみ選択。(SA)

- | | |
|------------|----------|
| 1：年に数回程度 | 2：月に1日程度 |
| 3：月に2～3日程度 | 4：週に1日 |
| 5：週に2～3日 | 6：週に4日以上 |

3 ボランティア、NPO、市民活動 …まちづくり、高齢者・障害者福祉や子育て、スポーツ指導、美化、防犯・防災、環境、国際協力活動など

【図42】

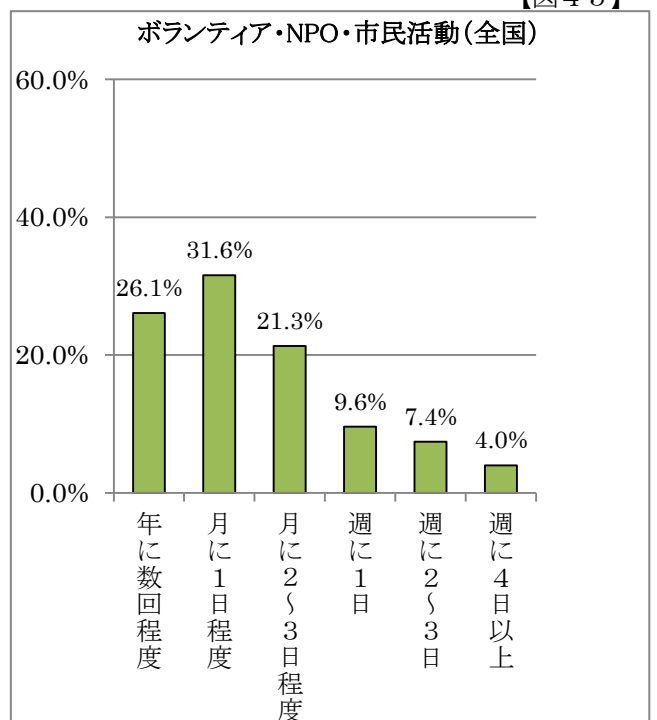
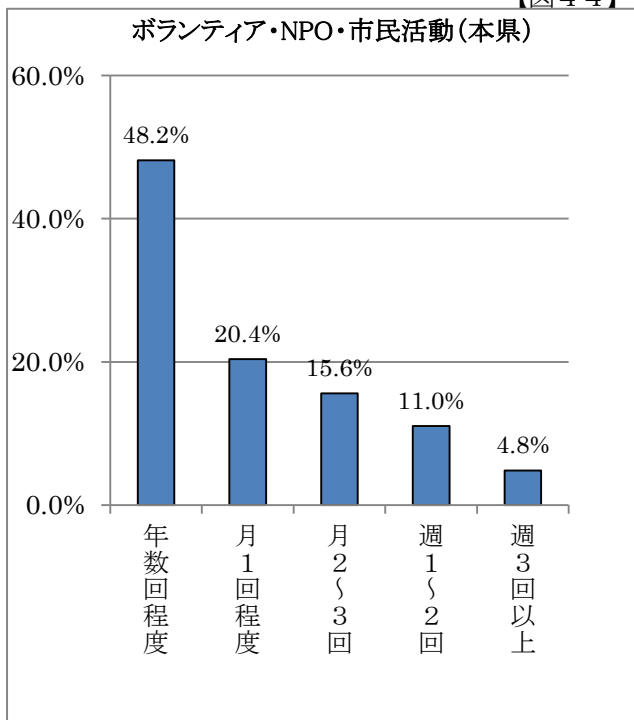
【図43】



「参加している」…本県 40.7%、全国 9.0% 本県が 31.7 ポイント上回る。

【図44】

【図45】



「年数回程度」本県 48.2%：全国 26.1%
「月2～3回」本県 15.6%：全国 21.3%

「月1回程度」本県 20.4%：全国 31.6%
「週1回以上の合計」本県 15.8%：全国 21.0%

④ その他の団体活動

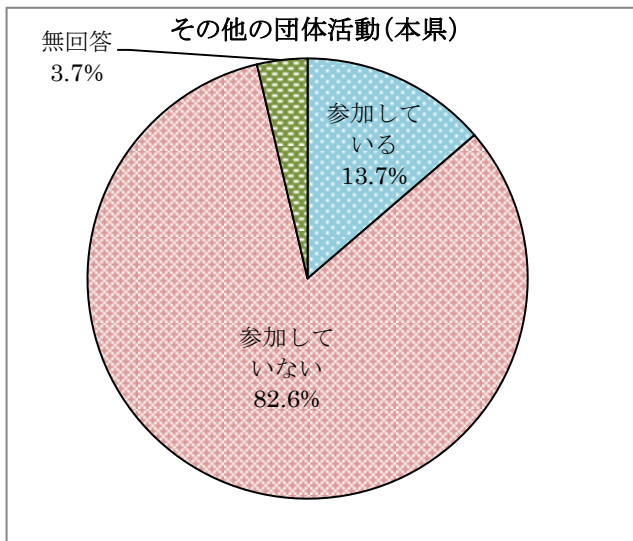
【本県 問3(1)】

a～dの項目への参加状況について選択。(SA)

- | | |
|----------|-----------|
| 1：週に3回以上 | 2：週に1～2回 |
| 3：月に2～3回 | 4：月に1回程度 |
| 5：年に数回程度 | 6：参加していない |

d その他の団体活動 …商工会、業種組合、宗教、政治等

【図46】



「参加している」…本県 13.7%、全国 6.0% 本県が 7.7 ポイント上回る。

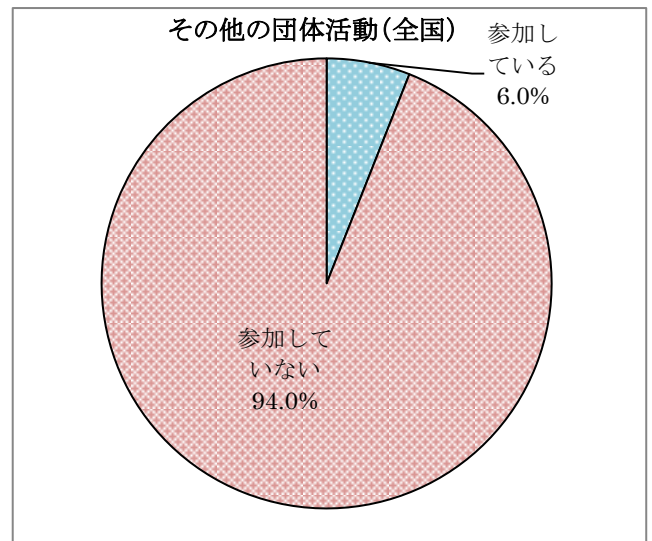
【全国】

1～4の項目について、活動の有無、及び「活動している」と回答した方のみ選択。(SA)

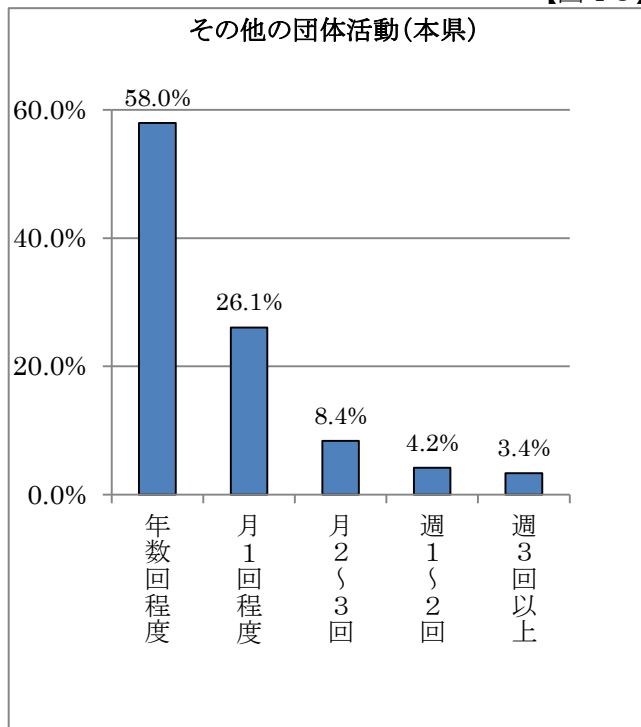
- | | |
|------------|----------|
| 1：年に数回程度 | 2：月に1日程度 |
| 3：月に2～3日程度 | 4：週に1日 |
| 5：週に2～3日 | 6：週に4日以上 |

4 その他の団体・活動 …商工会、業種組合、宗教、政治など

【図47】

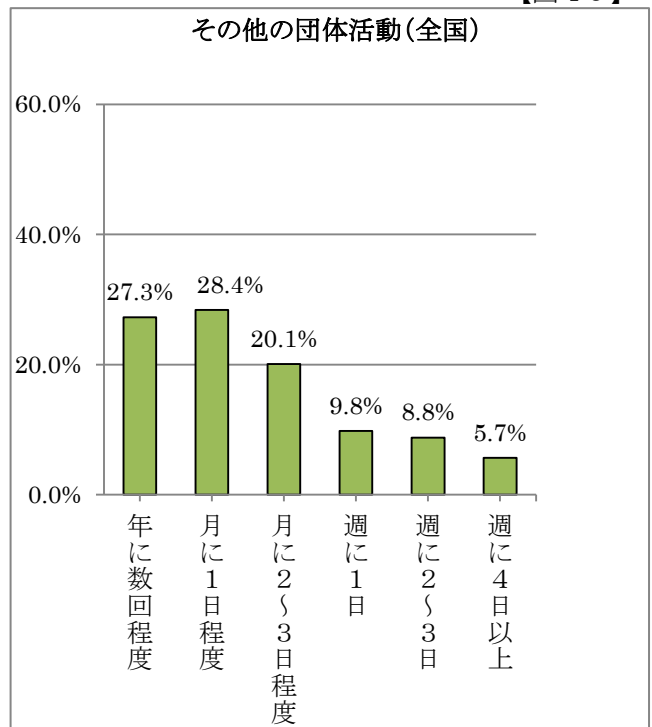


【図48】



「年数回程度」本県 58.0%：全国 27.3%
「月2～3回」本県 8.4%：全国 20.1%

【図49】



「月1回程度」本県 26.1%：全国 28.4%
「週1回以上の合計」本県 7.6%：全国 24.3%

5 ソーシャルキャピタルの醸成状況

(1) 単純集計から

- ① ほとんどの人（9割以上）が、人と直接会って話をしたり、一緒に活動したりする、いわゆる顔と顔の見える関係が大切だという意識が高い。
- ② ほとんどの人が、地域の人と挨拶を交わし、良好な付き合いができています。
- ③ ほとんどの人が、地域の人、または友人・知人等との交流があること
- ④ 地域の人には信頼できると感じている人は2割弱、一般的に人は信頼できると感じているのは1割強。
- ⑤ 地縁的な活動には6割弱の人が参加している。
- ⑥ グループやサークル活動には5割強の人が参加している。
- ⑦ ボランティア・NPO・市民活動には4割強の人が参加している。
- ⑧ 活動を通して、人のつながりができたと感じている人が多い。
- ⑨ 地域の祭り・イベント・伝統行事等には6.5割の人が参加している。
- ⑩ 交流するときに最も使われているのは公民館である。
- ⑪ 6割強の人が地域のまとまりを感じている。
- ⑫ 7割強の人が地域への愛着や誇りを感じている。
- ⑬ 8割以上が今の地域に住み続けたい（どちらかと言えば住み続けたい）と感じている。

(2) 全国調査との比較から

- ① 地域の人と生活面でも協力したり、日常的に立ち話をしたりする付き合いをする人は全国を上回っている。
- ② 友人・知人との付き合いが日常的にある人は、全国の割合を大きく上回っている。
- ③ 一般的に人は「信頼できる」と思っている人は、本県が全国を若干上回っている。
- ④ 地域活動に参加している人の割合は、すべての活動分野で、本県の方が全国よりも高い。
- ⑤ 地域活動への参加頻度（月1回以上にあたるすべての合計）は、すべての活動分野で全国の方が高い。

Ⅲ ソーシャル・キャピタルの醸成に関わるもの

ソーシャル・キャピタルの要素に関わる問いについて、醸成に影響を与えている要因がないかを分析した。

1 年代別との相関性

パットナムによるとネットワークでは家族や親族を超えた幅広い「弱い紐帯」を重視し、その中でも特に「直接顔を合わせるネットワーク」が核であるとしている。信頼では、「知っている人に対する厚い信頼」と「知らない人に対する薄い信頼」があるが、「薄い信頼」の方がより広い協調行動を促進することにつながり、ソーシャル・キャピタルの形成に役立つとしている。互酬性（相互依存的な互いの利益交換）の規範意識では、同等価値のものを同時に与え合う「均衡の取れた互酬性」と、現時点では不均衡でも将来均衡がとれるとの期待を元にした交換の持続的關係である「一般化された互酬性」があり、一般化された互酬性は短期的には相手の利益になることが多いが、長期的には当事者全員の効用を高めることにつながるとしている。

これらのことを踏まえ、本調査での以下の問いを取り上げて、相関性をみていくこととした。なお、互酬性の規範意識については、以下、「社会参加」と表現する。

- ・ネットワーク…問 1(2)地域の人とのつながり、問 1(3)地域の人との面識・交流、問 1(4)友人・知人との付き合い・交流
- ・信頼…問 2(1)地域の人への信頼、問 2(2)一般的な人への信頼
- ・社会参加（互酬性の規範意識）
 - …問 3(1)a 地縁的な活動への参加、b グループ・サークル活動への参加、c ボランティア・NPO・市民活動への参加

(1) 相関表から

相関表 I（年齢）

【表 5 0】

	問 1(2) 地域の人と の付き合い	問 1(3) 地域の人と の面識・交 流	問 1(4) 友人・知人 との付き合い・交流	問 2(1) 地域の人 への信頼	問 2(2) 一般的な 人への信 頼	問 3(1)a 地縁的な 活動	問 3(1)b グループ やサーク ル活動	問 3(1)c ボランティ ア・NPO・ 市民活動
問 5(2) Pearson の相関係数	.356**	.257**	-.105**	.131**	.171**	.372**	.356**	.139**
年代 有意確率（両側）	.000	.000	.002	.000	.000	.000	.000	.000
（年齢） 度数	851	851	854	846	845	839	840	832

**、相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。

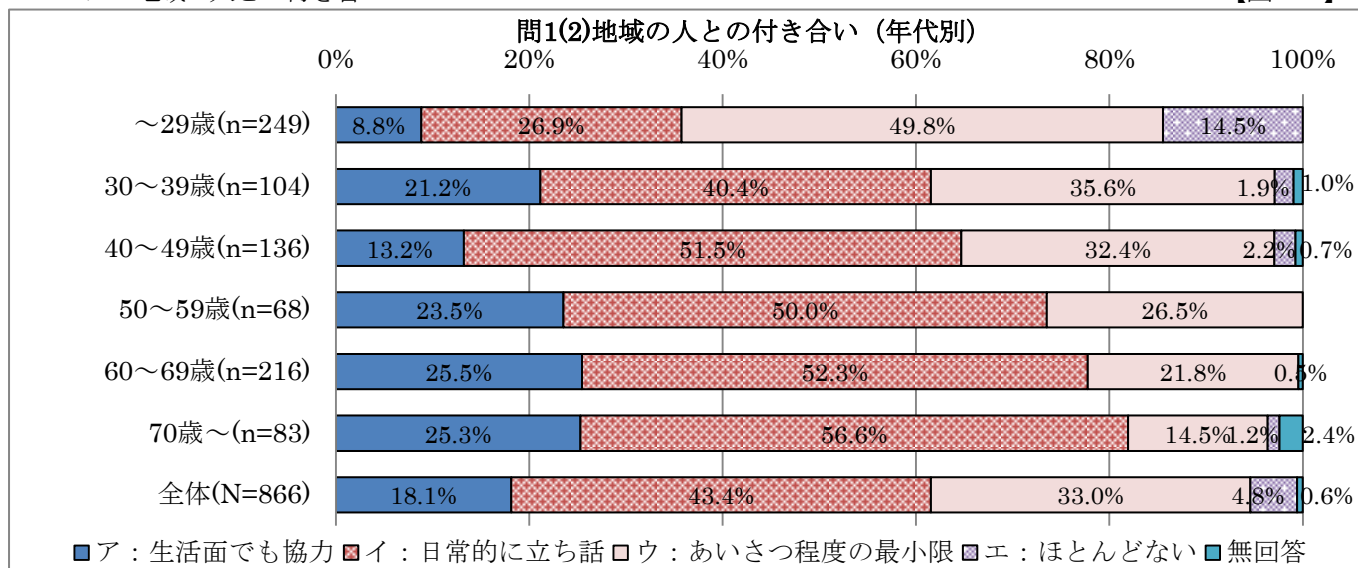
Pearson の相関係数から見ると、問 3(1)a との相関性が認められ、問 1(2)、問 3(1)b にも相関性がうかがえる。また問 1(3)にも相関性があるものと思われる。

(2) クロス集計から

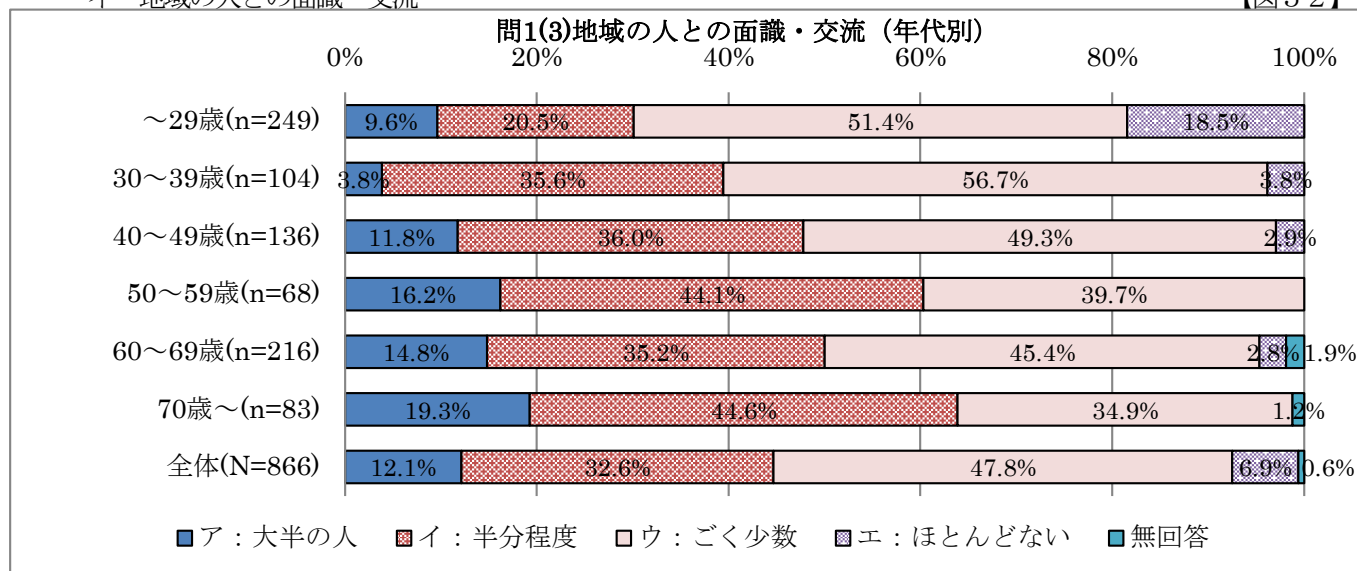
① ネットワーク

ア 地域の人との付き合い

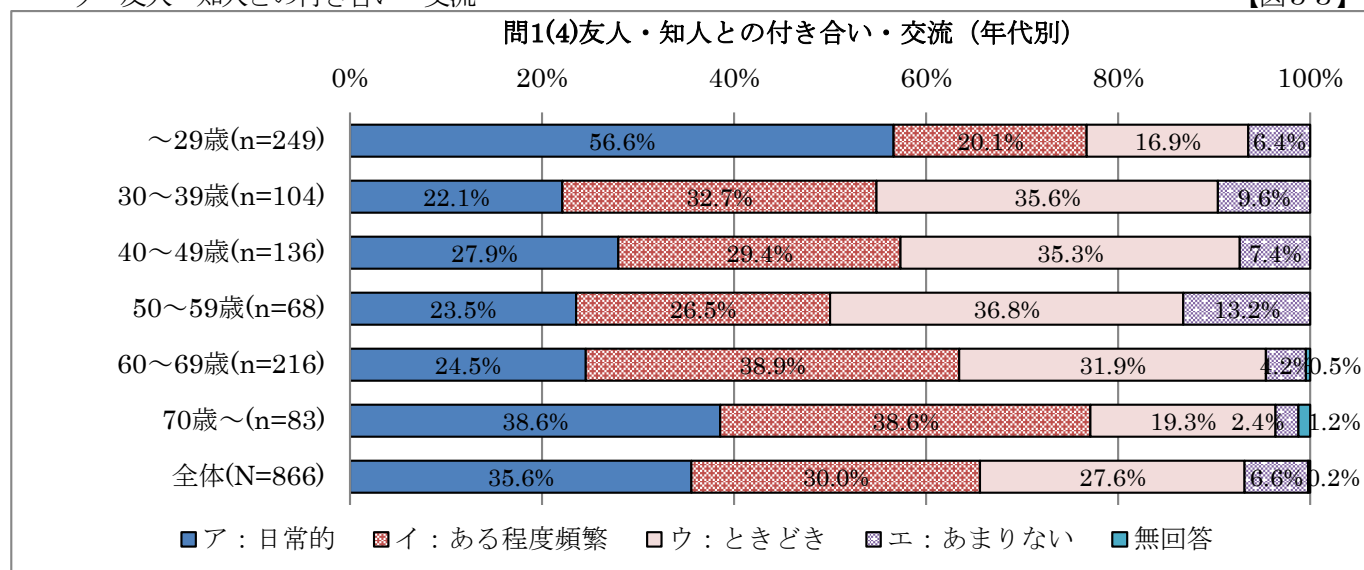
【図 5 1】



付き合いが深いと思われる「生活面でも協力」「日常的に立ち話」と回答した人の割合の合計では、年代が高くなるにつれて割合も高くなり、70歳以上が81.9%に上る。「ほとんどない」の割合は、29歳以下が最も高く、14.5%であった。



「大半の人」と「半分程度」と回答した人の割合の合計では、70歳以上が63.9%でもっとも高く、50～59歳が60.3%で続く。60～69歳が50.0%で前後の年代よりも落ち込むが、全体的には年代が高くなるにつれて割合も高くなる傾向が見られる。「ほとんどない」は29歳以下の18.5%が他の年代よりも高い割合である。

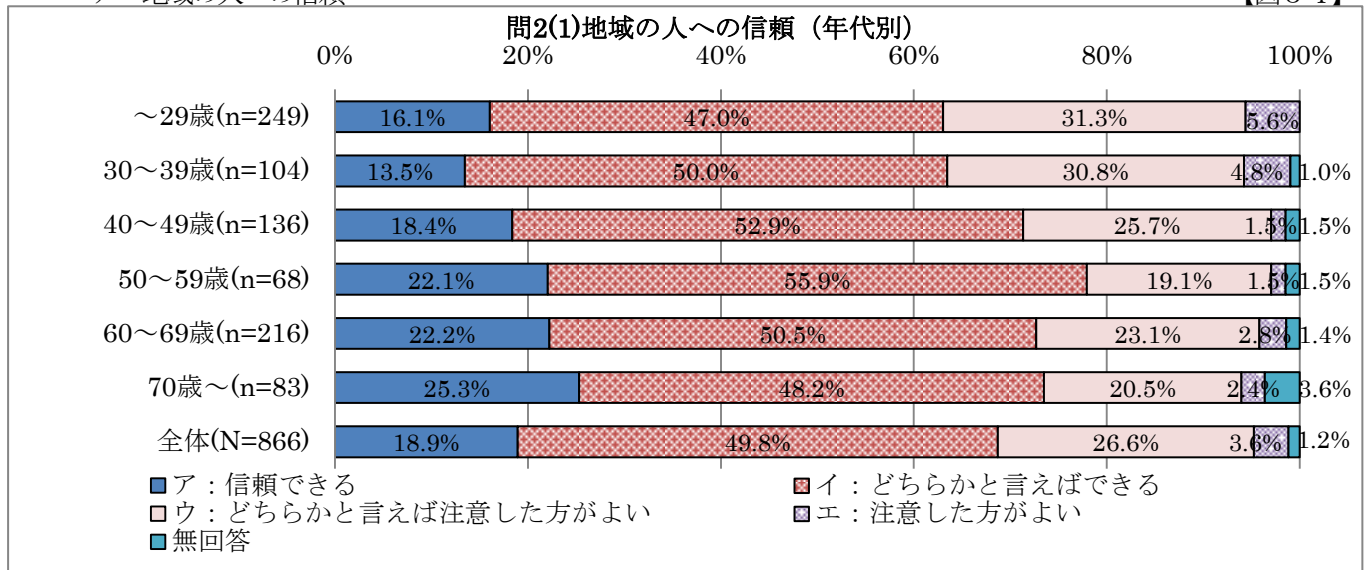


「日常的」または「ある程度頻繁」に友人・知人との付き合い・交流があると回答した人の割合が最も高かったのは、70歳以上の77.2%である。29歳以下の76.7%が続く。「あまりない」は50～59歳が13.2%で最も高い。

② 信頼

ア 地域の人への信頼

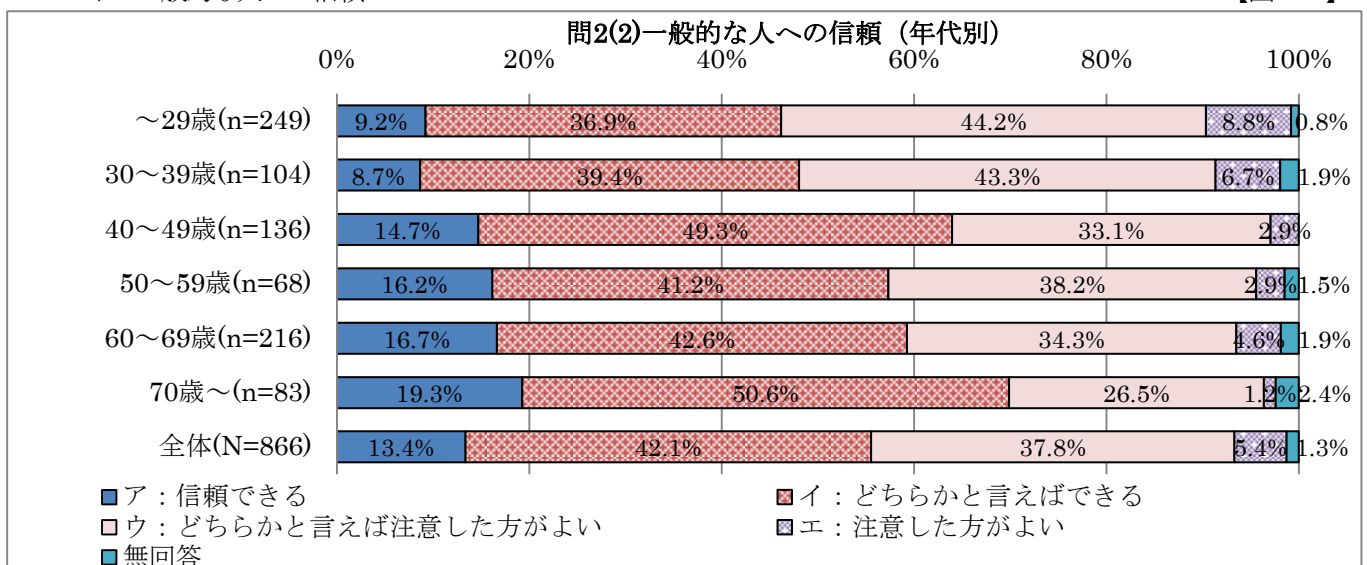
【図54】



「信頼できる」と回答した人の割合では、70歳以上が25.3%で最も高い。「信頼できる」「どちらかと言えばできる」の割合の合計では、50～59歳が78.0%で最も高い。「信頼できる」の29歳以下、「信頼できる」「どちらかと言えばできる」の割合の合計での50～59歳等、あてはまらない年代も見られるが、全体的には年代が高くなるにつれて割合も高くなる傾向が見られる。

イ 一般的な人への信頼

【図55】

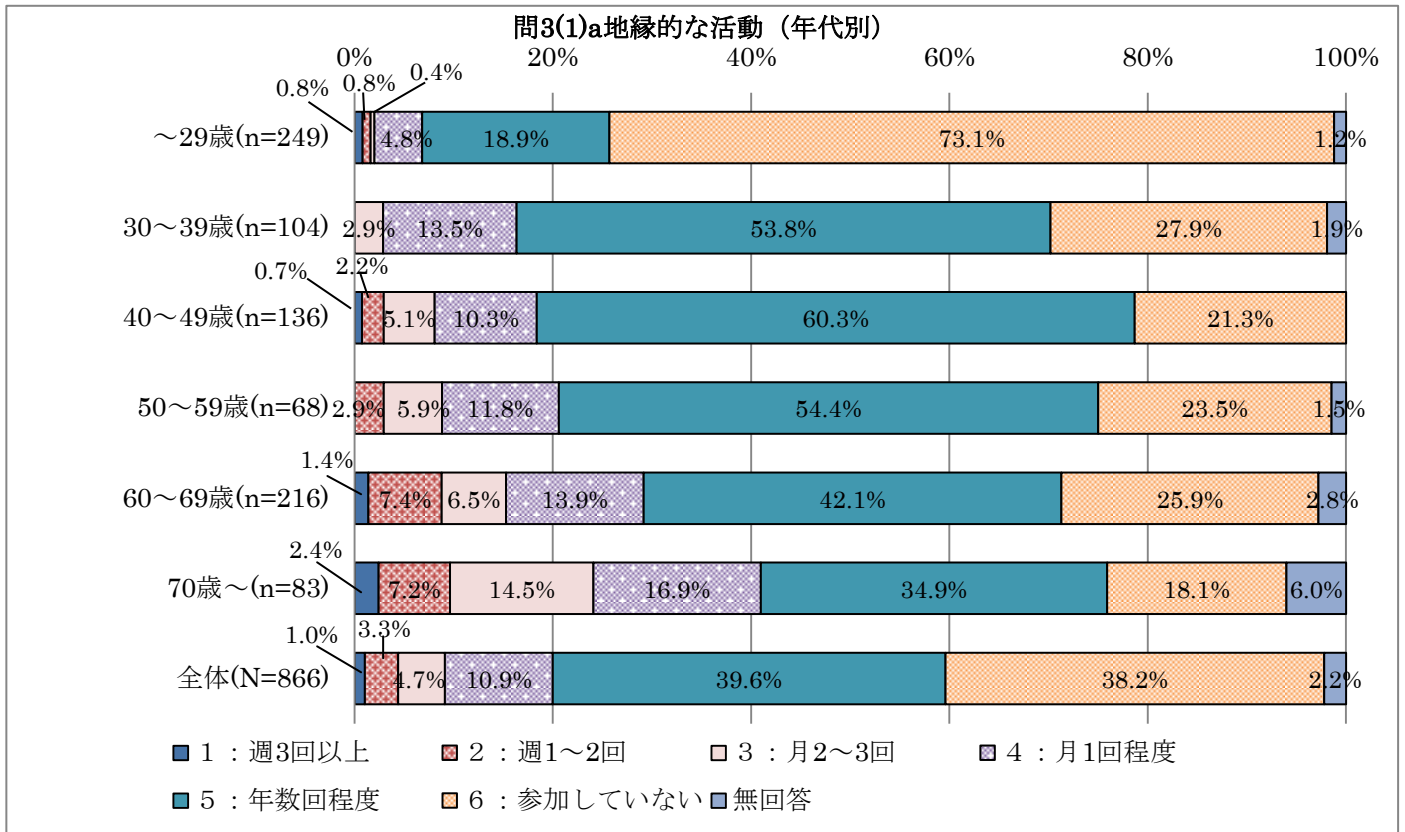


「信頼できる」と回答した人の割合では、70歳以上が19.3%で最も高い。「信頼できる」「どちらかと言えばできる」の割合の合計では、70歳以上69.9%が最も高く、40～49歳64.0%が続く。「信頼できる」の29歳以下、「信頼できる」「どちらかと言えばできる」の割合の合計での40～49歳等、あてはまらない年代も見られるが、全体的には年代が高くなるにつれて割合も高くなる傾向が見られる。

③ 社会参加

ア 地縁的な活動

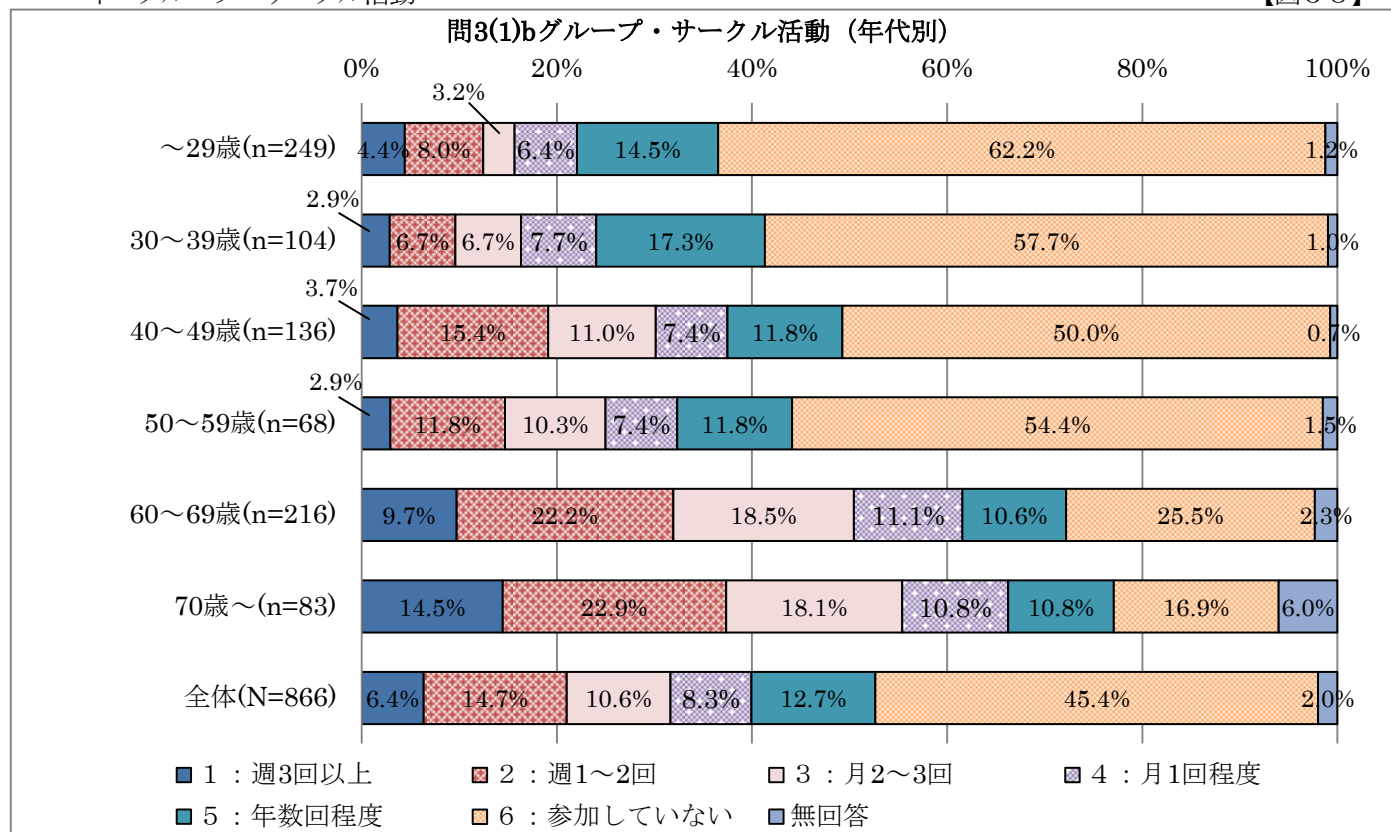
【図56】



【表57】

	週3回以上	週1～2回	月2～3回	月1回程度	年数回程度	参加していない	無回答
～29歳(n=249)	0.8%	0.8%	0.4%	4.8%	18.9%	73.1%	1.2%
30～39歳(n=104)	0.0%	0.0%	2.9%	13.5%	53.8%	27.9%	1.9%
40～49歳(n=136)	0.7%	2.2%	5.1%	10.3%	60.3%	21.3%	0.0%
50～59歳(n=68)	0.0%	2.9%	5.9%	11.8%	54.4%	23.5%	1.5%
60～69歳(n=216)	1.4%	7.4%	6.5%	13.9%	42.1%	25.9%	2.8%
70歳～(n=83)	2.4%	7.2%	14.5%	16.9%	34.9%	18.1%	6.0%
全体(N=866)	1.0%	3.3%	4.7%	10.9%	39.6%	38.2%	2.2%

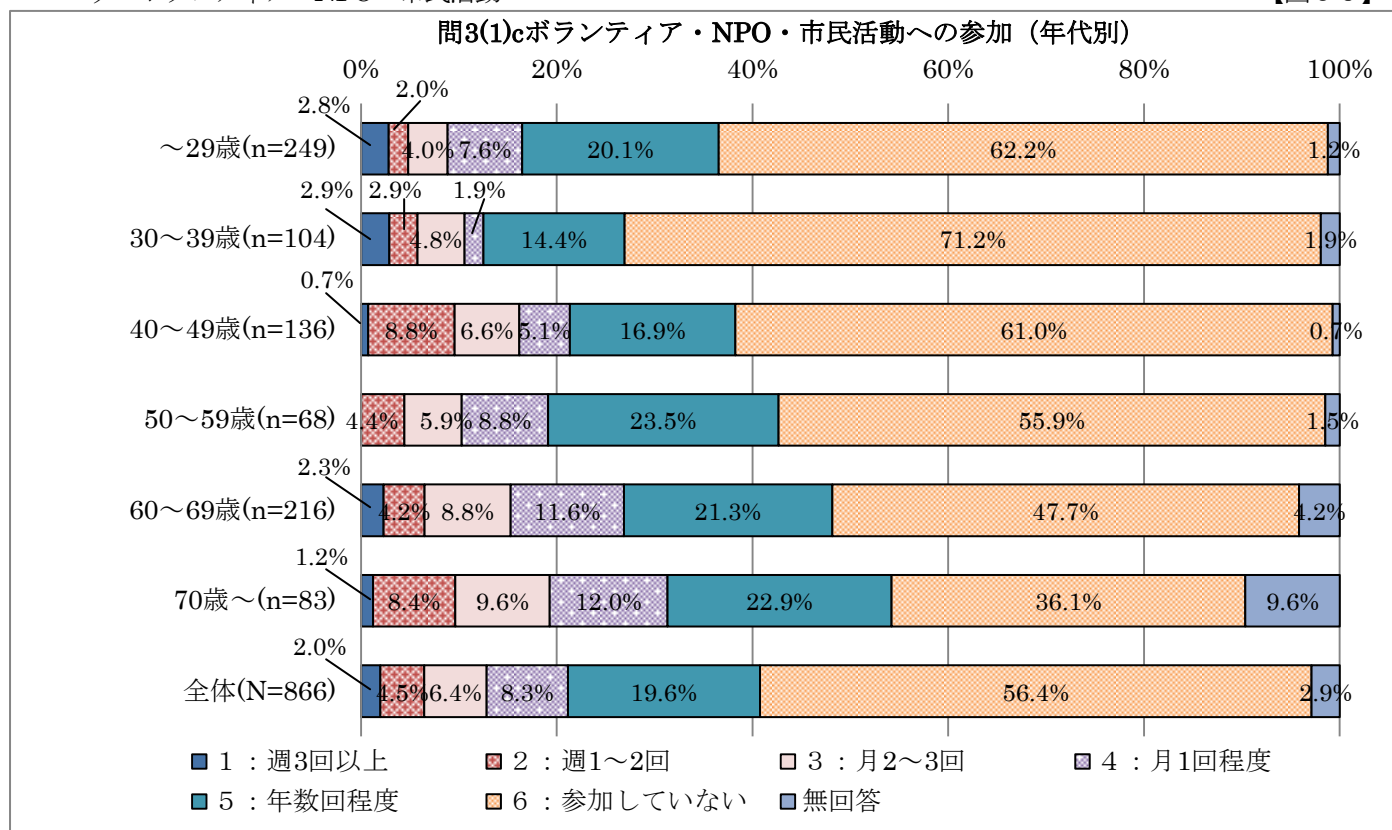
地縁的な活動に参加していると回答した人の割合（1：週3回以上～5：年数回程度の合計）を見ると、40～49歳が78.0%で最も高い。月1回以上（1：週3回以上～4：月1回程度）参加していると回答している割合は、年代が高くなるにつれて割合も高くなり、70歳以上は41.0%である。



【表59】

	週3回以上	週1～2回	月2～3回	月1回程度	年数回程度	参加していない	無回答
～29歳(n=249)	4.4%	8.0%	3.2%	6.4%	14.5%	62.2%	1.2%
30～39歳(n=104)	2.9%	6.7%	6.7%	7.7%	17.3%	57.7%	1.0%
40～49歳(n=136)	3.7%	15.4%	11.0%	7.4%	11.8%	50.0%	0.7%
50～59歳(n=68)	2.9%	11.8%	10.3%	7.4%	11.8%	54.4%	1.5%
60～69歳(n=216)	9.7%	22.2%	18.5%	11.1%	10.6%	25.5%	2.3%
70歳～(n=83)	14.5%	22.9%	18.1%	10.8%	10.8%	16.9%	6.0%
全体(N=866)	6.4%	14.7%	10.6%	8.3%	12.7%	45.4%	2.0%

グループ・サークル活動に参加していると回答した人の割合（1：週3回以上～5：年数回程度の合計）は、50～59歳が前後の年代よりも若干落ち込むが、全体的には年代が高くなるにつれて割合も高くなり、70歳以上が77.1%で最も高くなる。



【表61】

	週3回以上	週1～2回	月2～3回	月1回程度	年数回程度	参加していない	無回答
～29歳(n=249)	2.8%	2.0%	4.0%	7.6%	20.1%	62.2%	1.2%
30～39歳(n=104)	2.9%	2.9%	4.8%	1.9%	14.4%	71.2%	1.9%
40～49歳(n=136)	0.7%	8.8%	6.6%	5.1%	16.9%	61.0%	0.7%
50～59歳(n=68)	0.0%	4.4%	5.9%	8.8%	23.5%	55.9%	1.5%
60～69歳(n=216)	2.3%	4.2%	8.8%	11.6%	21.3%	47.7%	4.2%
70歳～(n=83)	1.2%	8.4%	9.6%	12.0%	22.9%	36.1%	9.6%
全体(N=866)	2.0%	4.5%	6.4%	8.3%	19.6%	56.4%	2.9%

ボランティア・NPO・市民活動に参加している（1：週3回以上～5：年数回程度の合計）と回答した割合は、70歳以上が54.2%で最も高い。

2 居住年数との相関性

取り上げる問いは年代別と同じである。

(1) 相関表から

相関表Ⅱ (居住年数)

【表 6 2】

	問 1(2) 地域の人と の付き合い	問 1(3) 地域の人と の面識・交 流	問 1(4) 友人・知人と の付き合い・交流	問 2(1) 地域の人へ の信頼	問 2(2) 一般的な人 への信頼	問 3(1)a 地 縁的な活動	問 3(1)b グループや サークル活 動	問 3(1)c ボランティ ア・NPO・ 市民活動
問 5 (5) Pearson の 居住年数 相関係数	.283**	.337**	-.036	.159**	.139**	.223**	.187**	.085*
有意確率 (両側)	.000	.000	.301	.000	.000	.000	.000	.015
度数	843	844	846	839	838	831	833	825

**．相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。

*．相関係数は 5% 水準で有意（両側）です。

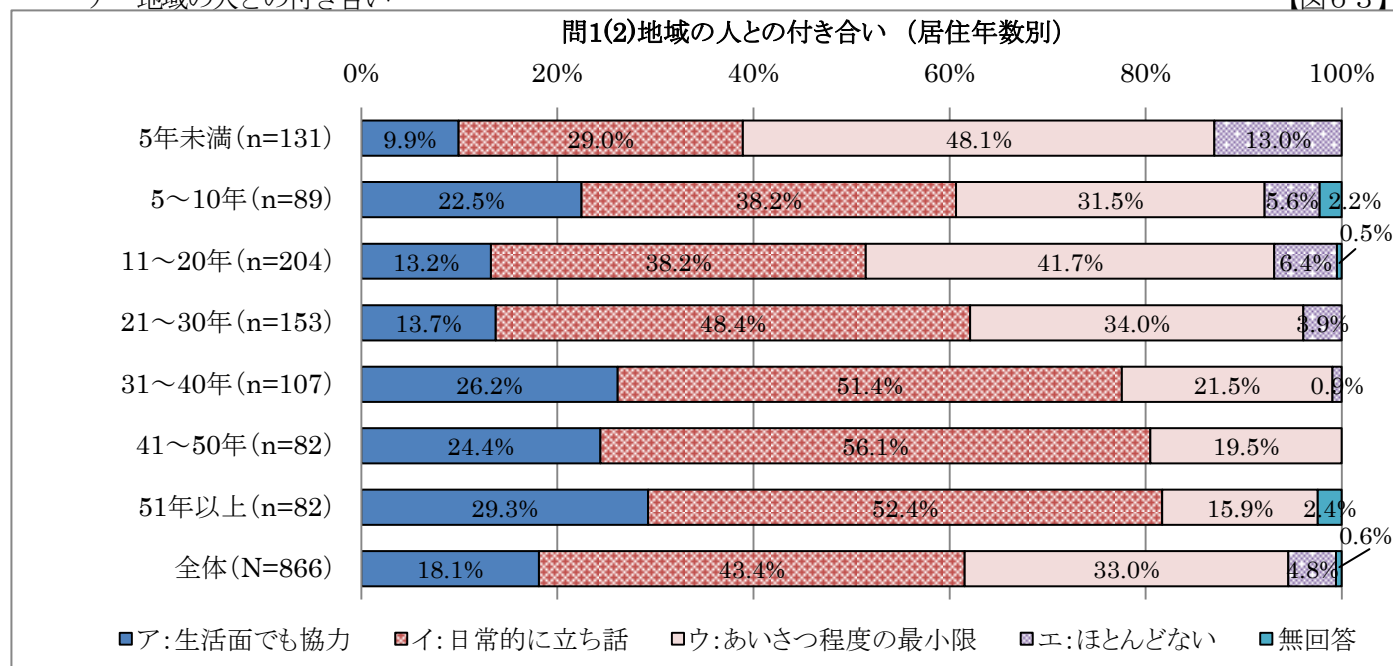
Pearson の相関係数から、問 1(3)との相関が最も認められ、問 1(2)、問 3(1) a にも相関がうかがえる。したがって、ネットワークや社会参加については、年齢が高い人、居住年数が長い人に醸成されているという傾向があることが想定できる。

(2) クロス集計から

① ネットワーク

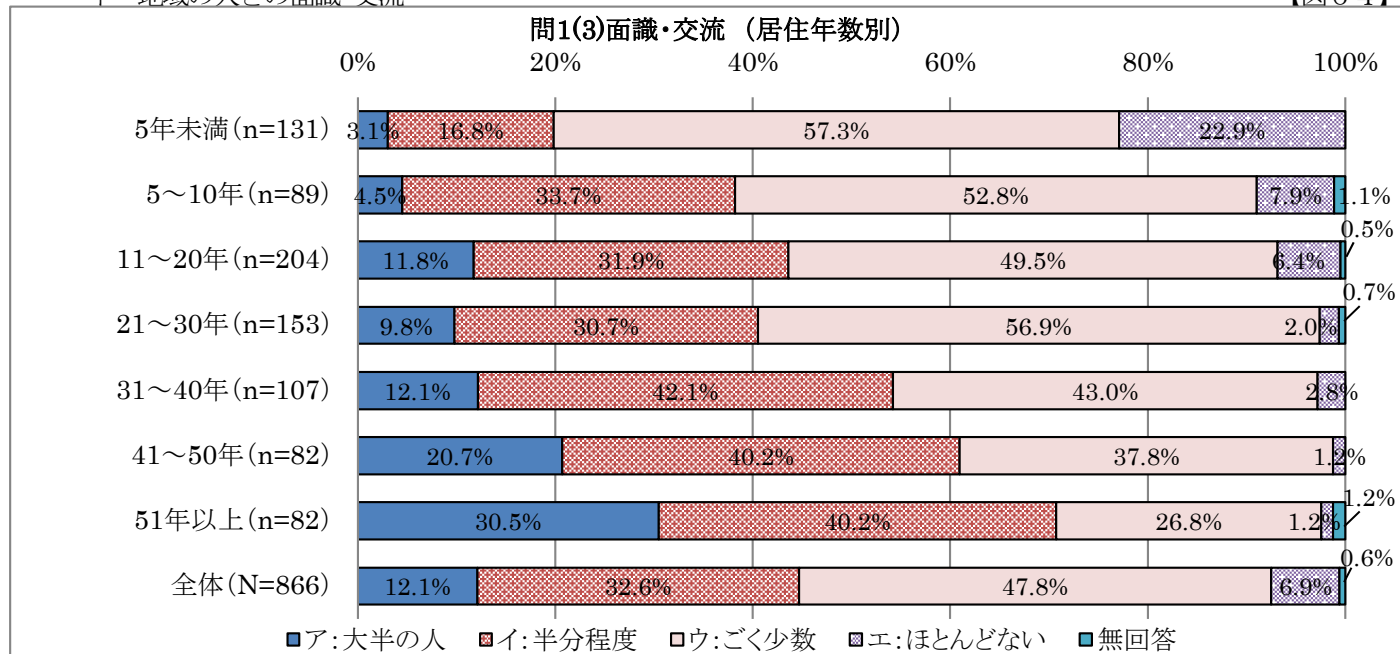
ア 地域の人との付き合い

【図 6 3】

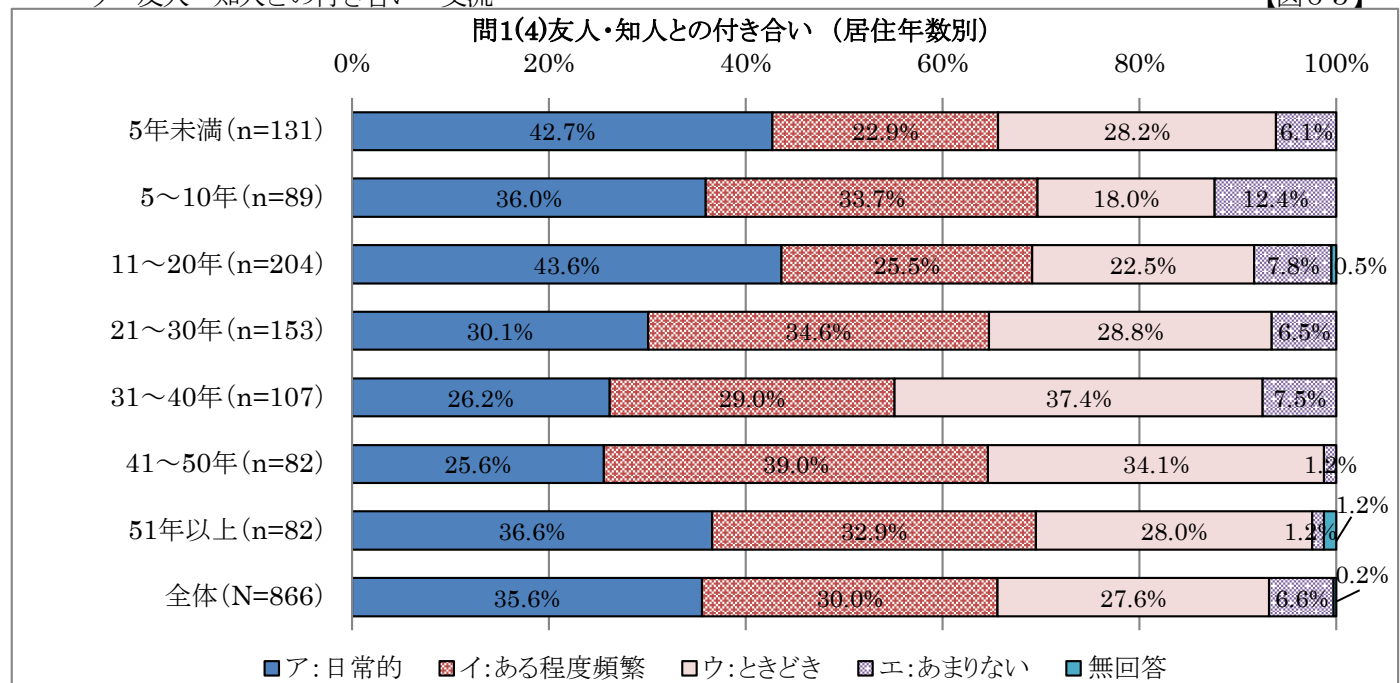


「生活面でも協力」「日常的に立ち話」の合計で見ると、11～20年以降、居住年数が長いほど割合が高くなる。「ほとんどない」は居住年数が長くなるほど割合が低くなり 41～50年以降はいなかった。

5～10年では、「生活面でも協力」が 22.5%、「生活面でも協力」「日常的に立ち話」の合計は 60.7%で、5年未満、11年～20年よりも高い割合である。



「大半の人」「半分程度」の割合で見ると、11～20年は43.7%で21～30年の40.5%よりも3.2ポイント高くなるが、全体的には年代が高くなるにつれて割合も高くなる傾向が見られる。

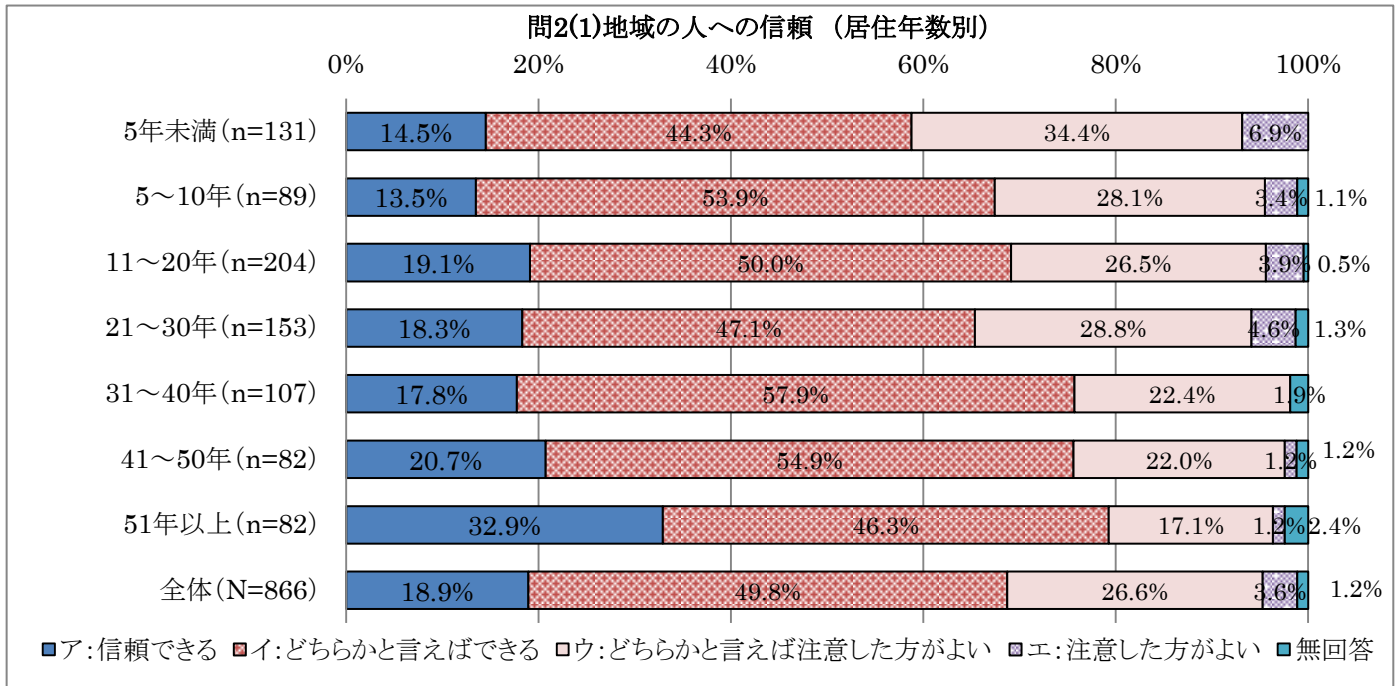


「日常的」は11～20年が最も高く、43.6%、続いて5年未満が42.7%である。「日常的」「ある程度頻繁」の合計で見ると31～40年が55.2%で最も低い。「あまりない」は5～10年が12.4%で最も高い。

② 信頼

ア 地域の人への信頼

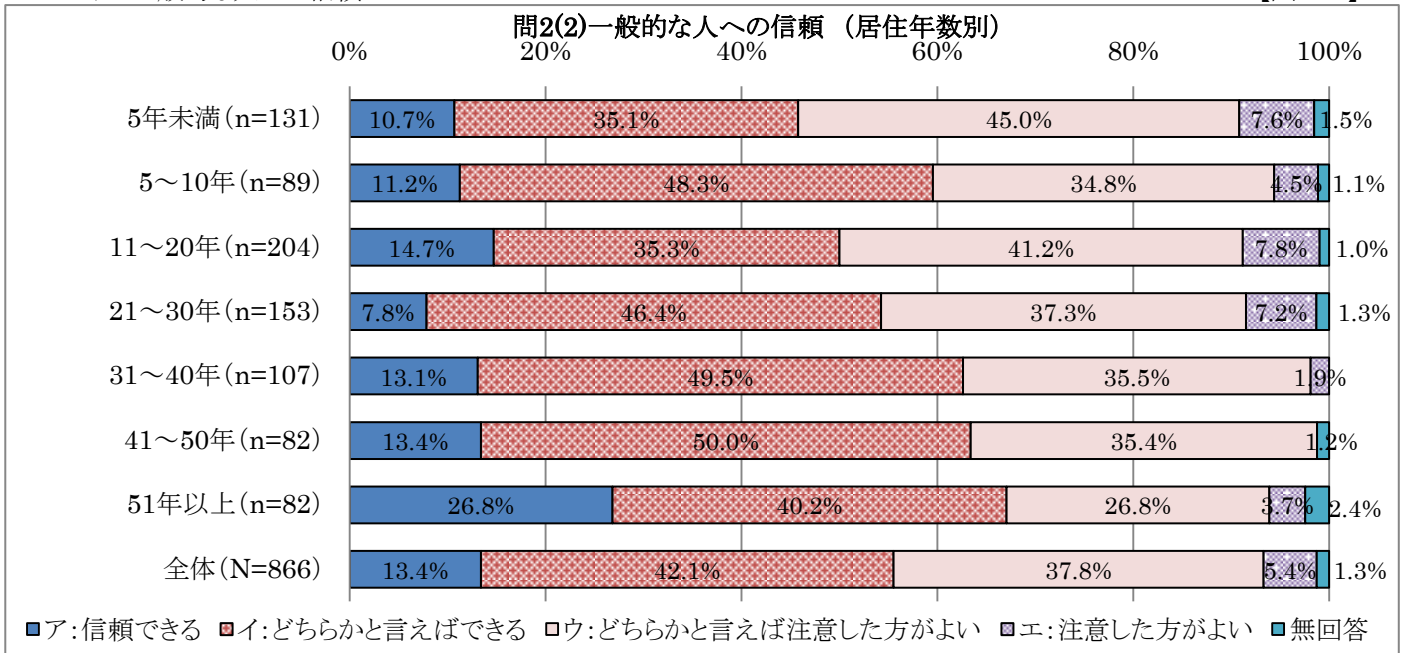
【図 6 6】



「信頼できる」「どちらかと言えばできる」の合計でみると、最も高いのは51年以上で79.2%である。21～30年、41～50年等、完全には当てはまらないが、全体的には年代が高くなるにつれて割合は高くなる傾向が見られる。

イ 一般的な人への信頼

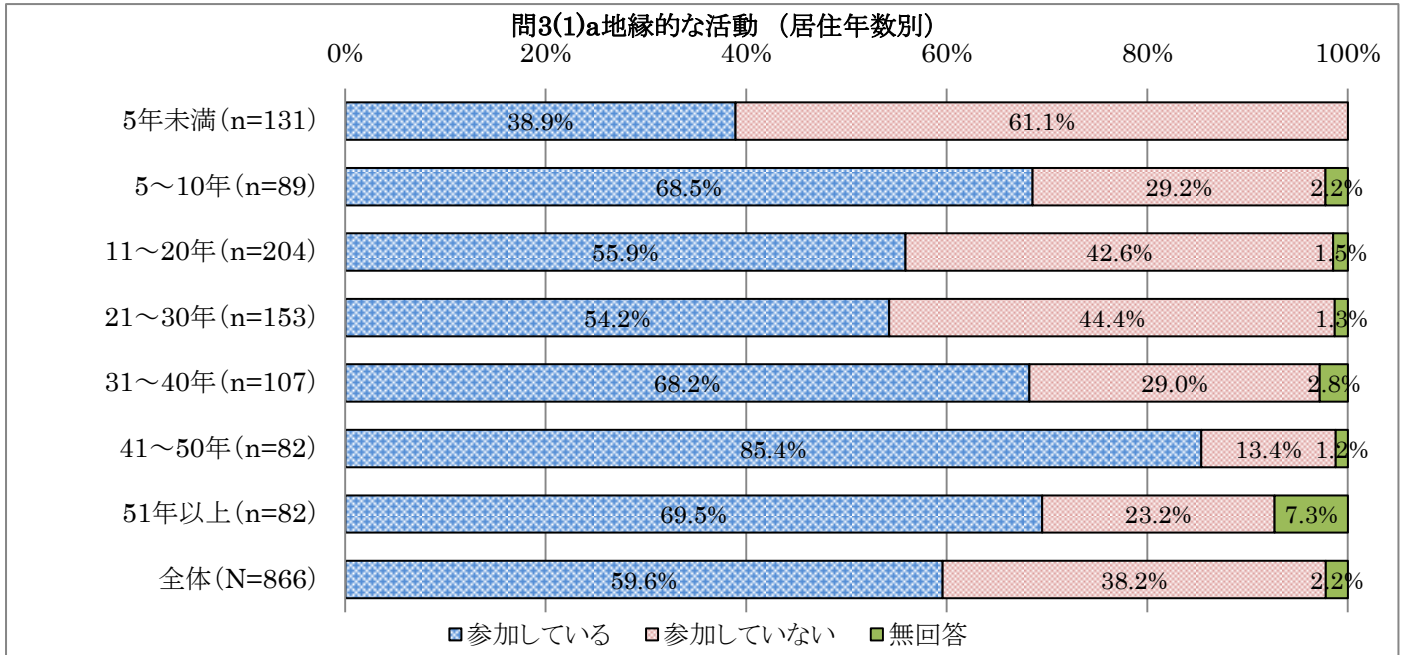
【図 6 7】



「信頼できる」「どちらかと言えばできる」と回答した人の割合の合計では、51年以上が最も高く67.0%である。5～10年は当てはまらないが、全体的には居住年数が長いほど、割合は高くなる傾向が見られる。

③ 社会参加
ア 地縁的な活動

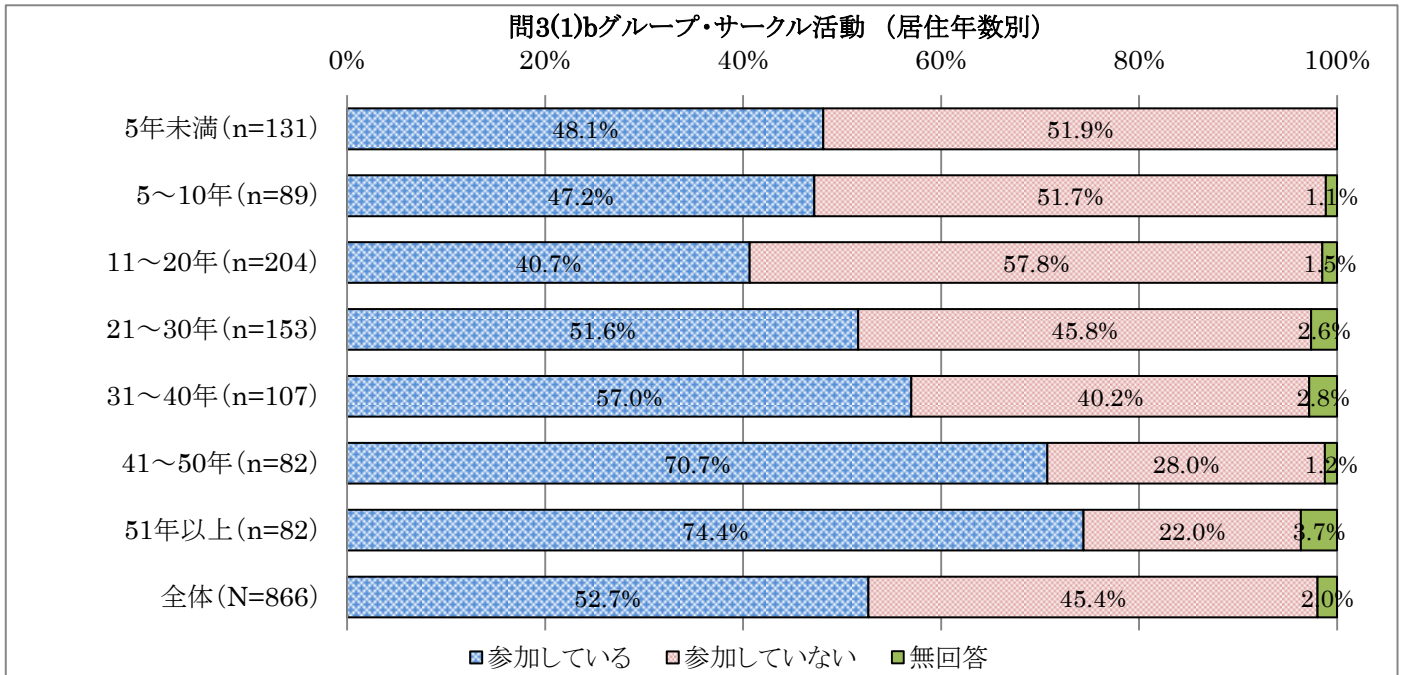
【図68】



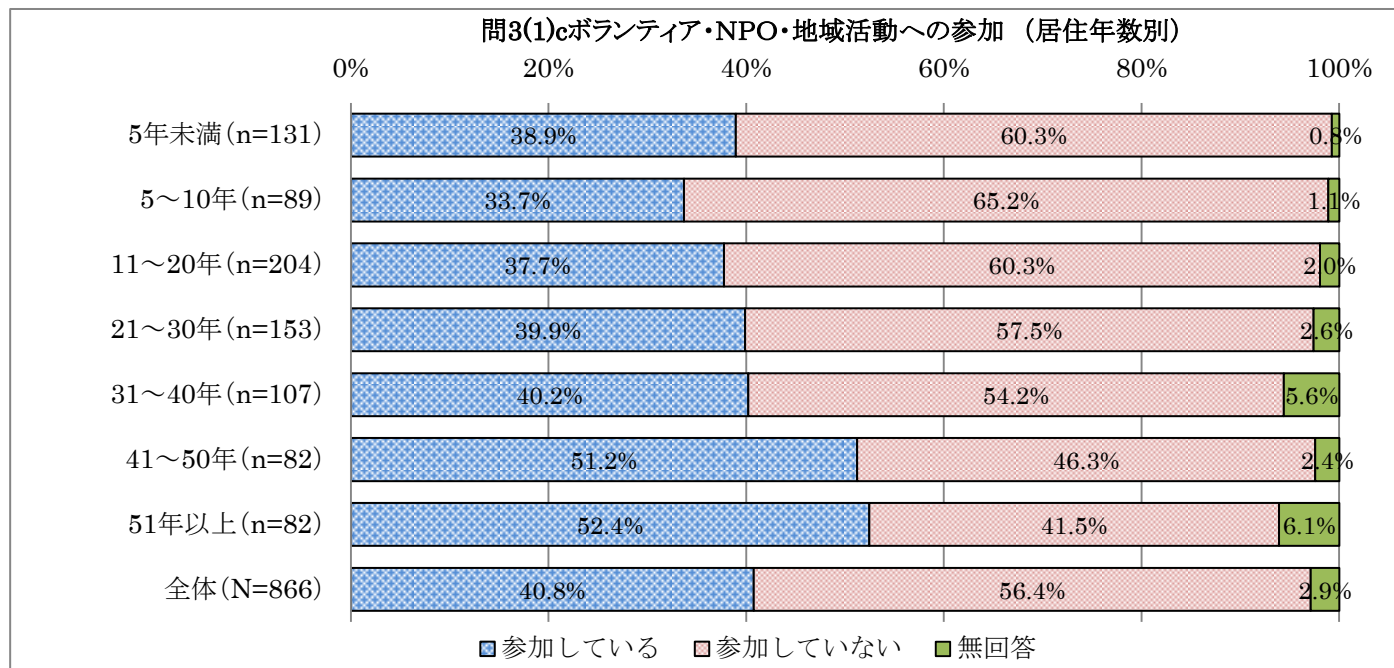
参加しているという回答の割合は、41～50年が85.4%と最も高い。続いて5～10年が68.5%である。最も低いのは5年未満で38.9%である。21～30年から31～40年は14.0ポイント高くなり、31～40年から41～50年は17.2ポイント高くなる。しかし、41～50年から51年以上では、15.9ポイント低くなる。

イ グループ・サークル活動

【図69】



参加しているという回答の割合は、11～20年が最も低く40.7%である。11～20年以降は居住年数が長くなるにつれて参加の割合も高くなり、51年以上では、74.4%で最も高い。



参加しているという回答の割合が最も高かったのは51年以上で52.4%である。5年未満は当てはまらないが、全体的に居住年数が長くなるにつれて参加している割合も高くなる傾向が見られる。

3 同居家族との相関性

(1) 相関表から

同居家族男女別、配偶者、子どもとの同居の有無と各問いとの相関表を示す。上段が男性、下段が女性である。

相関表で取り上げる問いは、年代別、居住年数と同じである。

相関表Ⅲ (同居家族)

【表 7 1】

		問 1(2) 地域の 人との付き合い	問 1(3) 地域の人と の面識・交流	問 1(4) 友人・知人と の 付 き 合 い・交流	問 2(1) 地域の人 は信頼できる か	問 2(2) 一般的に人 は信頼できる か	問 3(1)a 地縁的な活 動	問 3(1)b グループや サークル活 動	問 3(1)c ボランティ ア・NPO・ 市民活動
ア:配偶者 (男性)	Pearson の 相関係数 有意確率 (両側) 度数	.324** .000 316	.190** .001 315	-.105 .063 316	.165** .003 312	.162** .004 314	.343** .000 312	.206** .000 310	.116* .041 310
イ:子ども (男性)	Pearson の 相関係数 有意確率 (両側) 度数	.105 .063 316	.065 .252 315	-.174** .002 316	.131* .021 312	.106 .061 314	.213** .000 312	.080 .160 310	.090 .112 310
ア:配偶者 (女性)	Pearson の 相関係数 有意確率 (両側) 度数	.173** .000 534	.231** .000 536	-.167** .000 537	.057 .187 533	.114** .009 531	.191** .000 525	.180** .000 529	.046 .298 521
イ:子ども (女性)	Pearson の 相関係数 有意確率 (両側) 度数	.200** .000 534	.170** .000 536	-.158** .000 537	-.021 .622 533	.012 .784 531	.243** .000 525	-.030 .498 529	.002 .961 521

**．相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。

*．相関係数は 5% 水準で有意（両側）です。

相関表より、Pearson の相関係数から、男性では配偶者との同居の有無と問 3(1)a が最も認められ、問 1(2)がそれに続く。子どもとの同居の有無では、問 3(1)a に相関性が認められる。

女性では配偶者との同居の有無と問 1(3)に相関性が認められる。子どもとの同居の有無では、問 3(1)a に相関性が認められる。

(2) クロス集計から

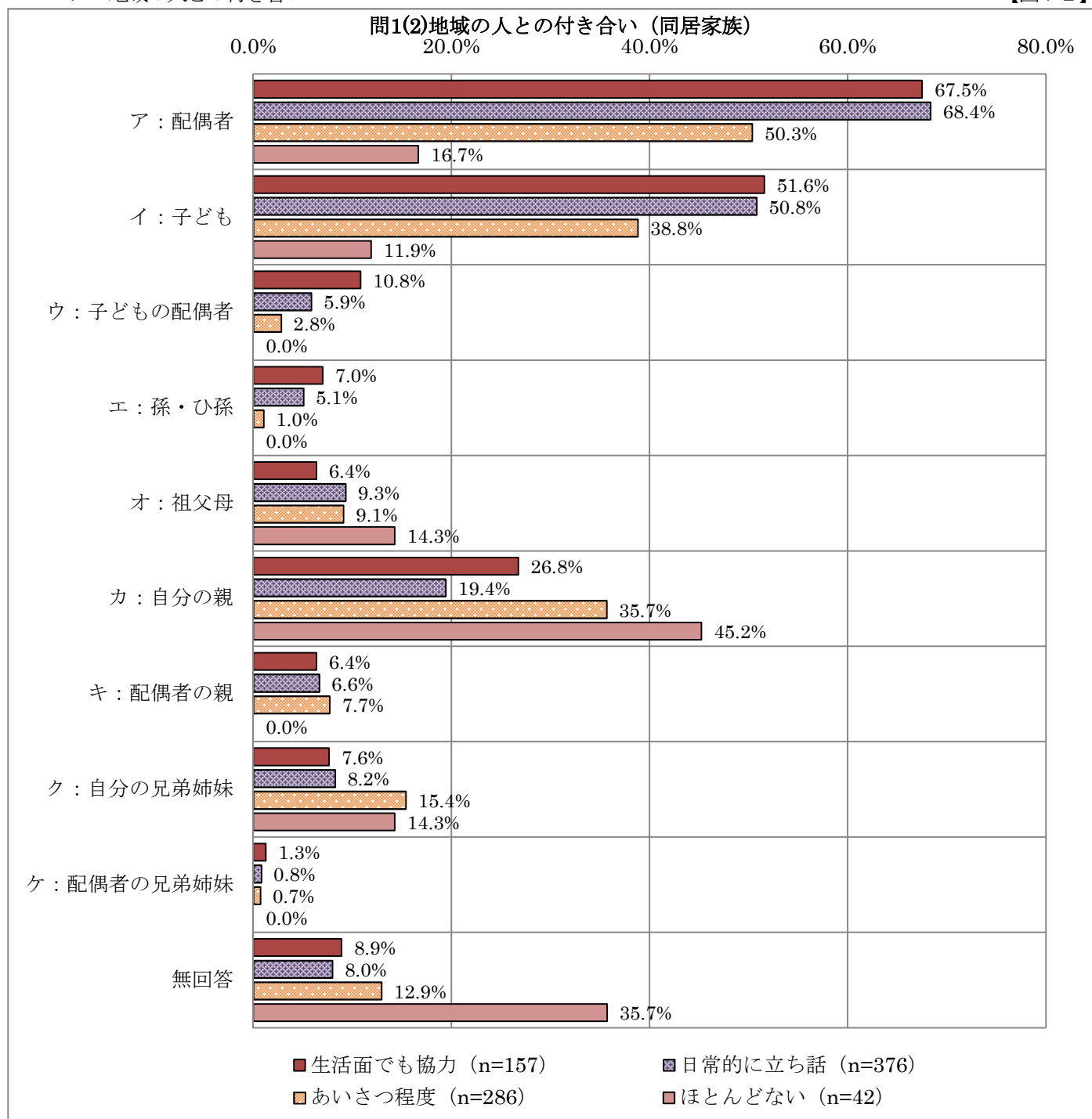
取り上げる問いは、相関から見た相関性の認められるものを中心に、以下の問いとした。

- ・ネットワーク …問 1(2)地域の人との付き合い、問 1(3)地域の人との面識・交流
- ・信頼 …問 2(2)一般的な人への信頼
- ・社会参加 …問 3(1)a 地縁的な活動への参加、問 3(1)c ボランティア・NPO・市民活動への参加

① ネットワーク

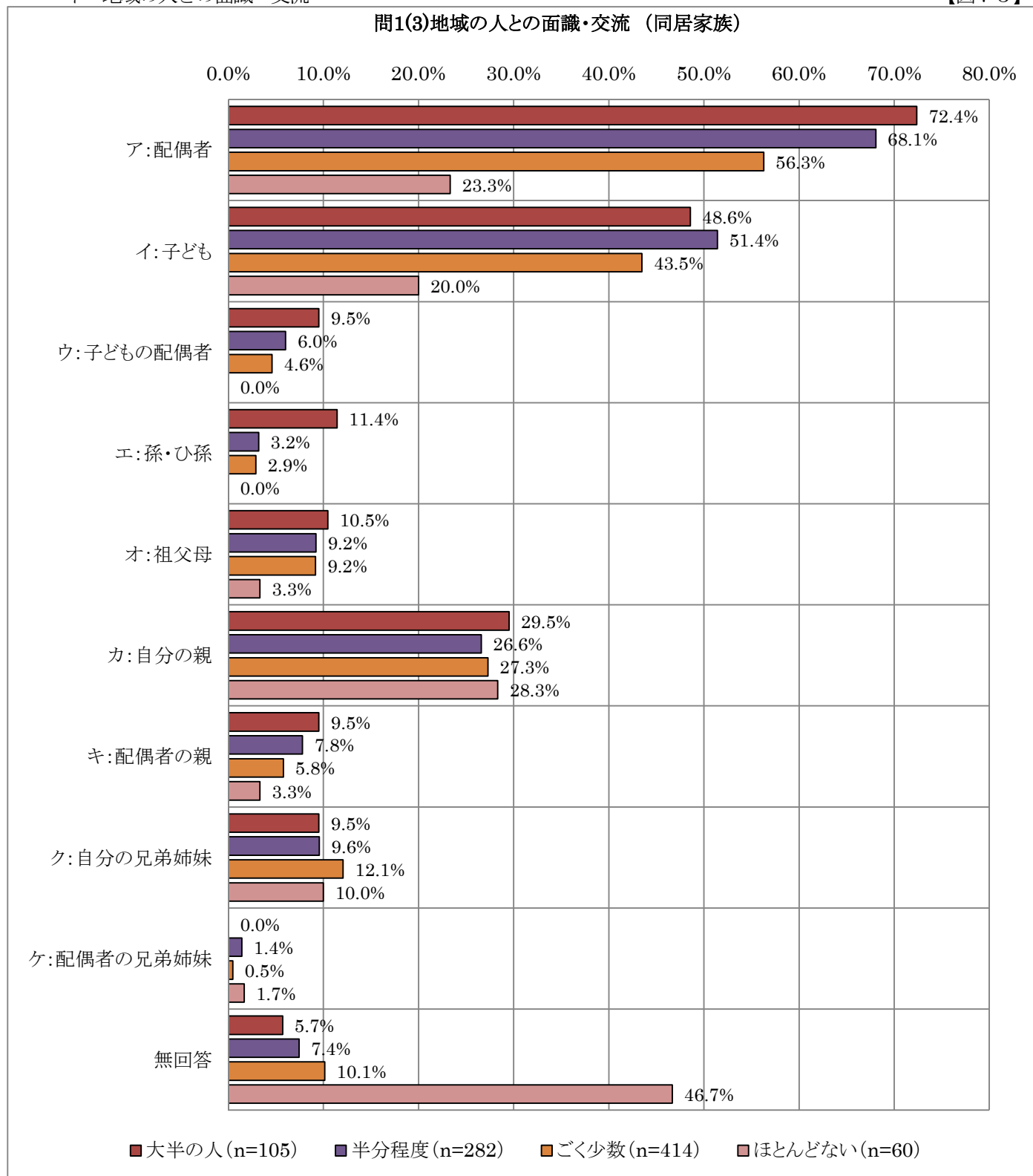
ア 地域の人との付き合い

【図 7 2】



地域の人との付き合いについて、同居家族とのクロス集計を行ったグラフである。これを見ると、最も付き合いが深いと考えた「生活面でも協力」していると回答した人は、67.5%が配偶者と同居しており、51.6%は子どもと同居していると回答している。

「ほとんど」付き合いがない人の特徴としては、配偶者との同居は16.7%、子どもとの同居は11.9%であった。また、自分の親との同居では45.2%で、「生活面でも協力」「日常的に立ち話」と回答した人よりも、高い割合である。さらに、無回答が35.7%となっている、今回の選択肢の中では、独り暮らし・同居していない等がなかったため、それらに該当する回答者は無回答となっている割合も高いと考えられる。



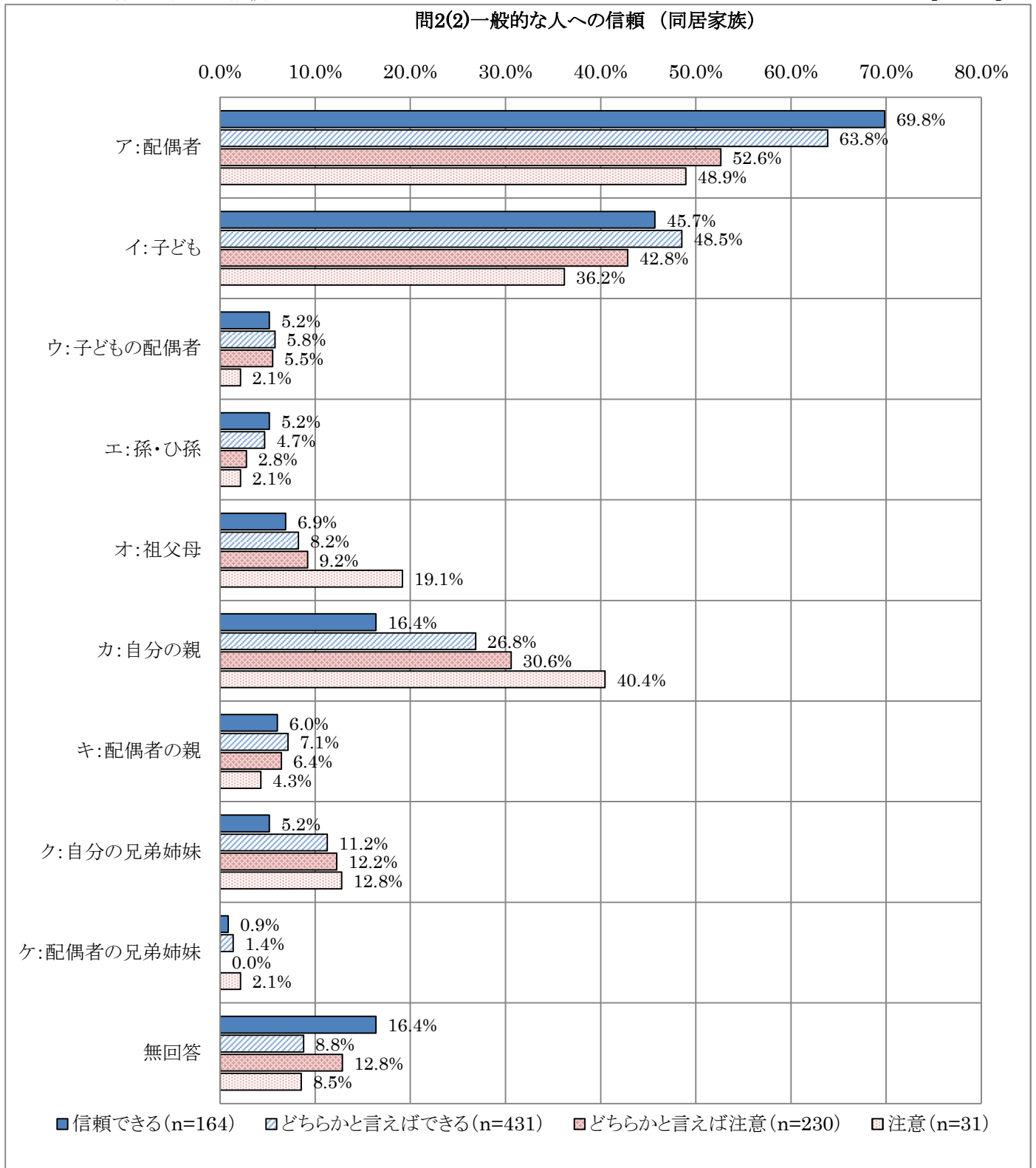
地域の人との面識・交流についても、「大半の人」との付き合いがあると回答した人は72.4%が配偶者との同居、48.6%が子どもとの同居と回答している。それに対して「ほとんどない」と回答した人は、「無回答」が46.7%と半数近くに上っている。

したがって、ネットワークの要素となる人とのつながりを作る要因の1つとして、家族との同居の有無が考えられる。

② 信頼

ア 一般的な人への信頼

【図 7 4】

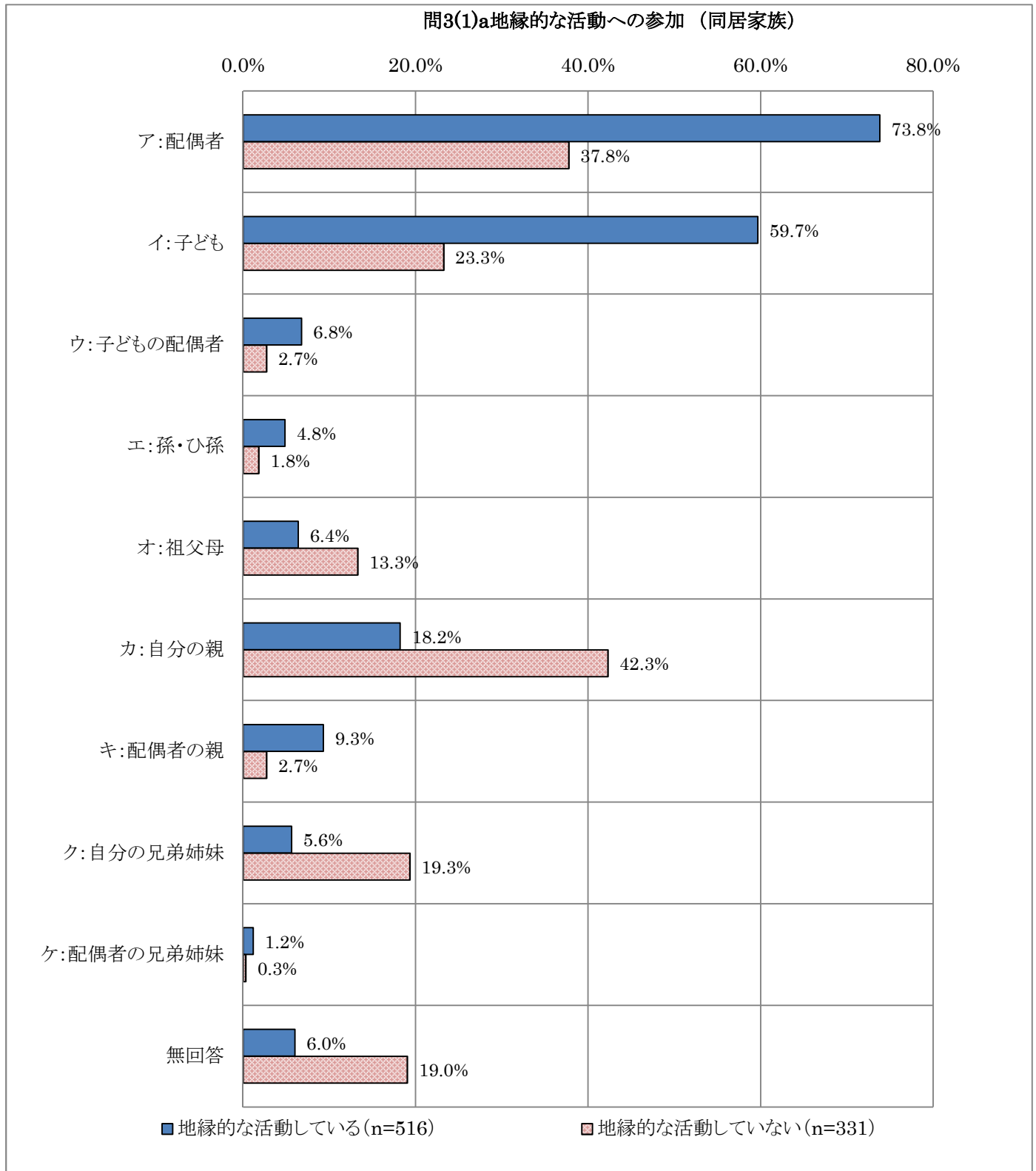


一般的な人への信頼とのクロス集計結果である。「信頼できる」と回答した人のうち、69.8%は配偶者と同居しており、子どもとの同居は 45.7%である。「注意」と回答した人では配偶者との同居は 48.9%で、子どもとの同居は 36.2%で「信頼できる」と比べて低い割合である。また、「注意」と回答した人の 40.4%は自分の親と同居していると回答しており、「信頼できる」の 16.4%と比べて約 2.5 倍である。無回答での特徴はあまり見られない。

③ 社会参加

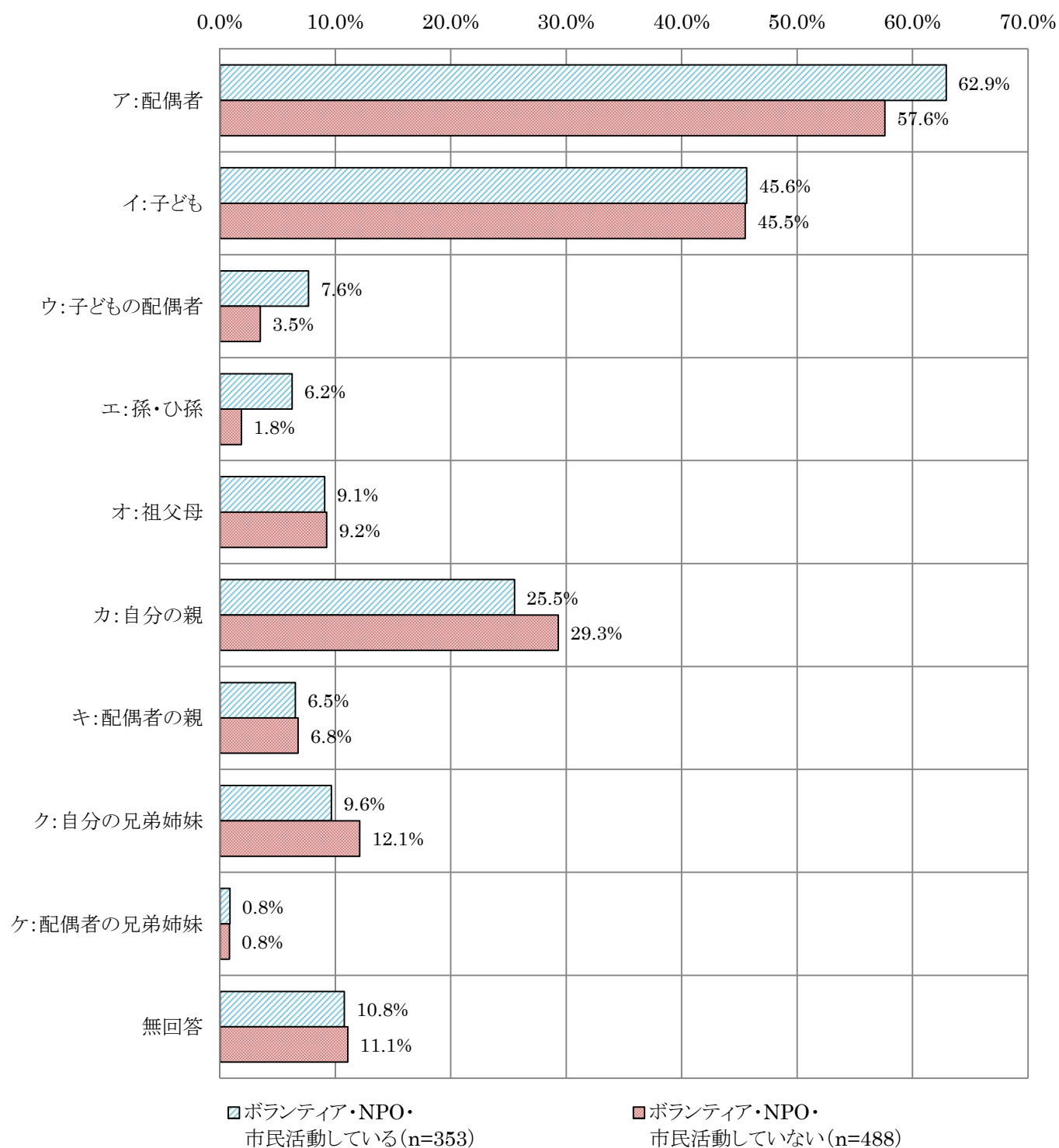
ア 地縁的な活動への参加

【図 7 5】



地縁的な活動への参加とのクロス集計結果である。地縁的な活動をしている人では配偶者との同居は73.8%、子どもとの同居は59.7%である。地縁的な活動をしていない人では配偶者との同居は37.8%、子どもとの同居は23.3%でいずれも活動している人を大きく下回っている。また、地縁的な活動をしていない人は自分の親と同居している割合が42.3%で、活動している人の2倍以上である。無回答では地縁的な活動をしていない人が19.0%で、活動をしている人6.0%の3倍以上である。

問3(1)cボランティア・NPO・市民活動への参加（同居家族）



ボランティア・NPO・市民活動をしている人では、配偶者との同居は62.9%、子どもとの同居は45.6%である。活動をしていない人では配偶者との同居は57.6%、子どもとの同居は45.5%である。配偶者との同居では5.3ポイント、子どもとの同居では0.1ポイント活動している人が上回っているが、これまで取り上げてきた問いと比べるとその差は小さい。

4 ソーシャル・キャピタルの要素同士の相関性

ここでは、以下の問い同士のクロス集計を行った結果を示す。取り上げた問いは、以下のとおりである。

- ・ネットワーク…問 1(2)地域の人とのつながり、問 1(3)地域の人との面識・交流、
- ・信頼…問 2(2)一般的な人への信頼
- ・社会参加…問 3(1)a 地縁的な活動への参加、c ボランティア・NPO・市民活動への参加

(1) 相関表から

相関表Ⅳ (ソーシャル・キャピタルの要素)

【表 7 7】

		問 1(2) 地域の人との付 き合い	問 1(3) 地域の人との面 識・交流	問 2(2) 一般的な人へ の信頼	問 3(1)a 地縁的な活動	問 3(1)c ボランティア・ NPO・市民活動
問 1(2) 地域の人との付き合い	Pearson の相関係数	1	.550**	.274**	.390**	.220**
	有意確率 (両側)		.000	.000	.000	.000
	度数	861	858	852	844	838
問 1(3) 地域の人との面識・交 流	Pearson の相関係数	.550**	1	.263**	.371**	.183**
	有意確率 (両側)	.000		.000	.000	.000
	度数	858	861	853	844	838
問 1(4) 友人・知人との付き合 い・交流	Pearson の相関係数	.174**	.210**	.188**	.161**	.248**
	有意確率 (両側)	.000	.000	.000	.000	.000
	度数	861	861	855	847	841
問 2(2) 一般的な人への信頼	Pearson の相関係数	.274**	.263**	1	.238**	.201**
	有意確率 (両側)	.000	.000		.000	.000
	度数	852	853	855	840	835
問 3(1)a 地縁的な活動	Pearson の相関係数	.390**	.371**	.238**	1	.403**
	有意確率 (両側)	.000	.000	.000		.000
	度数	844	844	840	847	836
問 3(1)c ボランティア・NPO・ 市民活動	Pearson の相関係数	.220**	.183**	.201**	.403**	1
	有意確率 (両側)	.000	.000	.000	.000	
	度数	838	838	835	836	841

**、相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。

*、相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。

相関表から Pearson の相関係数から、ソーシャル・キャピタルの多くの要素間同士に相関性が認められる。

ネットワーク同士の問いである問 1(2)と問 1(3)は、表の中で最も高い数値が認められる。

ネットワークと信頼の問いである問 2(2)についても、問 1(2)、問 1(3)と相関性が認められる。問 1(2)と問 1(3)では、問 1(2)の方が若干数値が高く現れており、一般的な人への信頼への意識は、地域の人との面識・交流があることよりも地域の人との深い付き合いの方が影響があるものと思われる。

ネットワークと社会参加をみると、問 1(2)は問 3(1)a、問 3(1)c の双方に相関性が認められ、特に a 地縁的な活動への参加の方に数値が高く現れている。

信頼と社会参加については、問 2(2)と問 3(1)a と問 3(1)c に相関性が認められ、特に問 3(1)a 地縁的な活動への参加の方に数値が高く現れている。

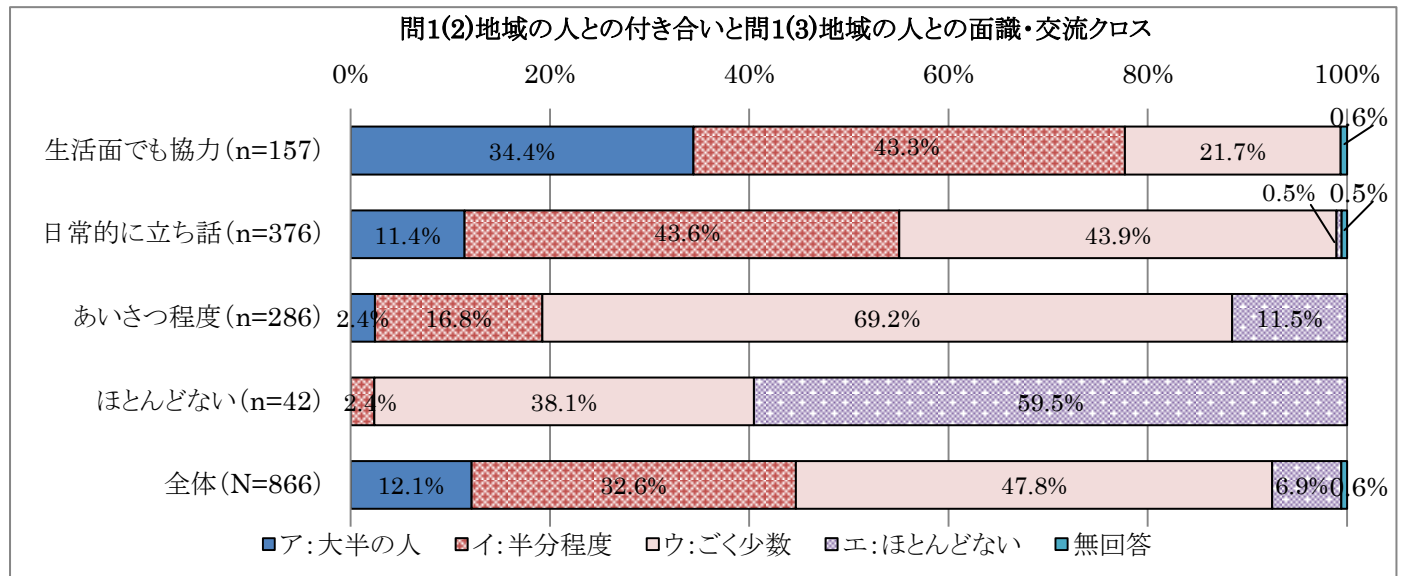
社会参加の問いである問 3(1)a と問 3(1)c にも相関係数が認められ、地域活動に参加している人は、多様な地域活動に参加している傾向があることがうかがえる。

(2) クロス集計結果より

① ネットワークとの相関性

ア ネットワーク同士の相関性Ⅰ

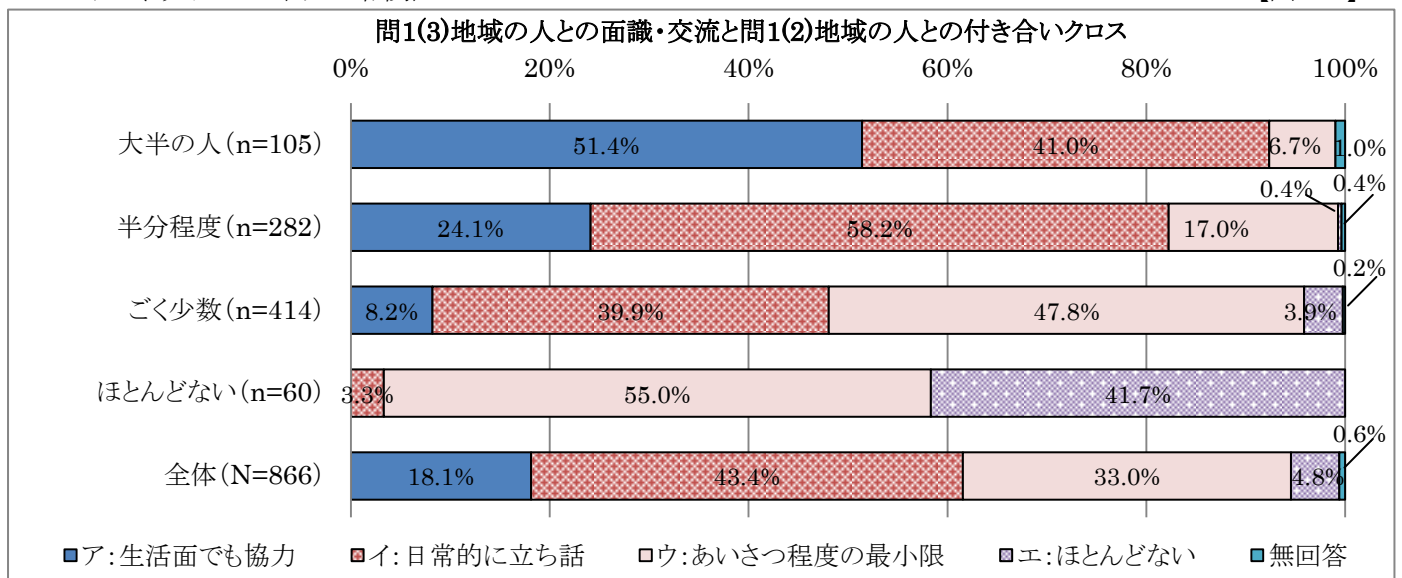
【図 7 8】



「大半の人」と面識・交流があると回答した割合は、「生活面でも協力」していると回答した人が34.4%で最も高い。「大半の人」「半分程度」の人と面識・交流があると回答した割合は、「生活面でも協力」していると回答した人の77.7%である。地域の人との付き合いが「ほとんどない」と回答した人のうち、地域の人との面識も「ほとんどない」と回答した人は59.5%に上る。「生活面でも協力」「日常的に立ち話」など地域の人との付き合いが深い人ほど、地域の多くの人との面識・交流があると回答した割合も高くなる傾向が見られる。ただし、「生活面でも協力」していると回答した人のうち、面識・交流している人が「ほとんどない」と回答した割合は21.7%である。したがって、地域の人との面識・交流がほとんどない人でも、地域の人と深く付き合っている人は必ずしも少なくはないと思われる。

イ ネットワーク同士の相関性Ⅱ

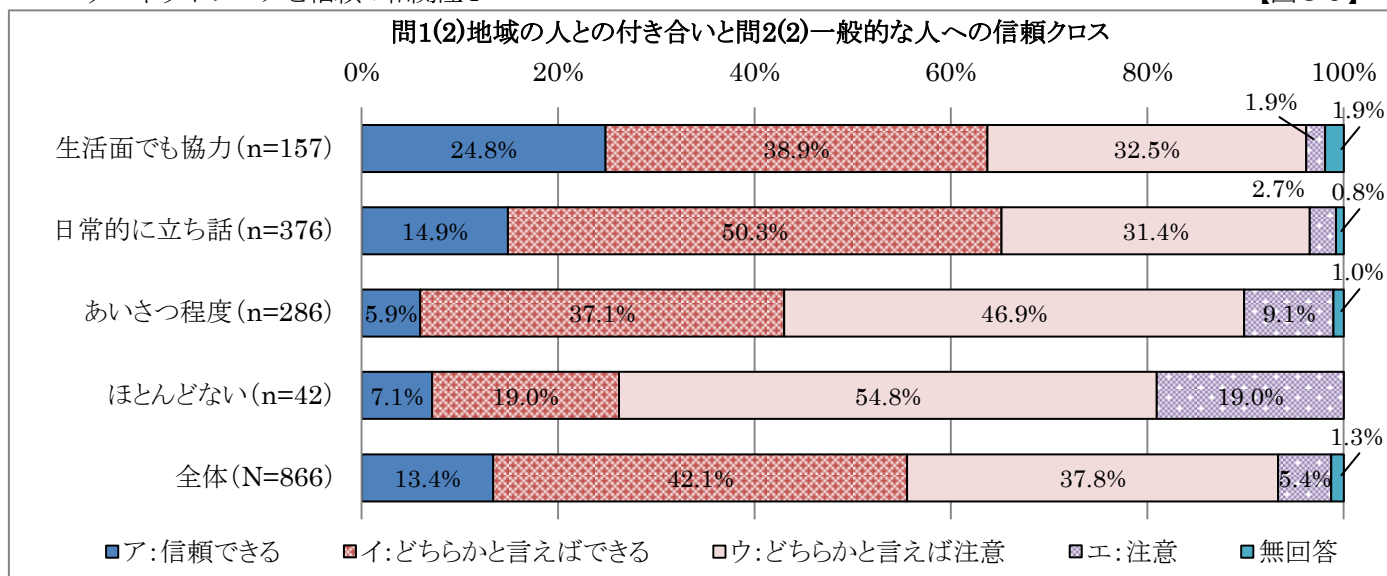
【図 7 9】



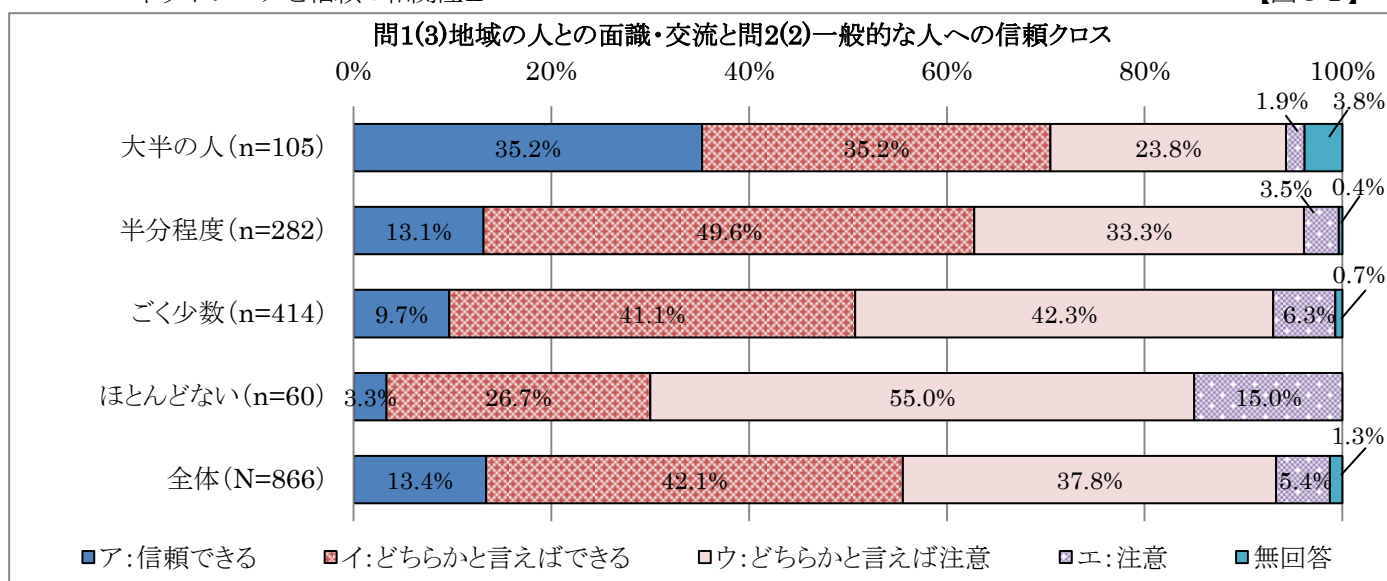
地域の人との面識・交流から見た地域の人との付き合いについてクロス集計した結果である。

「生活面でも協力」を選択した割合は、「大半の人」と面識・交流があると回答した人が51.4%で最も高い。「生活面でも協力」と「日常的に立ち話」を合計した割合では92.4%である。また、面識・交流が「ほとんどない」と回答した人で地域の人との付き合いが「ほとんどない」を選択した人は41.7%に上る。

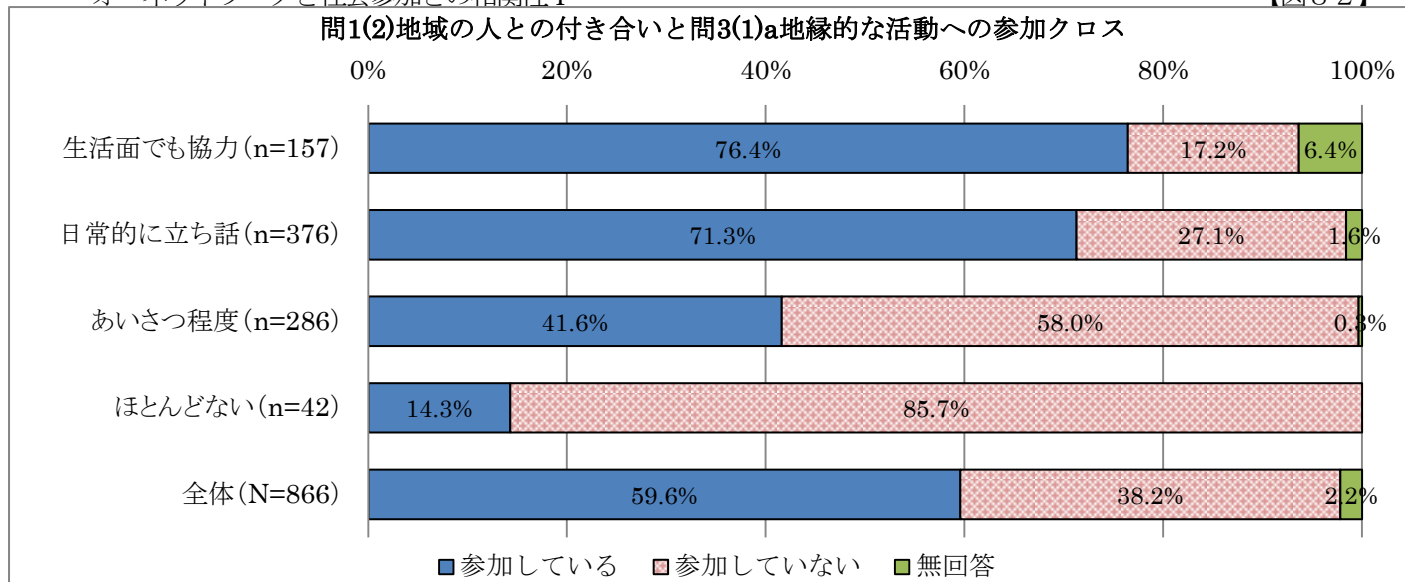
地域の多くの人と面識・交流がある人ほど、「生活面でも協力」「日常的に立ち話」など地域の人との深い付き合いをしている割合が高くなる傾向が見られる。



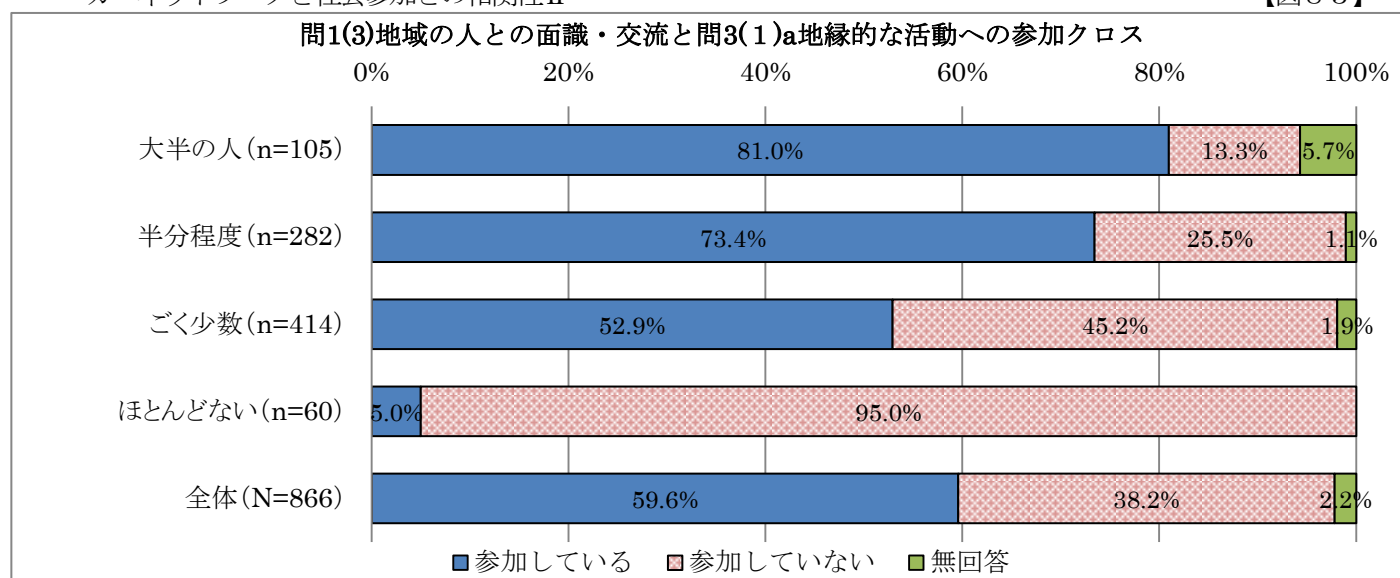
一般的に人は「信頼できる」と回答した割合は、地域の人と「生活面でも協力」と回答した人が24.8%で最も高い。「注意」した方がよいと回答した割合は、「日常的に立ち話」では2.7%、「あいさつ程度」9.1%、「ほとんどない」は19.0%で、地域の人との付き合いが浅くなるほど、一般的に人は「注意」するに越したことはないという割合が高くなる傾向が見られる。



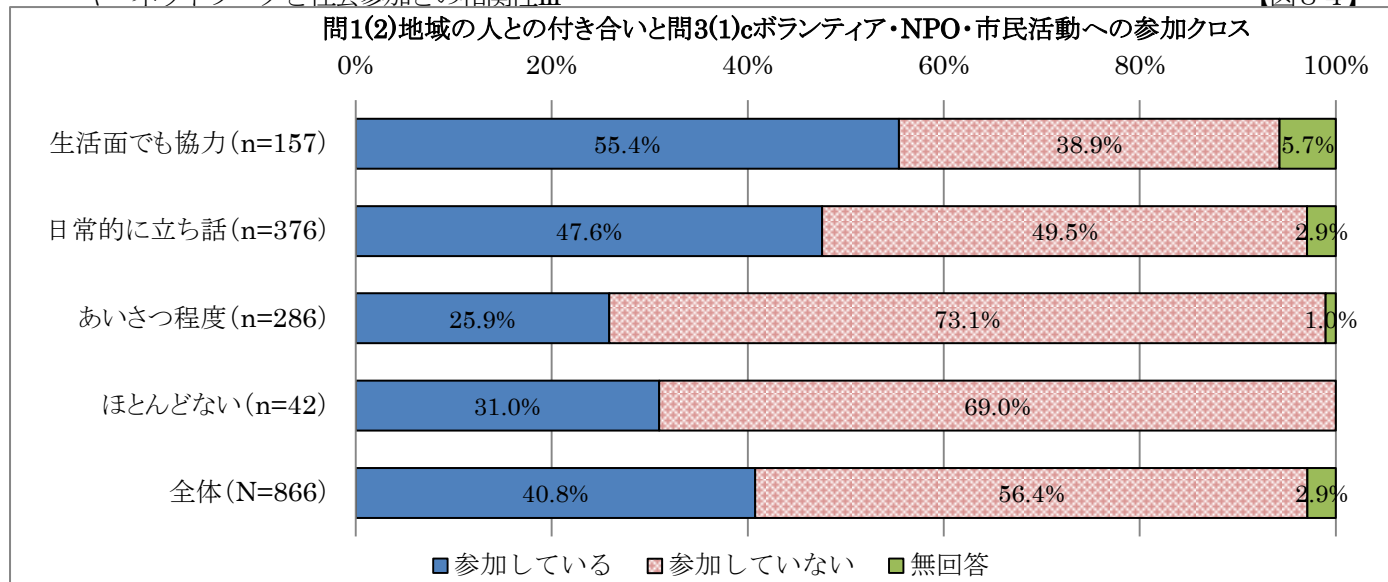
一般的に人は「信頼できる」と回答した割合は、地域の「大半の人」と面識・交流があると回答した人が35.2%最も高く、面識・交流のある人が多くなるにつれて「信頼できる」という割合が高くなる傾向が見られる。「注意」した方がよいという割合は、地域の人との面識・交流が少なくなるほど、一般的に人は「注意」するに越したことはないという割合が高くなる傾向が見られる。



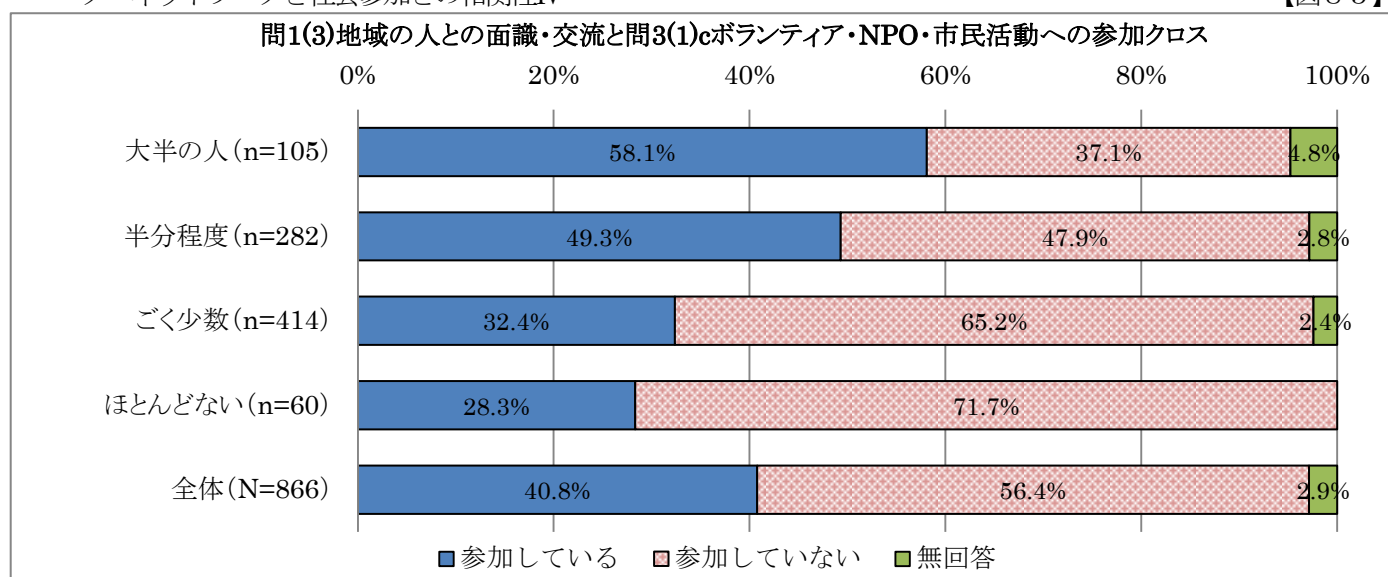
地縁的な活動に「参加している」割合は、「生活面でも協力」と回答した人が76.4%で最も高く、地域の人との付き合いが「ほとんどない」と回答した人では14.3%で最も低い。地域の人との深い付き合いをしていると回答した人の方が、「参加している」割合が高くなる傾向が見られる



地縁的な活動に「参加している」割合は、地域の「大半の人」と面識・交流があると回答した人が、81.0%で最も高く、地域の人との面識・交流が「ほとんどない」と回答した人では5.0%で最も低い。地域の多くの人と面識・交流があると回答した人の方が、「参加している」割合が高くなる傾向が見られる。



ボランティア・NPO・市民活動に参加していると回答した人の割合は、地域の人と「生活面でも協力」していると回答した人が55.4%で最も高く、地域の人と深い付き合いをしている人の方が、ボランティア・NPO・市民活動に参加している割合が高いことが分かる。しかし、「ほとんどない」と回答した人は「あいさつ程度」と回答した人よりも5.1ポイント上回り、地域の人との付き合いが浅いとボランティア・NPO・市民活動に参加する割合が低いとは言えない。

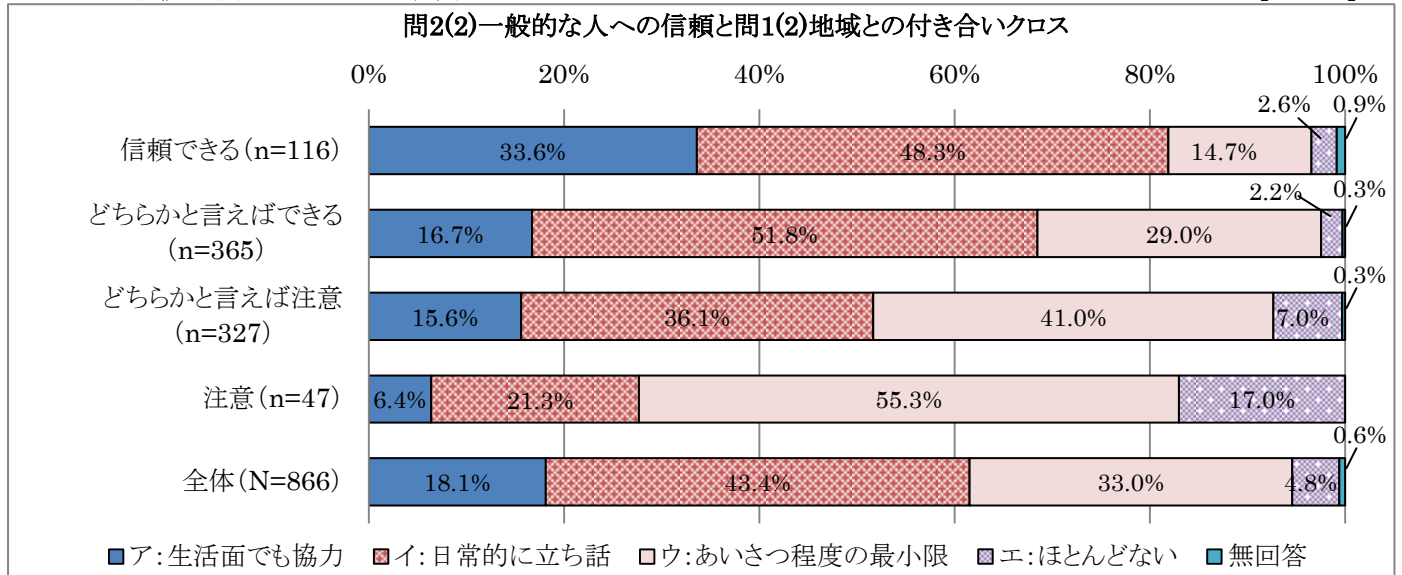


ボランティア・NPO・市民活動に参加していると回答した人の割合は、地域の「大半の人」と面識・交流があると回答した人は58.1%で最も高く、地域の人との面識・交流が「ほとんどない」と回答した人は28.3%で最も低かった。地域の多くの人と面識・交流があると回答した人の方が、ボランティア・NPO・市民活動に参加している割合が高い。

② 信頼との相関性

ア 信頼とネットワークとの相関性Ⅰ

【図86】

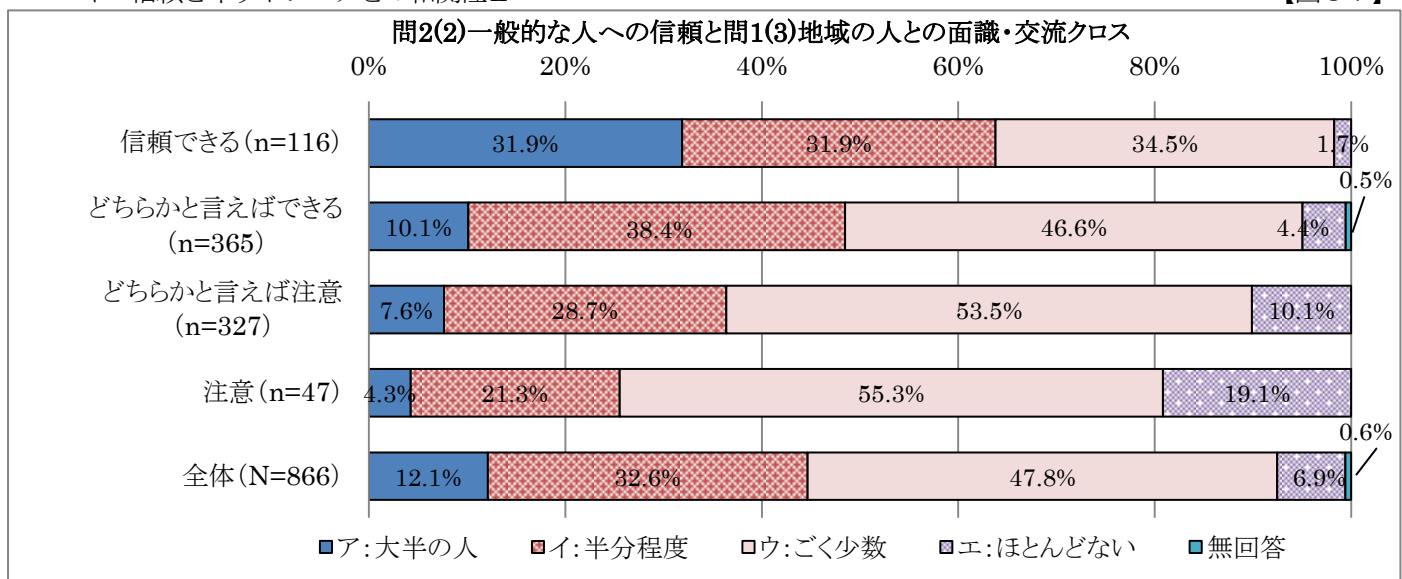


一般的な人への信頼から見た地域の人との付き合いについてクロス集計した結果である。

一般的に人は「信頼できる」と回答した人のうち、「生活面でも協力」と回答した割合は33.6%で最も高い。「生活面でも協力」と「日常的に立ち話」を合計した割合では、81.9%である。一般的に人は「注意」するに越したことはない」と回答した人で、「生活面でも協力」と回答した割合は、6.4%である。一般的に人を信頼している人と回答した人ほど、「生活面でも協力」「日常的に立ち話」など地域の人と深い付き合いをしている割合が高くなる傾向が見られる。

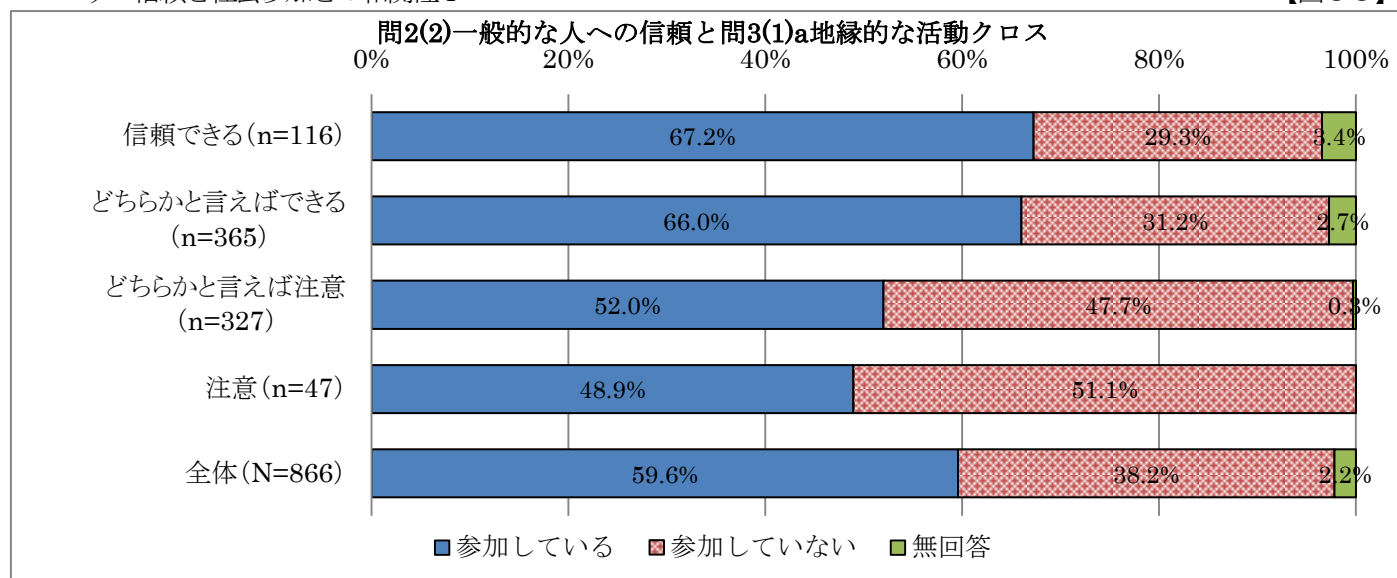
イ 信頼とネットワークとの相関性Ⅱ

【図87】

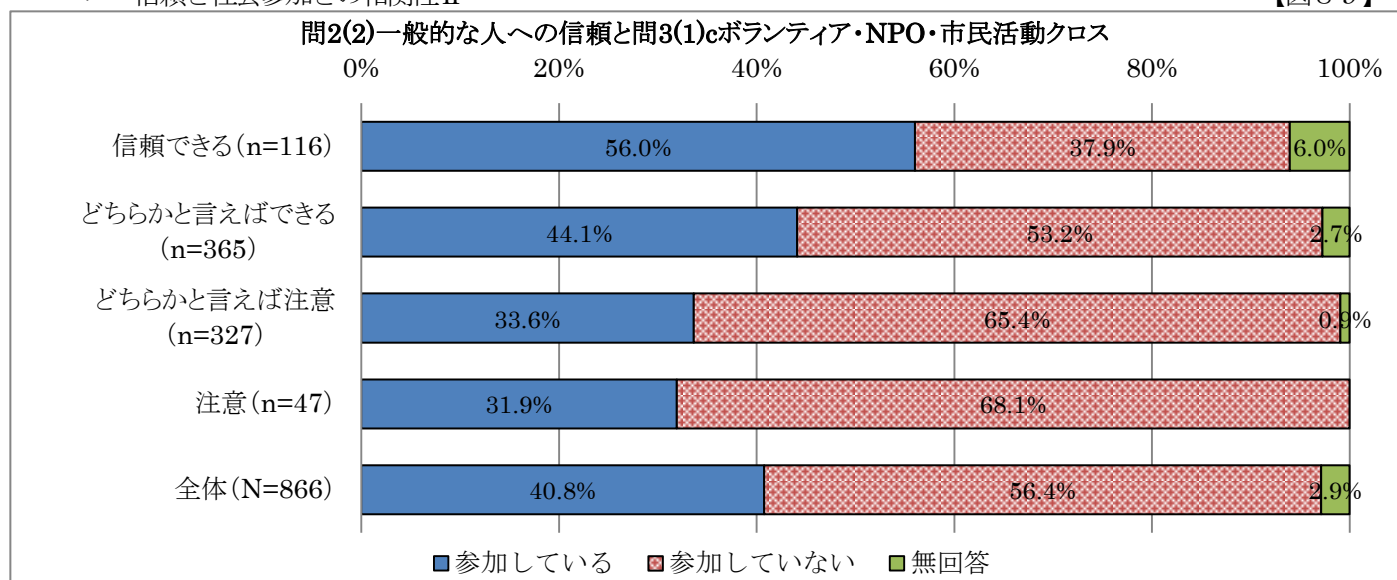


一般的な人への信頼から見た地域の人との面識・交流についてクロス集計した結果である。

一般的に人を「信頼できる」と回答した人のうち、地域の「大半の人」との面識・交流があると回答した人は、31.9%である。一般的に人は「注意」するに越したことはない」と回答した人では、4.3%である。一般的に人を信頼している人ほど、地域の多くの人と面識・交流があると回答した割合も高くなる傾向が見られる。



地縁的な活動に参加していると回答した割合は、一般的に人は「信頼できる」と回答した人では67.2%で最も高く、一般的に人は「注意」するに越したことはない」と回答した人では、48.9%であった。地域の人との面識交流があると回答した人の方が、参加している割合が高くなる傾向が見られる。

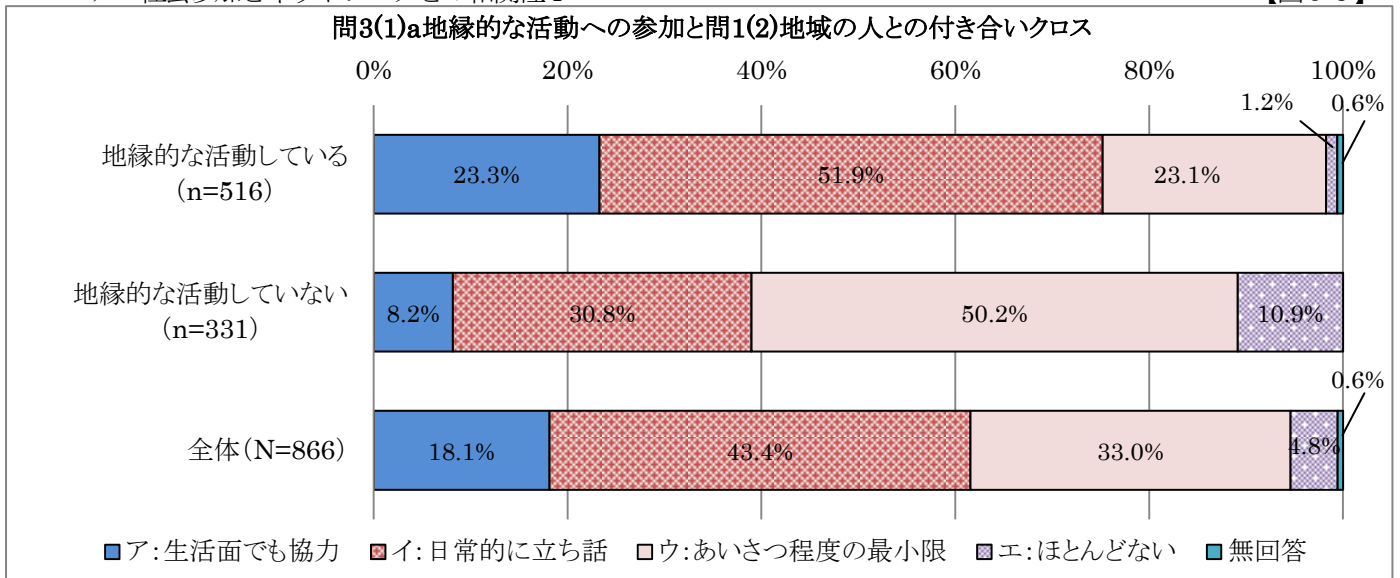


ボランティア・NPO・市民活動に参加していると回答した人の割合は、一般的に人は「信頼できる」と回答した人が56.0%で最も高く、一般的に人は「注意」するに越したことはない」と回答した人では、31.9%であった。一般的に人は「信頼できる」と回答した人の方が、ボランティア・NPO・市民活動に参加している割合が高くなる傾向が見られる。

③ 社会参加との相関性

ア 社会参加とネットワークとの相関性Ⅰ

【図90】

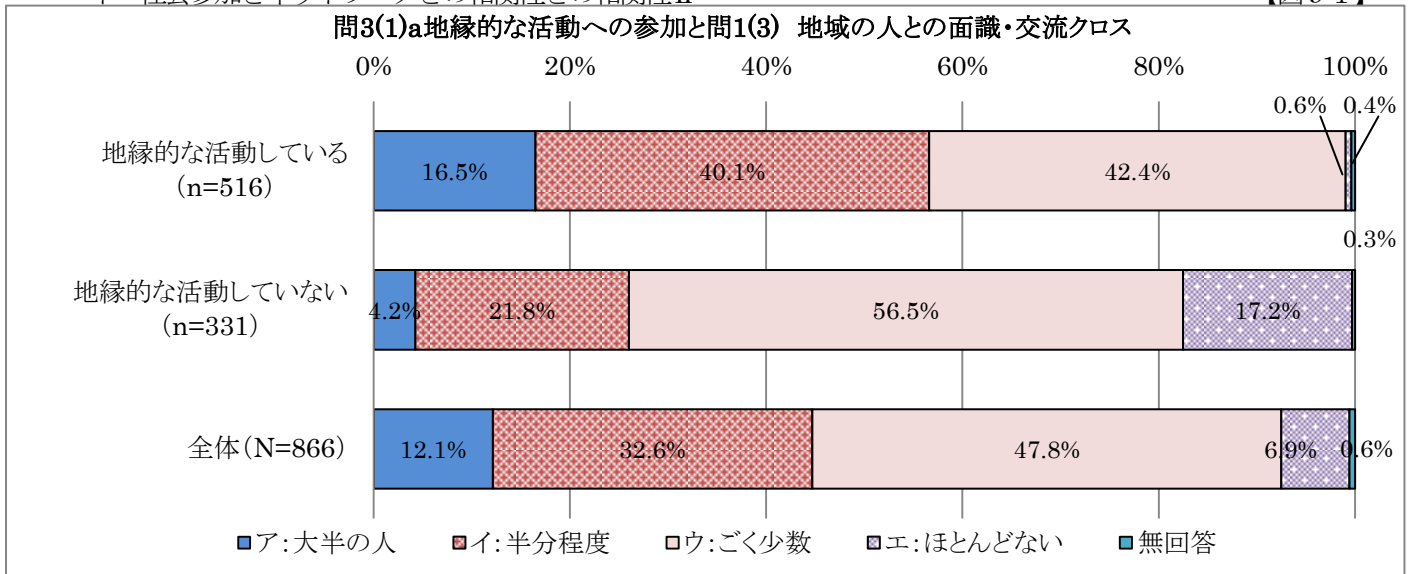


地縁的な活動への参加から見た、地域の人との付き合いについてクロス集計の結果である。

「生活面でも協力」の割合は、地縁的な活動に参加している人では23.3%で、地縁的な活動に参加していないと回答した人の8.2%と比べると3倍近くである。「地縁的な活動をしている人」の方が、「生活面でも協力」「日常的に立ち話」など地域の人と深い付き合いをしている割合が高くなる傾向が見られる。

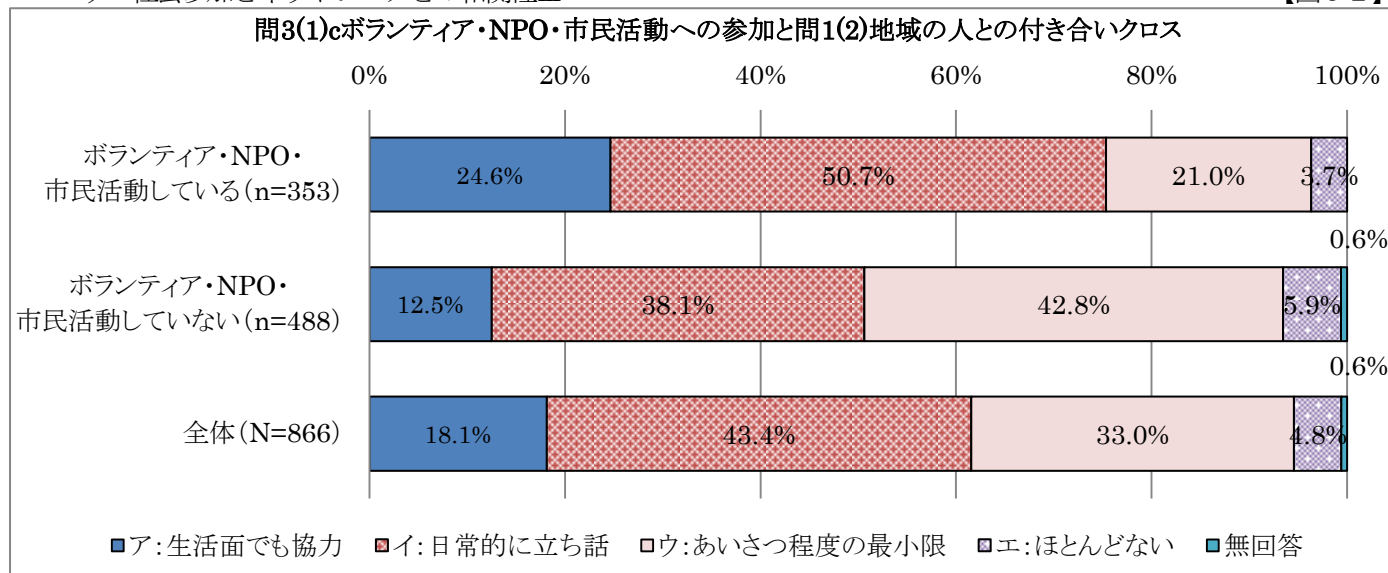
イ 社会参加とネットワークとの相関性Ⅱ

【図91】



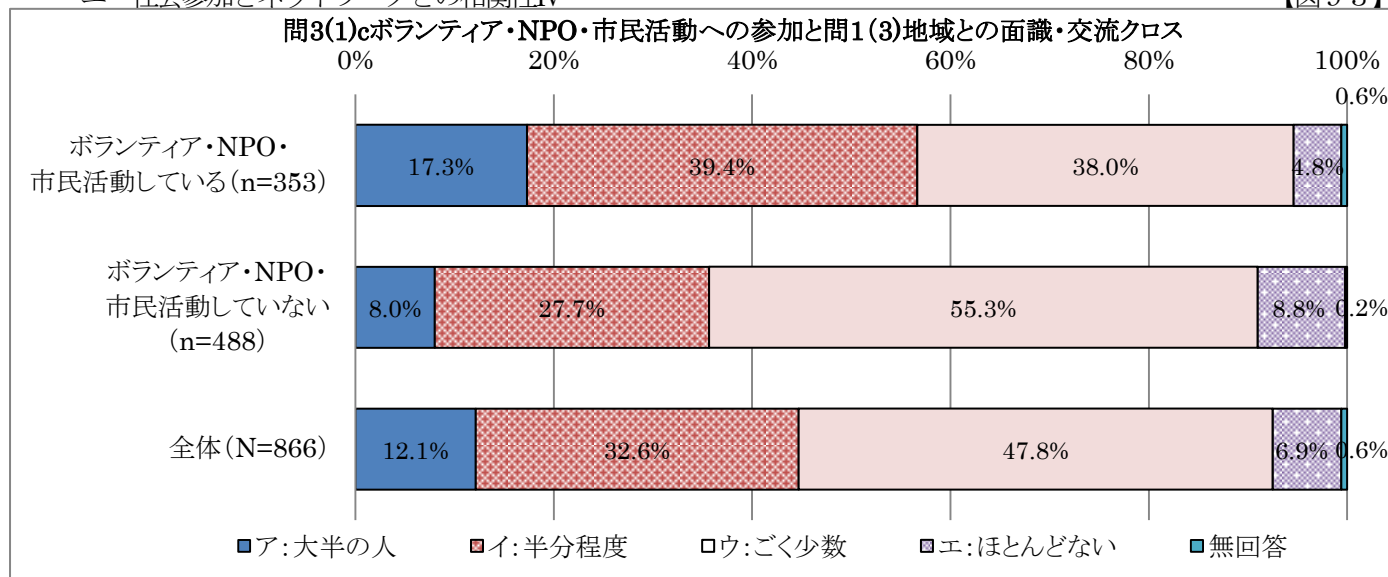
地縁的な活動への参加から見た地域の人との面識・交流についてクロス集計した結果である。

地域の「大半の人」「半分程度」と面識・交流があると回答した割合は、「地縁的な活動をしている」と回答した人の56.6%で、地縁的な活動に参加していないと回答した人の26.0%の2倍以上である。地縁的な活動をしている人の方が、地域の多くの人との面識・交流があると回答した割合が高いことが分かる。



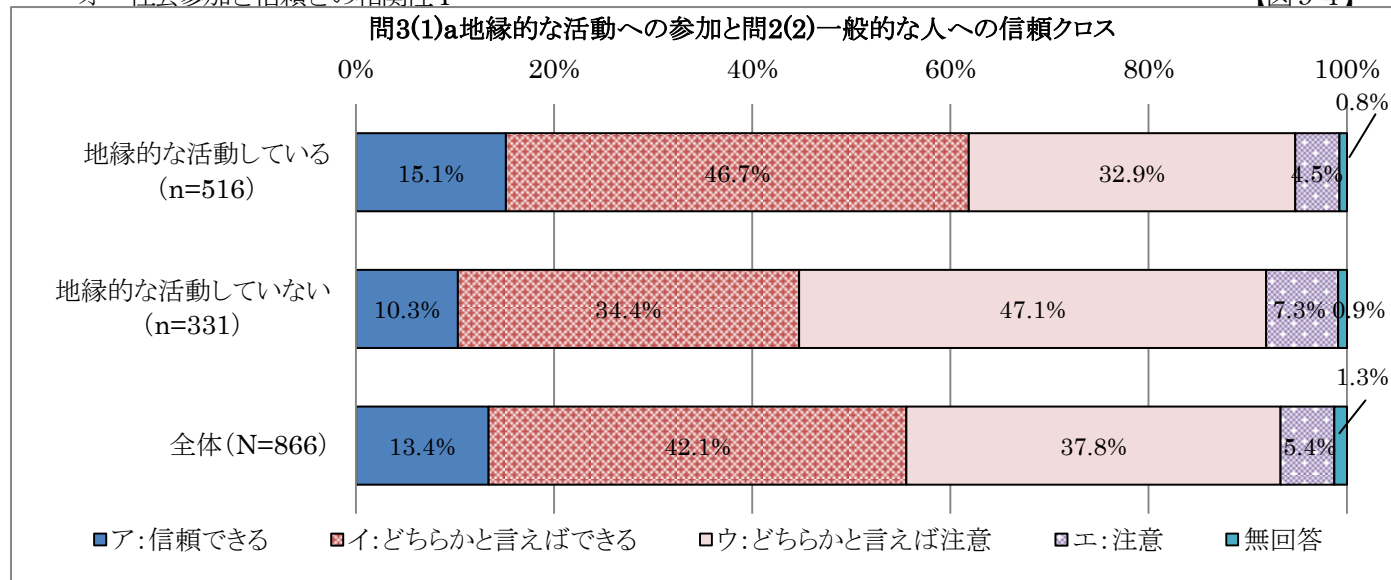
ボランティア・NPO・市民活動への参加から見た地域の人との付き合いについてクロス集計した結果である。

「生活面でも協力」の割合は、「ボランティア・NPO・市民活動している」と回答した人の24.6%で、ボランティア・NPO・市民活動に参加していないと回答した人の12.5%より12.1ポイント上回る。「ボランティア・NPO・市民活動している」人の方が、「生活面でも協力」「日常的に立ち話」など地域の人と深い付き合いをしている割合は高くなる傾向が見られる。



ボランティア・NPO・市民活動への参加から見た地域の人との面識・交流についてクロス集計した結果である。

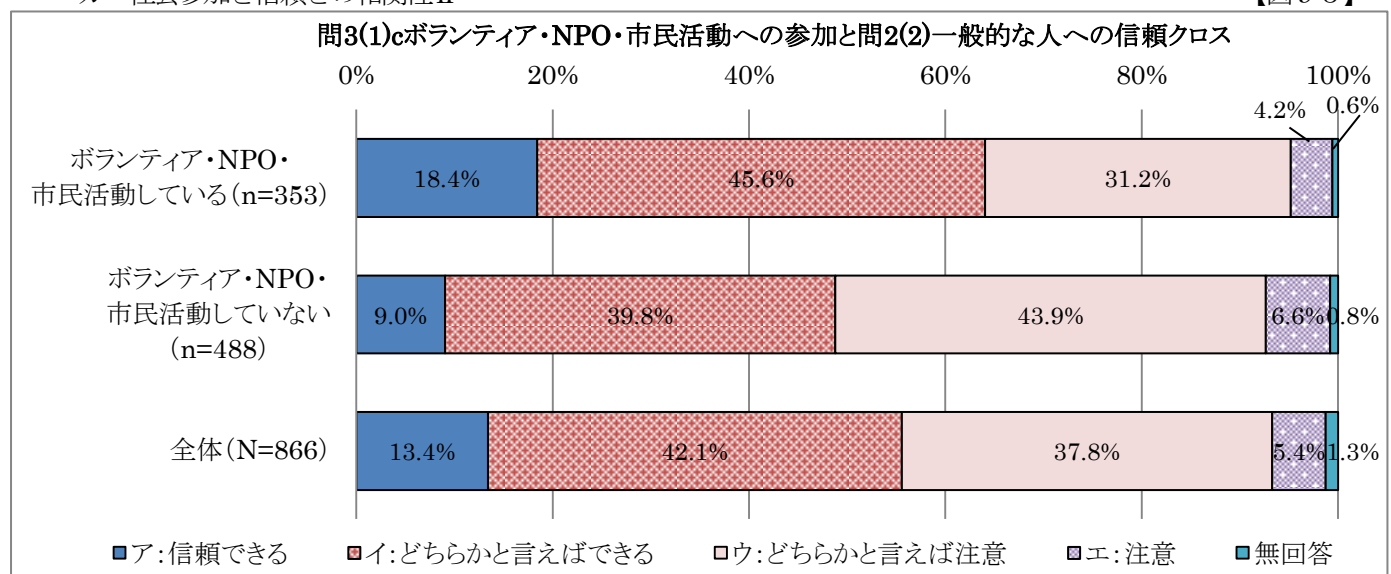
地域の「大半の人」「半分程度」と面識・交流があると回答した割合は、「ボランティア・NPO・市民活動している」と回答した人の56.7%で、「ボランティア・NPO・市民活動していない」と回答した人の35.7%より21.0ポイント上回る。ボランティア・NPO・市民活動をしている人の方が、地域の多くの人との面識・交流があると回答した割合が高くなる傾向が見られる。



地縁的な活動への参加から見た一般的な人への信頼についてクロス集計した結果である。

一般的に人は「信頼できる」と回答した割合は、地縁的な活動に参加していると回答した人の15.1%で、地縁的な活動に参加していないと回答した人の10.3%より、4.8ポイント上回っている。

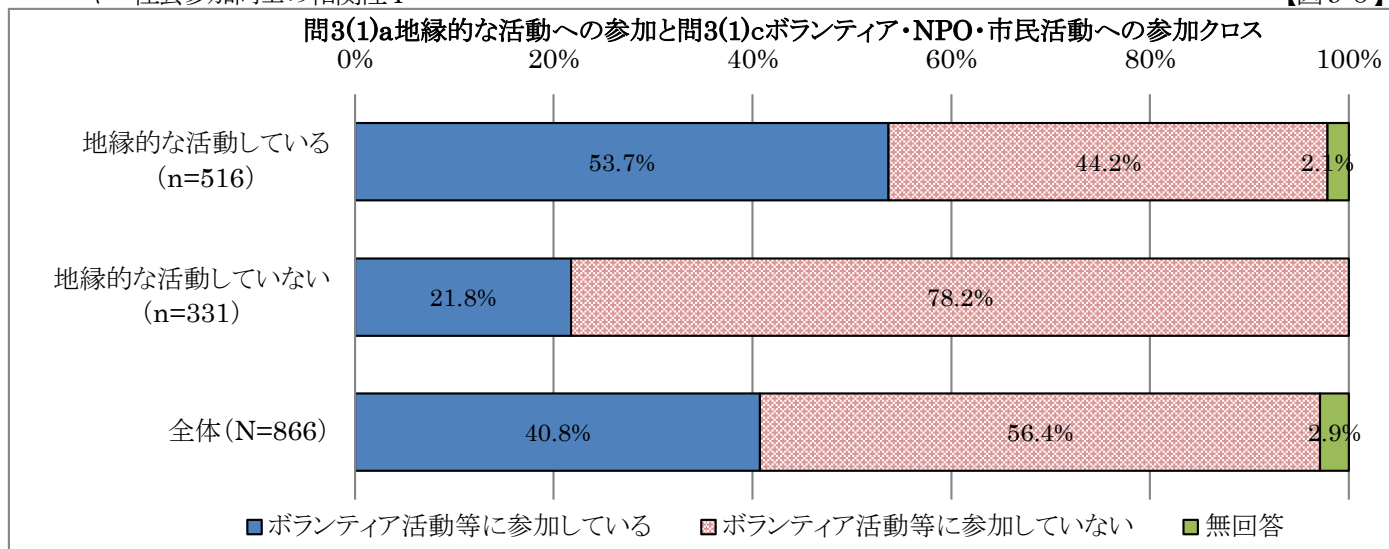
一般的に人は「注意」するに越したことはないという割合は、地縁的な活動に参加していると回答した人では4.5%、地縁的な活動に参加していないと回答した人では7.3%である。地縁的な活動をしていない人の方が、一般的に人は「注意」するに越したことはないという割合が若干高い。



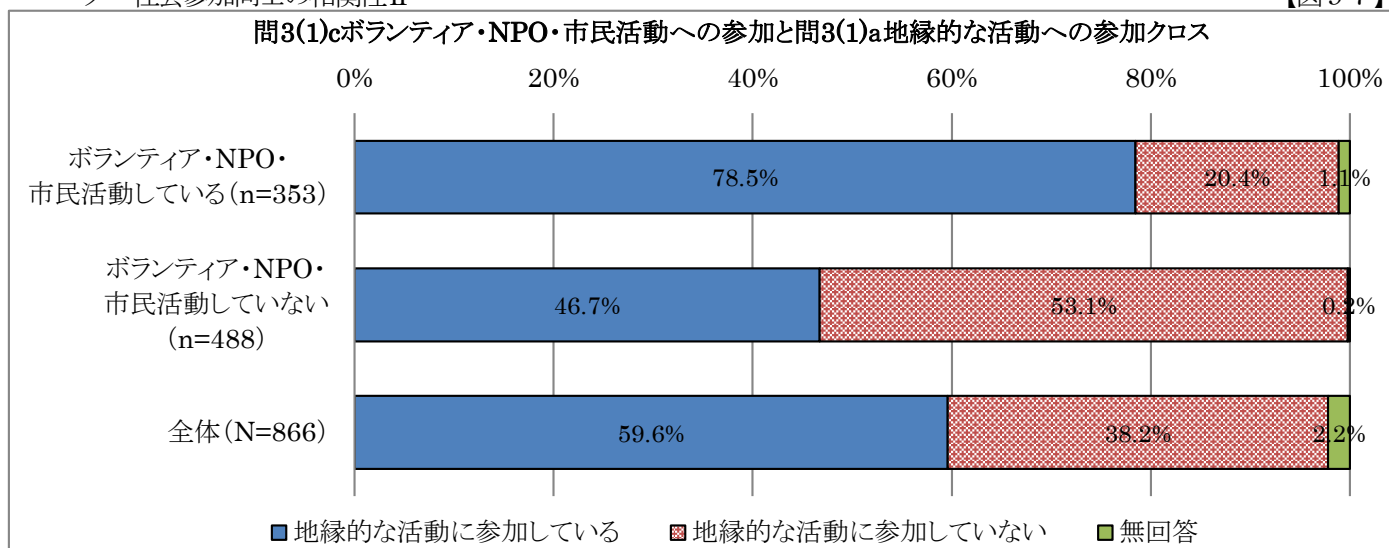
ボランティア・NPO・市民活動への参加から見た一般的な人への信頼についてクロス集計した結果である。

一般的に人は「信頼できる」と回答した割合は、ボランティア・NPO・市民活動に参加していると回答した人が18.4%で、ボランティア・NPO・市民活動に参加していないと回答した人では9.0%であった。

「注意」するに越したことはないという割合は、ボランティア・NPO・市民活動に参加していると回答した人では4.2%、ボランティア・NPO・市民活動に参加していないと回答した人では6.6%である。ボランティア・NPO・市民活動に参加していない人の方が、「注意」するに越したことはないという割合が若干高い。



地縁的な活動をしていると回答した人で、ボランティア・NPO・市民活動に参加していると回答した人の割合は53.7%で、地縁的な活動に参加していないと回答した人の21.8%より31.9ポイント高い。



地縁的な活動に参加していると回答した人の割合は、ボランティア・NPO・市民活動に参加している人の78.5%で、ボランティア・NPO・市民活動に参加していない人の46.7%よりも31.8ポイント高い。

【図9 6】と【図9 7】から、ボランティア・NPO・市民活動に参加していると回答した人で地縁的な活動に参加していると回答した割合は78.5%で、地縁的な活動に参加していると回答した人でボランティア・NPO・市民活動に参加は53.7%であることから、ボランティア・NPO・市民活動に参加している人は地縁的な活動にも参加している割合が高いが、地縁的な活動をしている人で、ボランティア・NPO・市民活動に参加していない人も多いということが想定できる。

5 ソーシャル・キャピタルの醸成に関わるもの（まとめ）

（1）年代（年齢）との相関性

① ネットワーク（地域の人との付き合い）

年代が高くなるにつれて、地域の人と深い付き合いをしている人の割合が高くなる傾向が見られる。

② ネットワーク（地域の人との面識・交流）

年代が高くなるにつれて、地域の人との面識・交流がある人の割合が高くなる傾向が見られる。

③ 社会参加（地縁的な活動への参加）

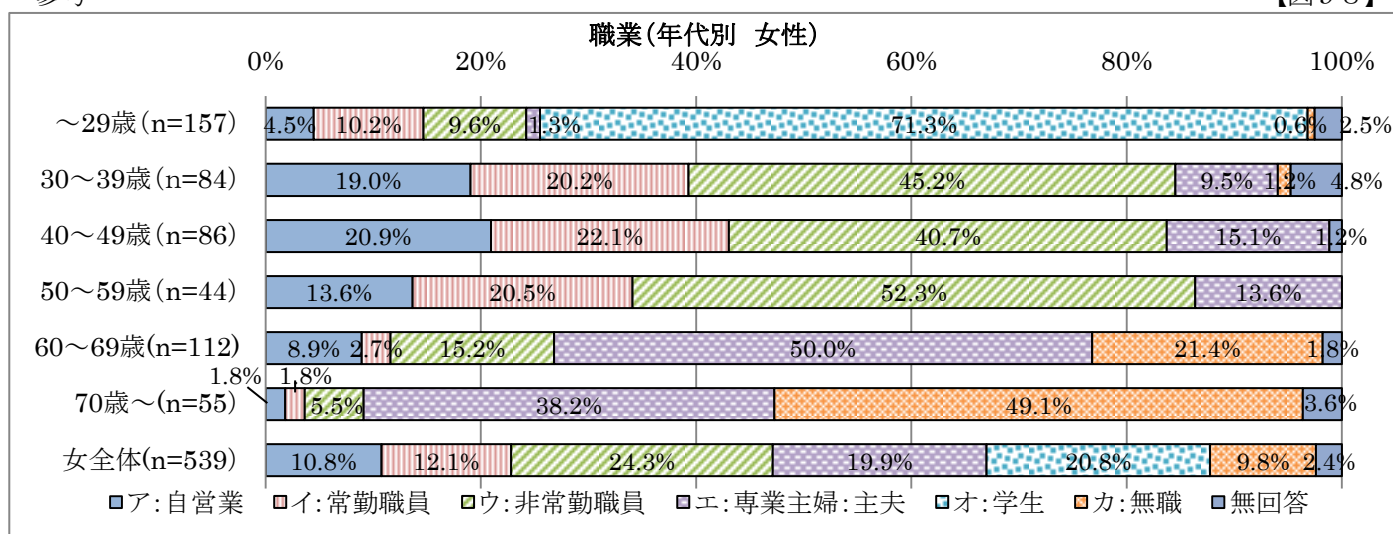
年代が高くなるにつれて、地縁的な活動に参加している人の割合が高くなる傾向が見られる。

④ 社会参加（グループ・サークル活動）

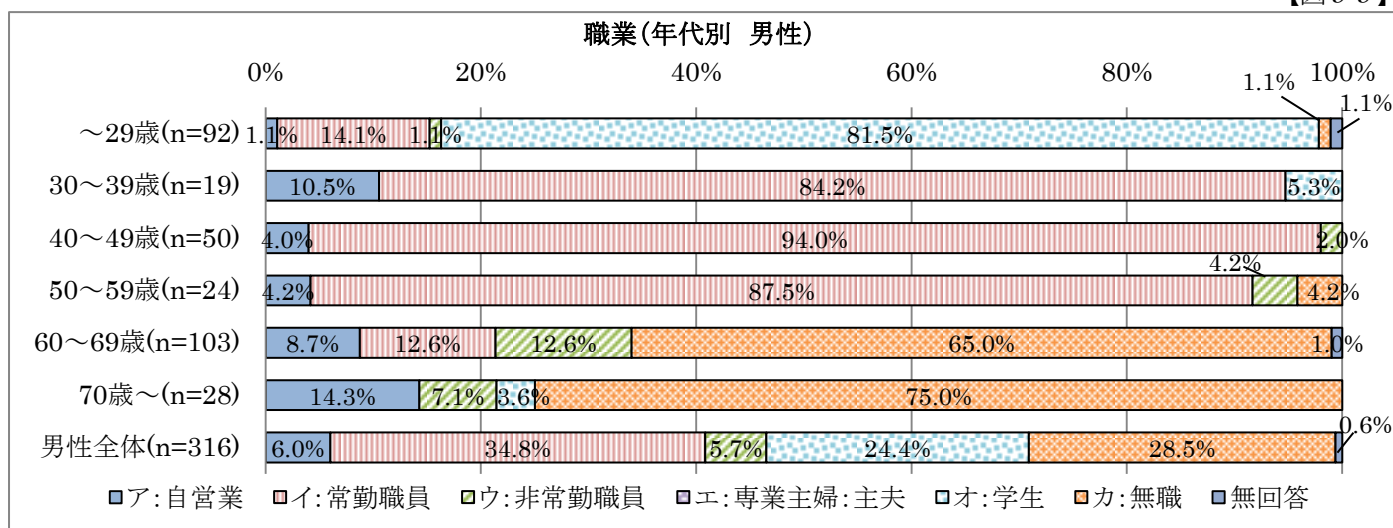
年齢が高くなるにつれて、グループ・サークル活動に参加している人の割合が高くなる傾向が見られる。

参考

【図98】



【図99】



29歳以下は、学生と回答した人が占める割合が高い。年代が高い人（60～69歳、70歳～）は、女性では専業主婦、無職、男性では無職と回答した人の割合が高い。年代（年齢）における傾向の特徴として、これらの影響があることも想定できる。

(2) 居住年数との相関性

① ネットワーク（地域の人との付き合い）

居住年数が長くなるにつれて、地域の人と深い付き合いをしている人の割合が高くなる傾向が見られる。

② ネットワーク（地域の人との面識・交流）

居住年数が長くなるにつれて、地域の人との面識・交流がある人の割合が高くなる傾向が見られる。

③ 社会参加（地縁的な活動への参加）

居住年数が長くなるにつれて、地縁的な活動に参加している人の割合が高くなる傾向が見られる。

(3) 同居家族との相関性

① 配偶者との同居

ア ネットワーク（地域の人との付き合い）

配偶者と同居している人には、地域の人と深い付き合いをしている人の割合が高くなる傾向が見られる。特に男性に見られる。

イ ネットワーク（地域の人との面識・交流）

配偶者と同居している人には、地域の人との面識・交流がある人の割合が高くなる傾向が見られる。特に女性に見られる。

ウ 信頼（一般的な人への信頼）

配偶者と同居している人には、一般的に人は信頼できると思う人の割合が高くなる傾向が見られる。

エ 社会参加（地縁的な活動への参加）

配偶者と同居している人には、地縁的な活動に参加している割合が高くなる傾向が見られる。特に男性に見られる。

② 子どもとの同居

ア ネットワーク（地域の人との付き合い）

子どもと同居している人には、地域の人と深い付き合いをしている人の割合が高くなる傾向が見られる。

イ ネットワーク（地域の人との面識・交流）

子どもと同居している人には、地域の人との面識・交流がある人の割合が高くなる傾向が見られる。

ウ 信頼（一般的な人への信頼）

子どもと同居している人には、一般的に人は信頼できると思う人の割合が高くなる傾向が見られる。

エ 社会参加（地縁的な活動への参加）

子どもと同居している人には、地縁的な活動に参加している割合が高くなる傾向が見られる。特に女性に見られる。

③ 自分の親との同居

ア ネットワーク（地域の人との付き合い）

自分の親と同居している人には、地域の人と深い付き合いがほとんどない人の割合が高くなる傾向が見られる。

イ 信頼（一般的な人への信頼）

自分の親と同居している人には、一般的に人は注意するに越したことはないと思う人の割合が高くなる傾向が見られる。

ウ 社会参加（地縁的な活動への参加）

自分の親と同居している人には、地縁的な活動に参加していない割合が高くなる傾向が見られる。

④ その他

社会参加（ボランティア・NPO・市民活動への参加）には同居家族の影響は少ない。

【参考】

地縁的な活動と同居家族の相関性、特に子供との同居の相関性については、30～39歳、40～49歳、50～59歳の女性の参加している（1：週3回以上～5：年数回程度の合計）割合が比較的高いことからもうかがえる。これは、この年代は子どもとの同居の割合が高い年代であるからと想定できる。（【図100】【図102】参照）

問3(5)の記述にも「義務教育終了とともに（地域活動への）参加が少なくなる。（40代女性）」、「子育てが終わると活動が少なくなる。（40代女性）」、「子どもたちが小中学校を修了してしまうと地域の人とのふれあいがぐっと減ってしまい、さび

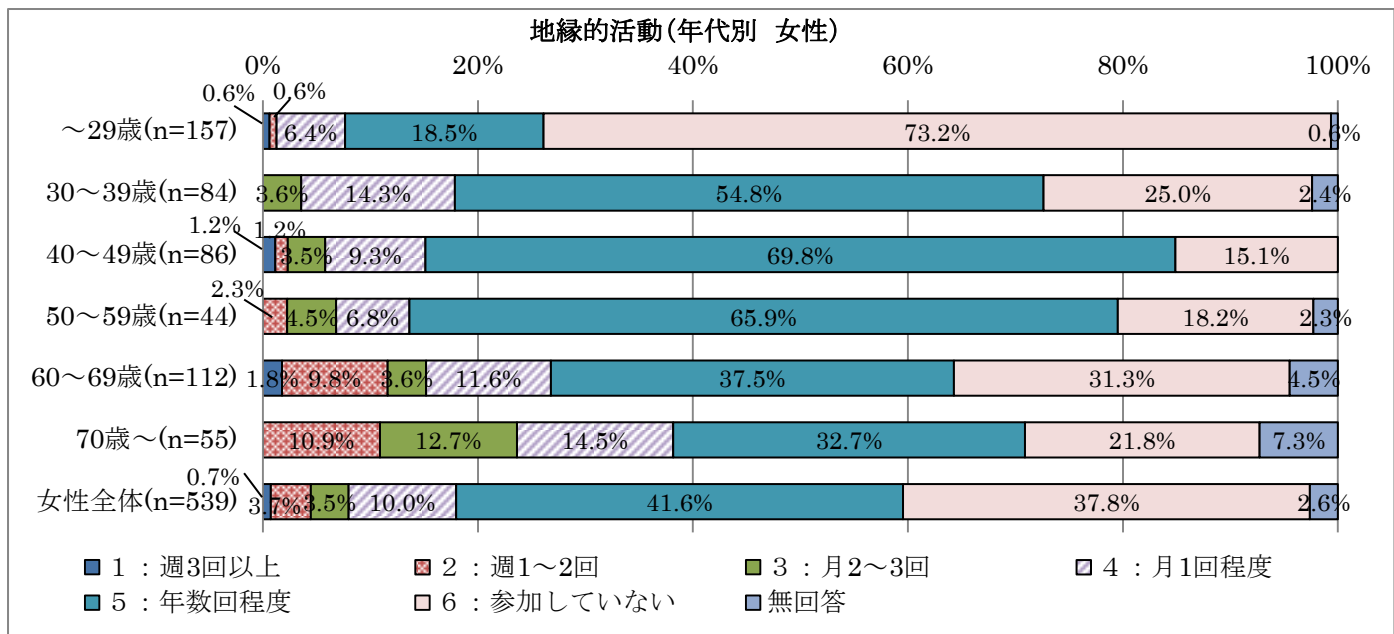
しい。(50代女性)」等コメントがあることからそれがうかがえる。よって、女性のこの世代における地縁的な活動は、主に子ども会育成会活動等の子どもに関わるものであることが想定できる。

配偶者との同居についてであるが、男性の地縁的な活動への参加状況との相関性が現れている。これについては、60～69歳、70歳以上の男性の参加している（1：週3回以上～5：年数回程度の合計）割合が比較的高く、この年代は配偶者との同居の割合が高いことによるものと思われる。（【図101】【図103】参照）

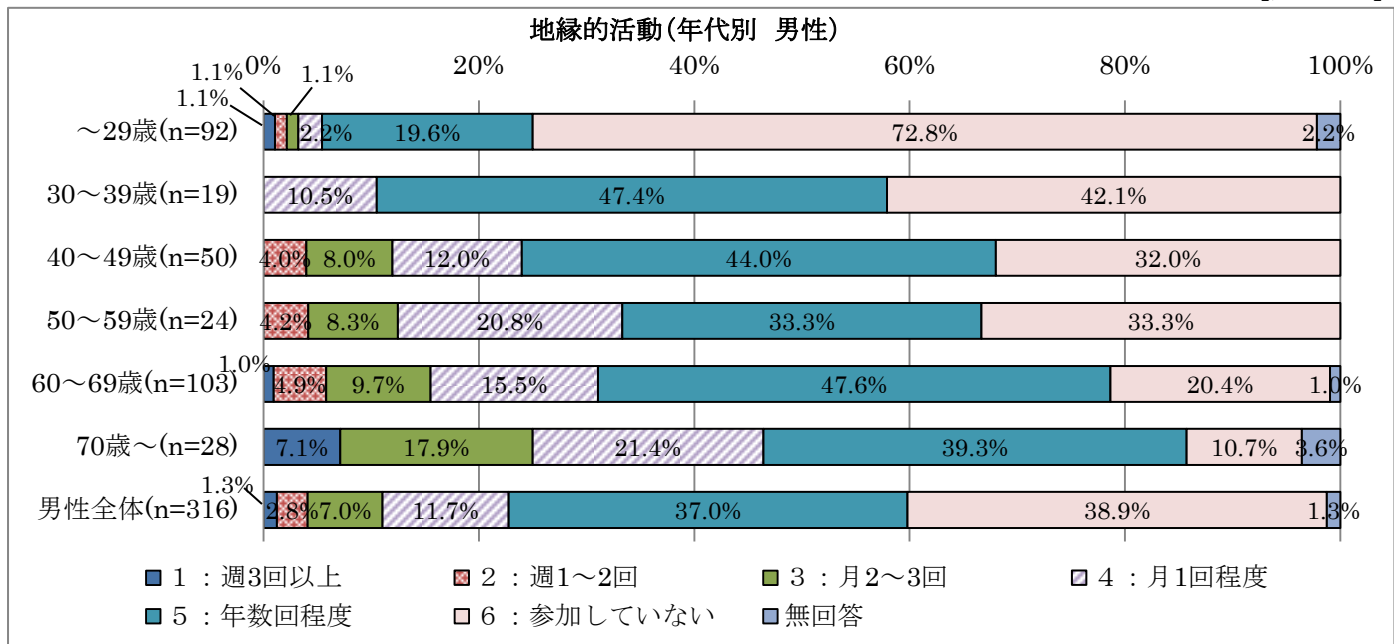
ただし、男女別の地縁的な活動への参加状況を比較してみると、男女共に子育てや子どもに関わる40～49歳、50～59歳では女性の活動が優位で、男性の活動が活発になるのは60歳以降であることから、配偶者との相関性によるものというよりも、定年退職等で時間が取れるようになったこと、さらに親との同居の割合が大きく低下していることから、世代交代があったであろうことの影響が強いものと思われる。

また、ここには子育ては女性、仕事は男性が中心という男女共同参画上の課題も見え隠れしている。

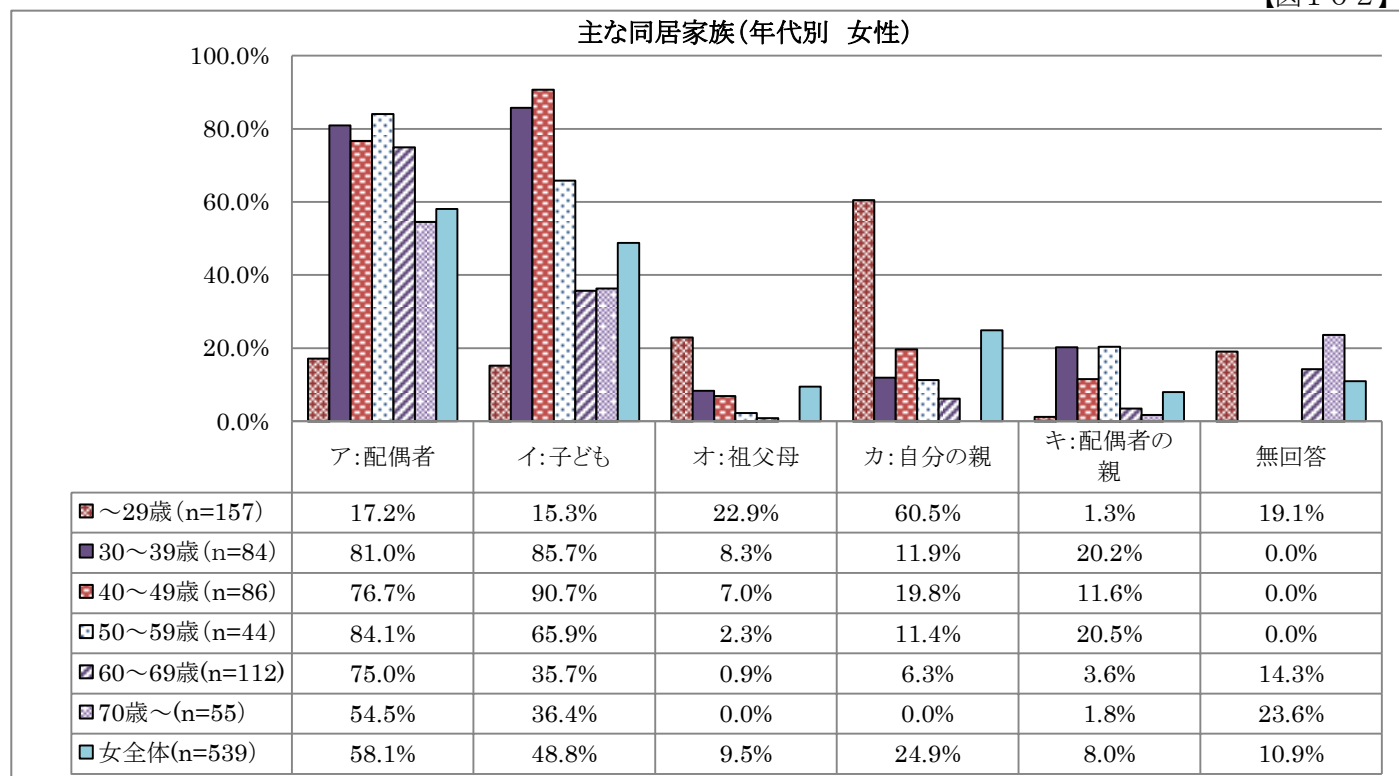
【図100】



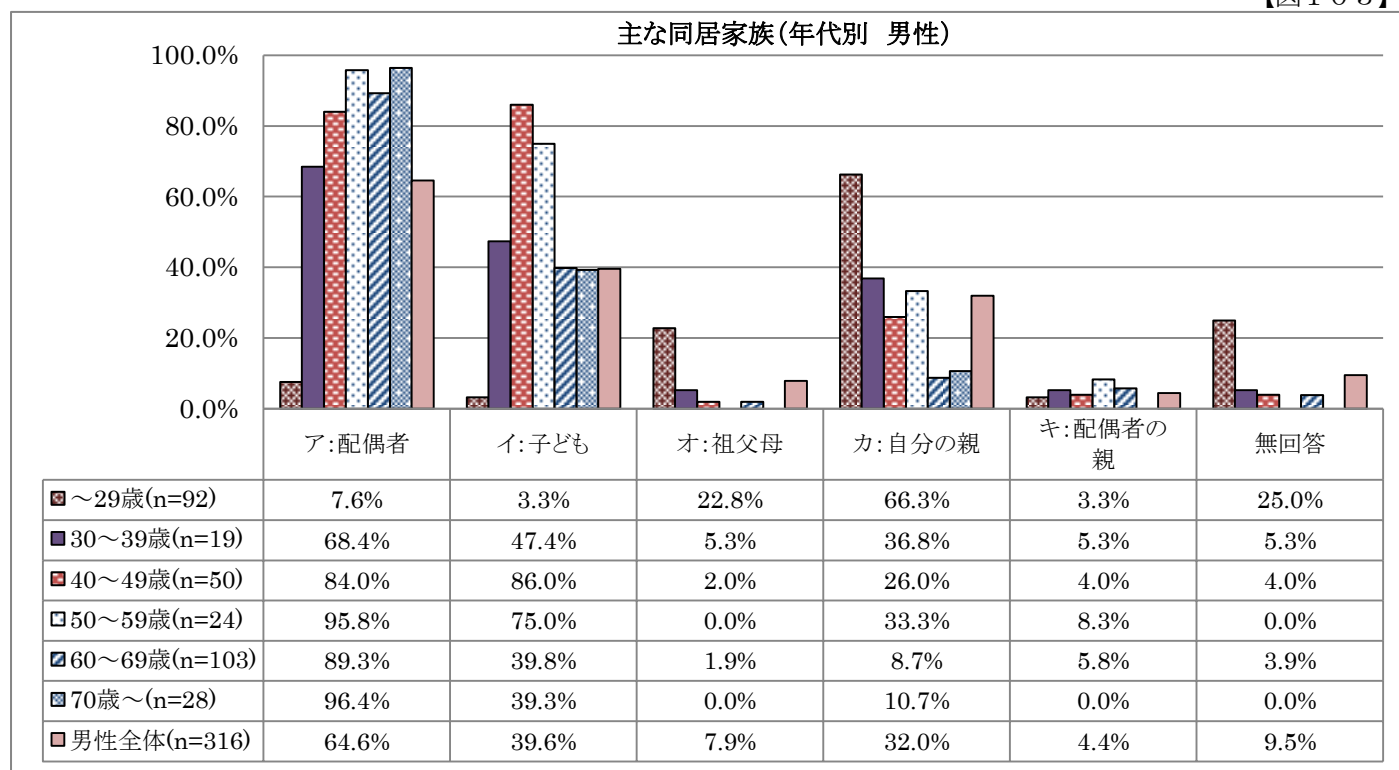
【図101】



【図102】



【図103】



(4) 要素同士の相関性

① ネットワーク同士の相関から

地域の人との面識・交流がある人ほど、地域の人と深く付き合っている人の割合が高くなる傾向が見られる。また、地域の多くの人との面識・交流がある人は、地域の人と深く付き合っている人の割合が高いが、地域の人と深く付き合っているから、地域の多くの人との面識・交流があるとは限らない。

② ネットワークと信頼との相関から

地域の人との面識・交流がある人、地域の人と深く付き合っている人ほど、一般的に人は信頼できると思う人の割合が高くなる傾向が見られる。また、地域の人との付き合いが、面識・交流よりもやや強く影響すると考えられ、信頼がネットワークを生むというよりも、ネットワークの影響から信頼が生まれると思われることから、信頼が生まれるには、(地域の) 人との付き合いの影響が強いことがうかがえる。

③ ネットワークと社会参加との相関から

地域の人と深く付き合っている人、地域の人と面識・交流がある人ほど、地縁的な活動、ボランティア・NPO・市民活動に参加している割合が高くなる傾向が見られる。また、どちらかと言えば、地域の人との付き合いの方が、地域の人との面識・交流よりも活動への参加との相関性がうかがえる。

④ 信頼と社会参加との相関から

地縁的な活動、ボランティア・NPO・市民活動に参加している人の方が、一般的に人は信頼できると思う人の割合が高くなる傾向が見られる。

⑤ 社会参加同士の相関から

地縁的な活動への参加とボランティア・NPO・市民活動への参加には相関性が見られ、いずれの活動にも関わる人が多い傾向が見られる。どちらかと言えば、ボランティア・NPO・市民活動に参加していて、地縁的な活動にも参加している人の方が、地縁的な活動をしていて、ボランティア・NPO・市民活動に参加している人の割合よりも高くなる傾向が見られる。

⑥ まとめ

全体として、要素同士には相関性がある。特にネットワークの地域の人との付き合いが、信頼、社会参加に影響がある様子がうかがえる。

IV 地域のまとまり、地域への愛着・誇り、地域への居住継続意識

1 地域のまとまり、地域への愛着・誇り、地域への居住継続意識との相関性

地域のまとまり、地域への愛着・誇りを感じる意識、地域への居住継続意識は、県民のつながりとどのような関連あるか、ソーシャル・キャピタルの要素、居住年数等から見ていくことにする。

ソーシャル・キャピタルの要素と関わる問いとして取り上げたのは以下のとおりである。

- ・ネットワーク…問 1(2)地域の人とのつながり、問 1(3)地域の人との面識・交流、
- ・信頼…問 2(2)一般的な人への信頼
- ・社会参加…問 3(1)a 地縁的な活動への参加、c ボランティア・NPO・市民活動への参加

(1) 相関表より

相関表で取り上げる問いは、ソーシャル・キャピタルの要素同士の相関性の問い及び、年代（年齢）、居住年数。

相関表V

【表 104】

		問 1(2) 地域との 付き合い	問 1(3) 地域との 面識・交 流	問 2(2) 一般的に 人は信頼 できるか	問 3(1) a 地縁的 な活動	問 3(1) c ボラン ティア・ NPO・市 民活動	問 4(1) 地域のま とまり	問 4(2) 地域への 愛着・誇り	問 4(3) 地域への 居住継続 意識	問 5(2) 年齢	問 5(5) 居住年数
問 4(1) 地域のま とまり	Pearson の 相関係数	.352**	.429**	.282**	.283**	.134**	1	.540**	.290**	.149**	.212**
	有意確率 (両側)	.000	.000	.000	.000	.000		.000	.000	.000	.000
	度数	850	850	844	837	831	855	852	848	854	845
問 4(2) 地域への 愛着・誇り	Pearson の 相関係数	.347**	.373**	.319**	.281**	.196**	.540**	1	.509**	.170**	.276**
	有意確率 (両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000		.000	.000	.000
	度数	848	848	842	835	829	852	853	847	852	842
問 4(3) 地域への 居住継続 意識	Pearson の 相関係数	.309**	.255**	.240**	.241**	.155**	.290**	.509**	1	.282**	.278**
	有意確率 (両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000		.000	.000
	度数	845	845	840	832	826	848	847	850	849	839

**．相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。

*．相関係数は 5% 水準で有意（両側）です。

相関係数より、地域のまとまり、地域への愛着・誇りでは、問 1(3)が最も高い数値が現れており、問 1(2)にも相関性が認められる。したがって、地域のまとまりを感じる人、地域の愛着・誇りを感じる人は、地域の多くの人との面識・交流があるということ、続いて地域の人と深く付き合いしていることと関係があることが想定できる。

また、地域のまとまりと地域への愛着・誇りを感じる意識についても相関性が認められ、まとまりを感じている人は愛着を感じていることがうかがえる。

地域への居住継続意識については、地域への愛着・誇りとの相関性が認められ、愛着・誇りを感じている人は、居住継続意識も強いこともうかがえる。

また、年齢、居住年数では、地域への居住継続意識で年齢、居住年数双方との相関性が認められる。地域のまとまり、地域への愛着・誇りとは、居住年数との関わりがあることがうかがえる。

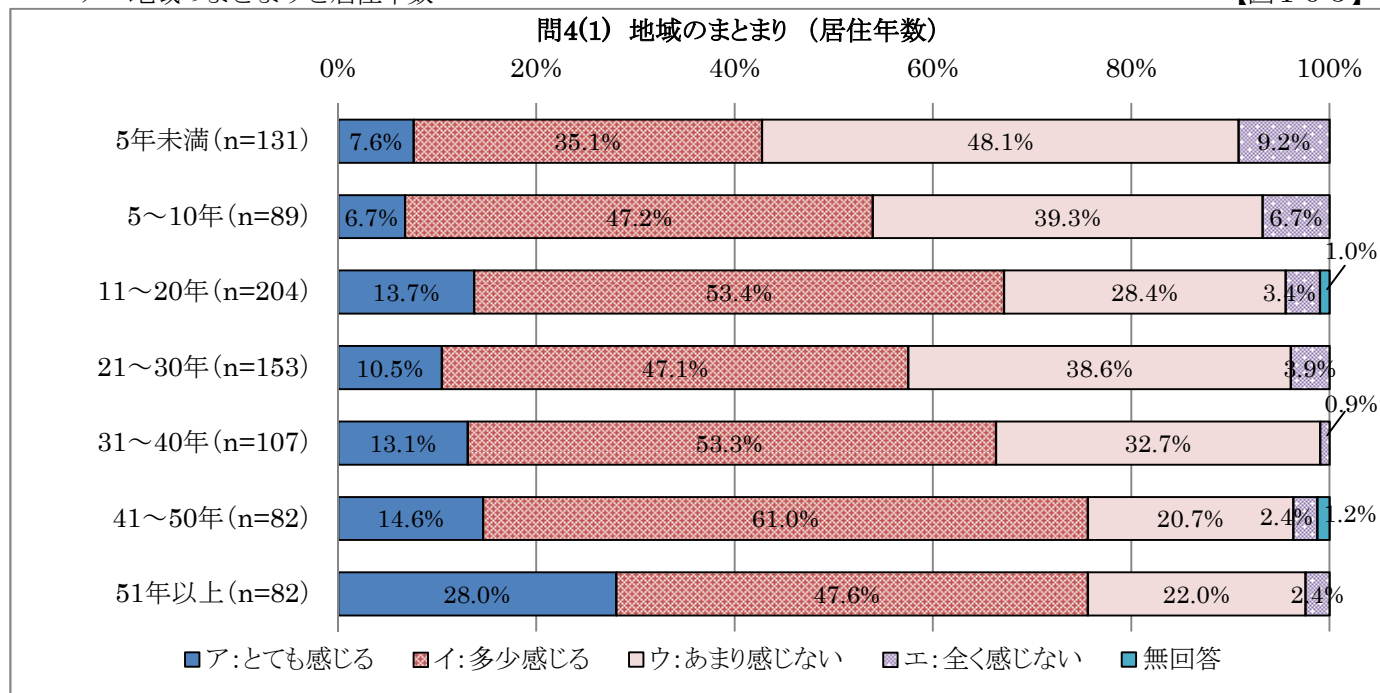
(2) クロス集計より

ここでは、居住年数、及びソーシャル・キャピタルの要素と地域のまとまり、地域への愛着・誇りを感じる意識、地域への居住継続意識との相関性を見ていくこととした。

① 地域のまとまり、地域への愛着・誇り、地域への居住継続意識と居住年数

ア 地域のまとまりと居住年数

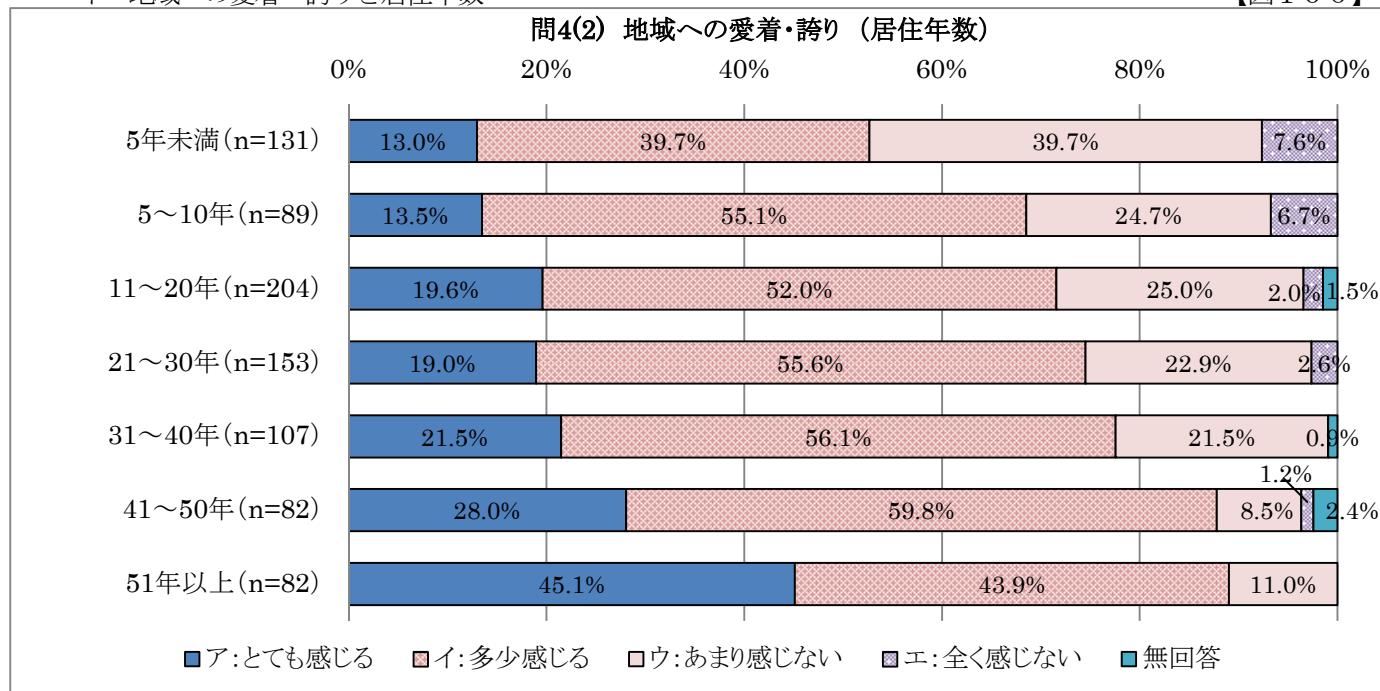
【図105】



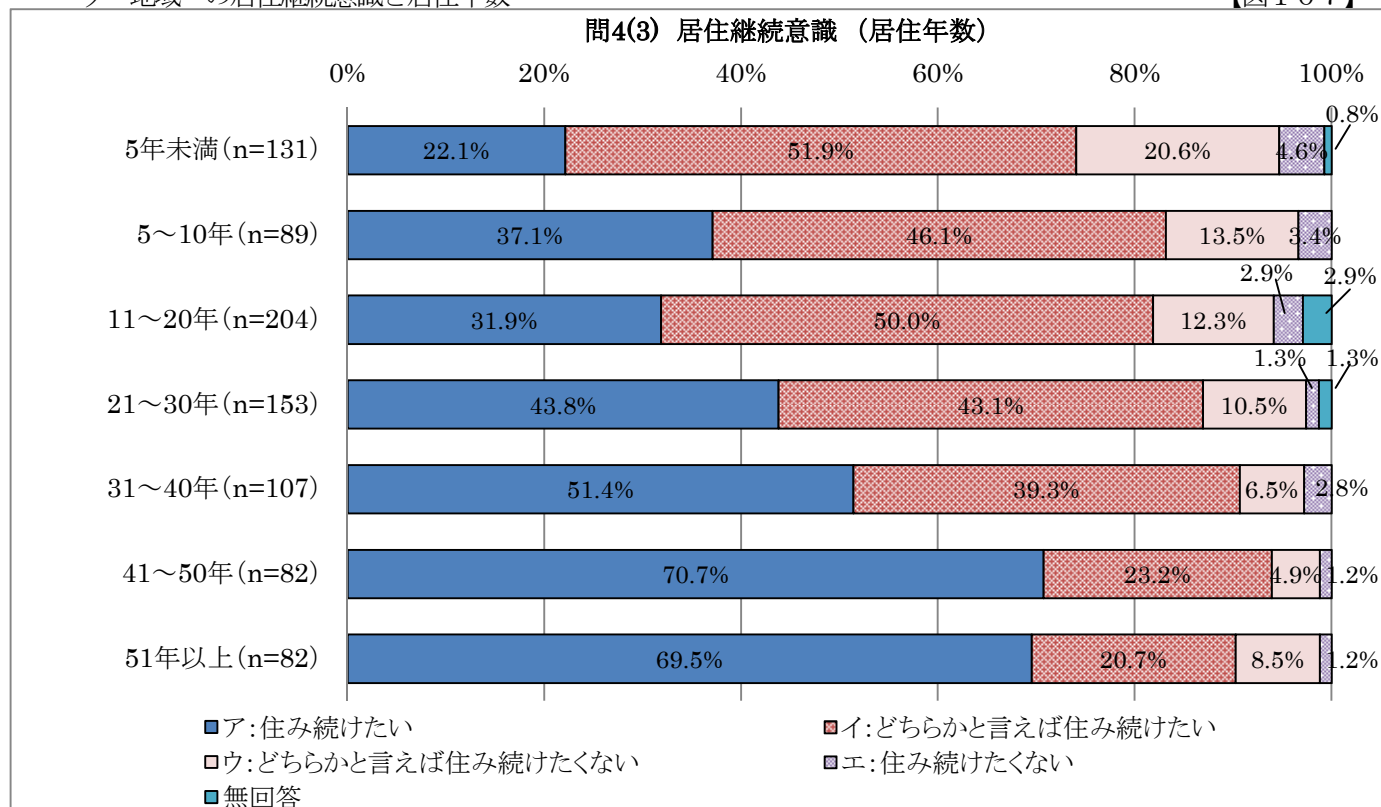
11～20年は、地域のまとまりを「とても感じる」「多少感じる」と回答した割合の合計は、67.1%で、21～30年 57.6%、31～40年 66.4%を上回っているが、概ね居住年数が長くなるにつれて、地域のまとまりをとても感じる、多少感じるに回答した割合は、高くなる傾向が見られ、51年以上は75.6%である。

イ 地域への愛着・誇りと居住年数

【図106】



地域への愛着を「とても感じる」「多少感じる」と回答した割合の合計は、居住年数が長いほど割合も高くなる傾向が見られ、51年以上は89.0%である。



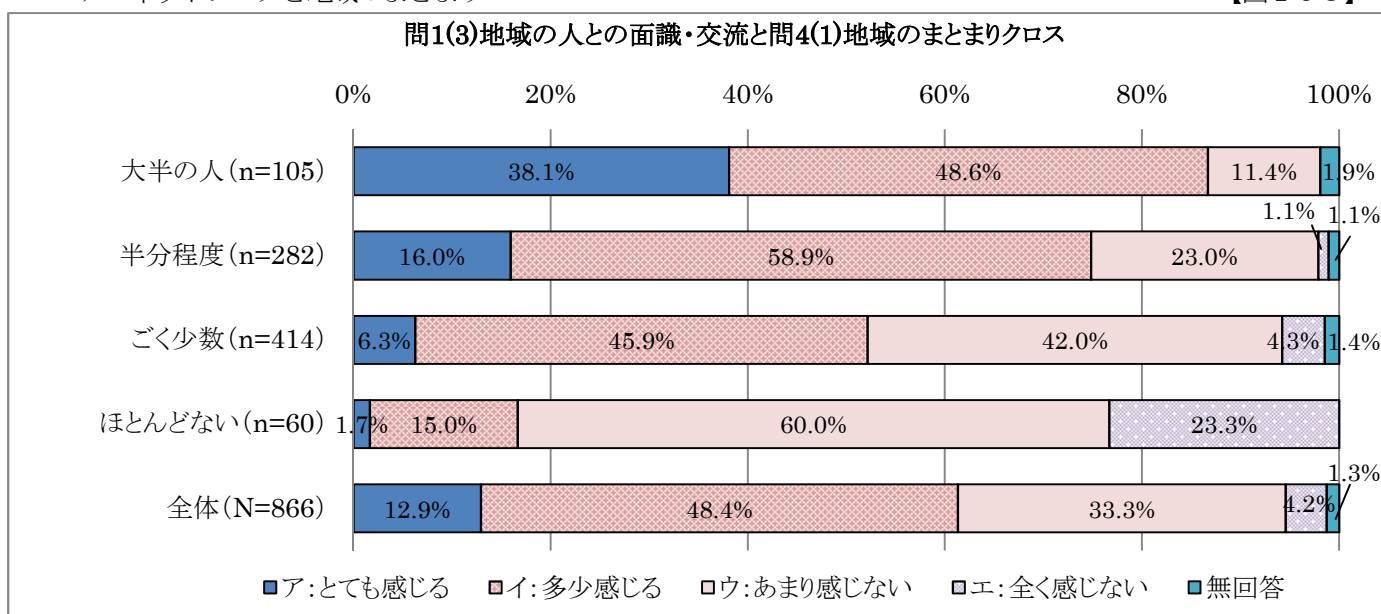
概ね、居住年数が長くなるにつれて、地域への居住継続意識も強くなる傾向が見られ、「住み続けたい」「どちらかと言えば住み続けたい」と回答した割合の合計が最も高かったのは41～50年で93.9%である。31～40年が90.7%、51年以上が90.2%と続き、いずれも9割以上である。

② 地域のまとまり、地域への愛着・誇り、地域への居住継続意識とソーシャル・キャピタルの要素

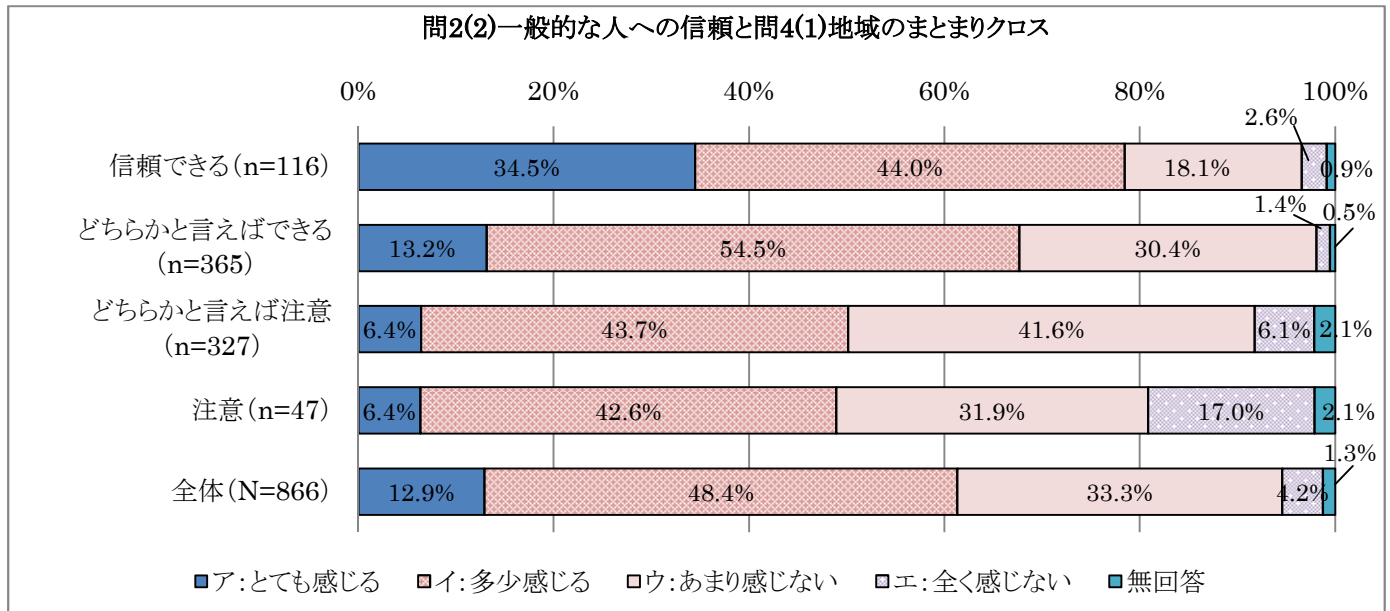
ここでは、ソーシャル・キャピタルの要素としては以下の問いとした。

- ・ネットワーク …問1(3)地域の人との面識・交流
- ・信頼 …問2(2)一般的な人への信頼
- ・社会参加 …問3(1)a 地縁的な活動への参加

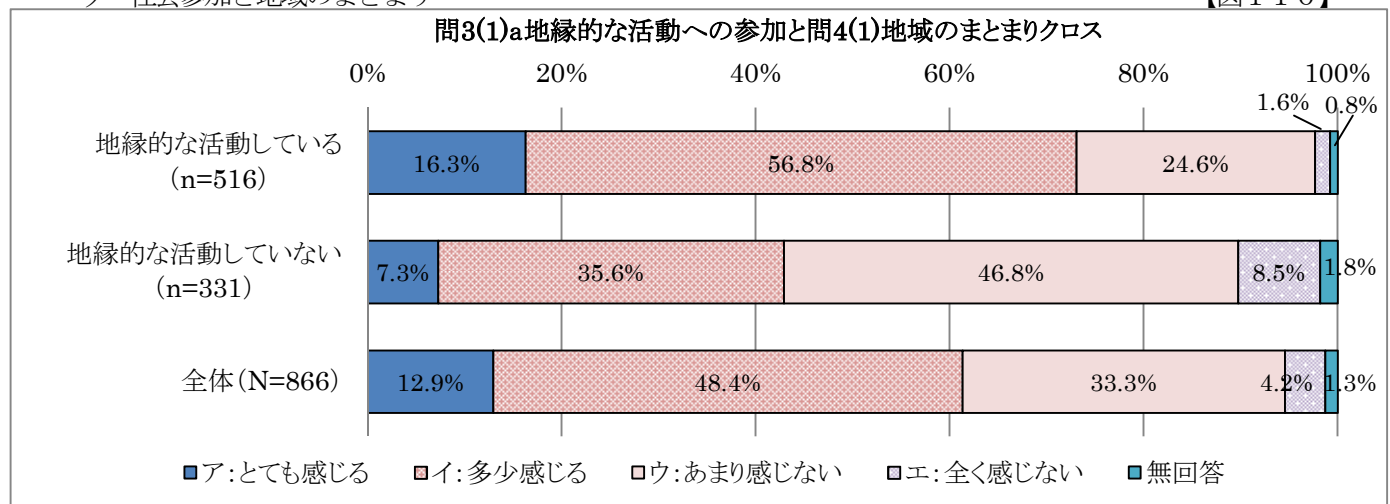
ア ネットワークと地域のまとまり



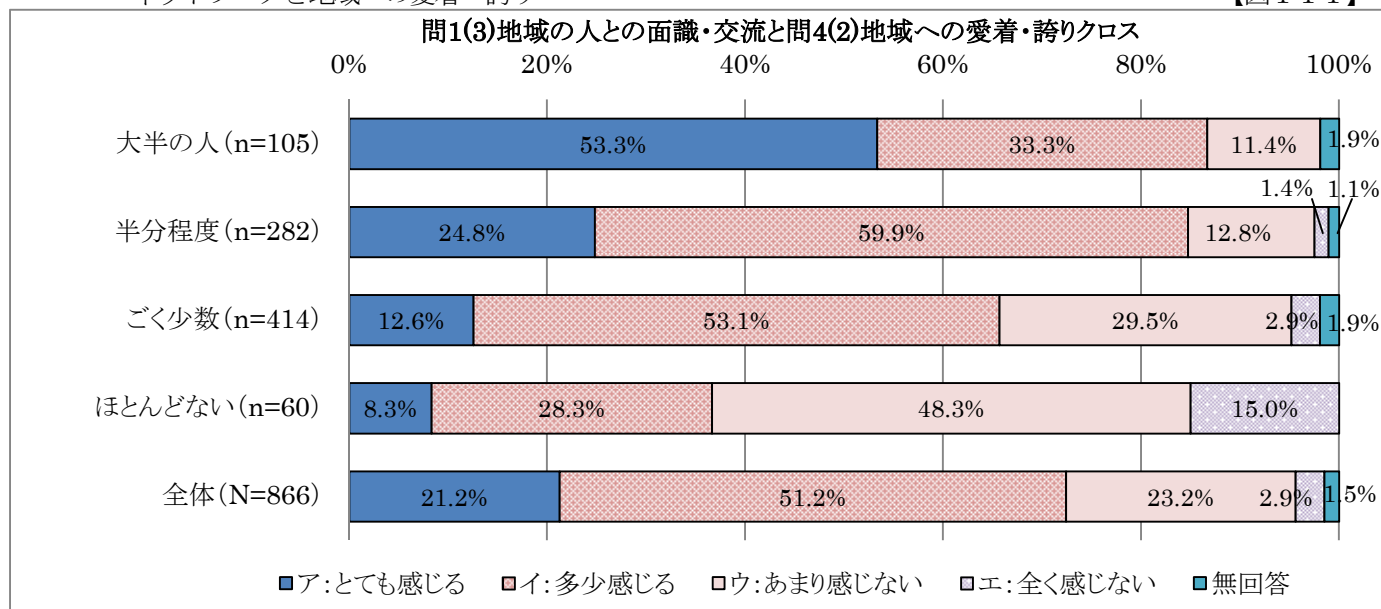
「大半の人」と面識・交流があると回答した人で、地域のまとまりを「とても感じる」と回答した人の割合は38.1%で最も高い。面識・交流が「ほとんどない」と回答した人で、地域のまとまり「全く感じない」と回答した人の割合は23.3%で最も高い。面識・交流がある人ほど地域のまとまりを感じる割合が高い傾向が見られる。



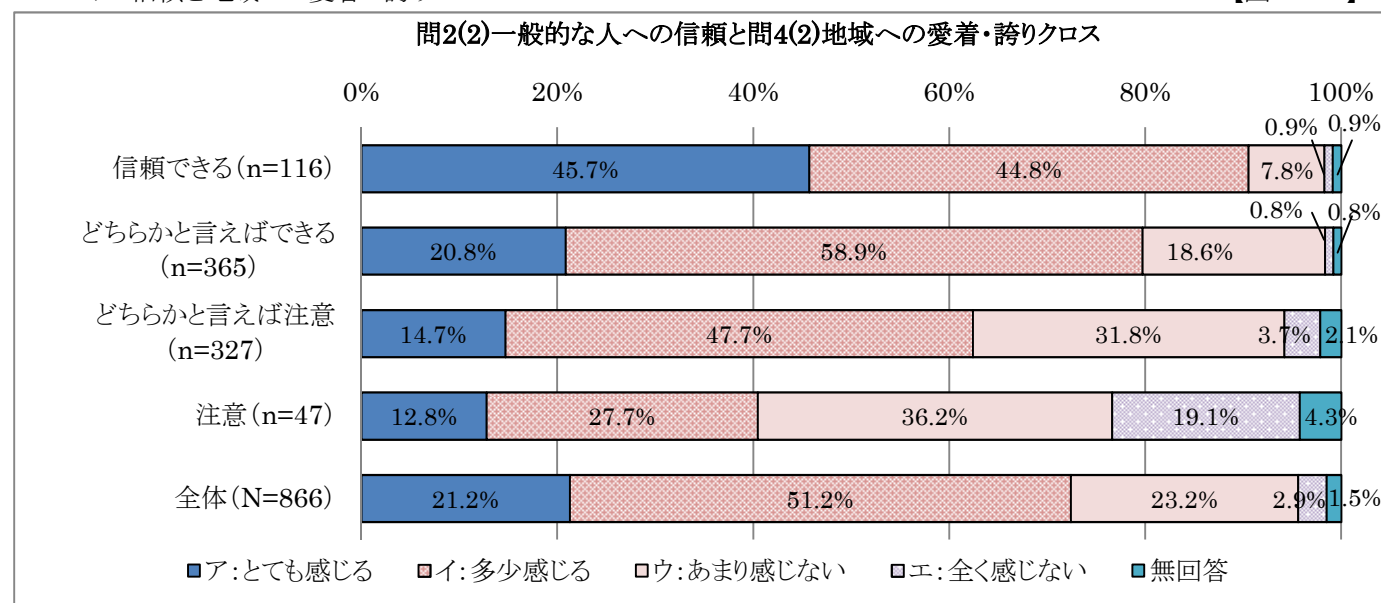
一般的に人は「信頼できる」と感じていると回答した人は、地域のまとまりを「とても感じる」と回答した割合が、34.5%で最も高い。一般的に人は「注意」するに越したことはないと感じていると回答した人は、地域のまとまりを「全く感じない」と回答した割合が17.0%で最も高い。一般的に人を信頼している人ほど、地域のまとまりを感じている傾向が見られる。



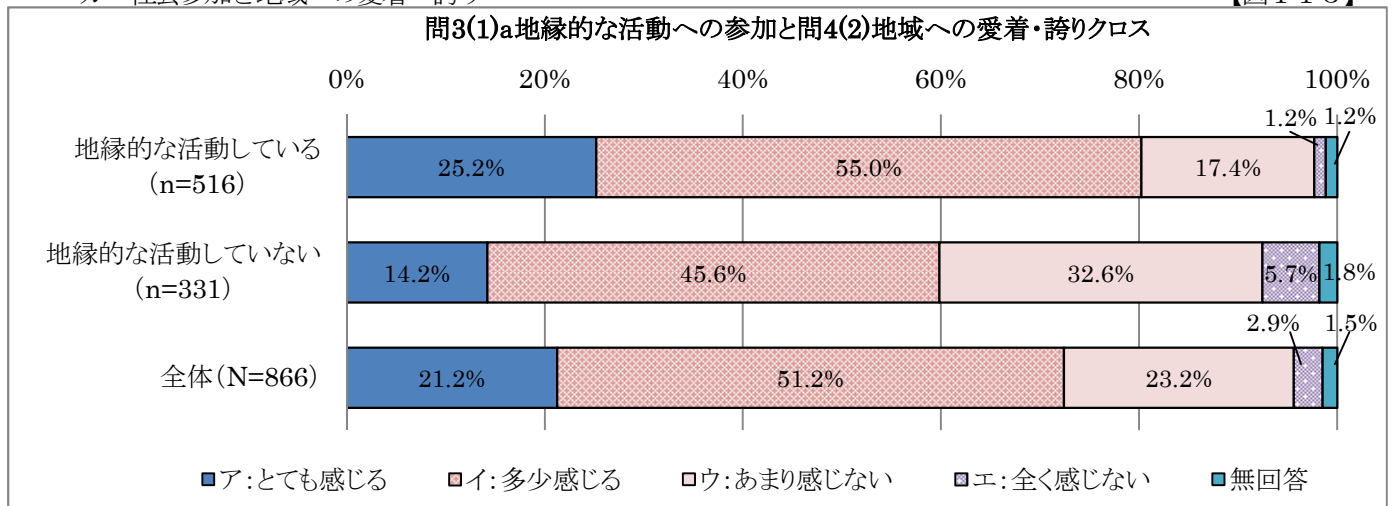
地縁的な活動をしていると回答した人は、地域のまとまりを「とても感じる」と回答した割合が16.3%で、地縁的な活動をしていないと回答した人の7.3%を9.0ポイント上回っている。地縁的な活動をしている人の方が、していない人よりも地域のまとまりを感じている傾向が見られる。



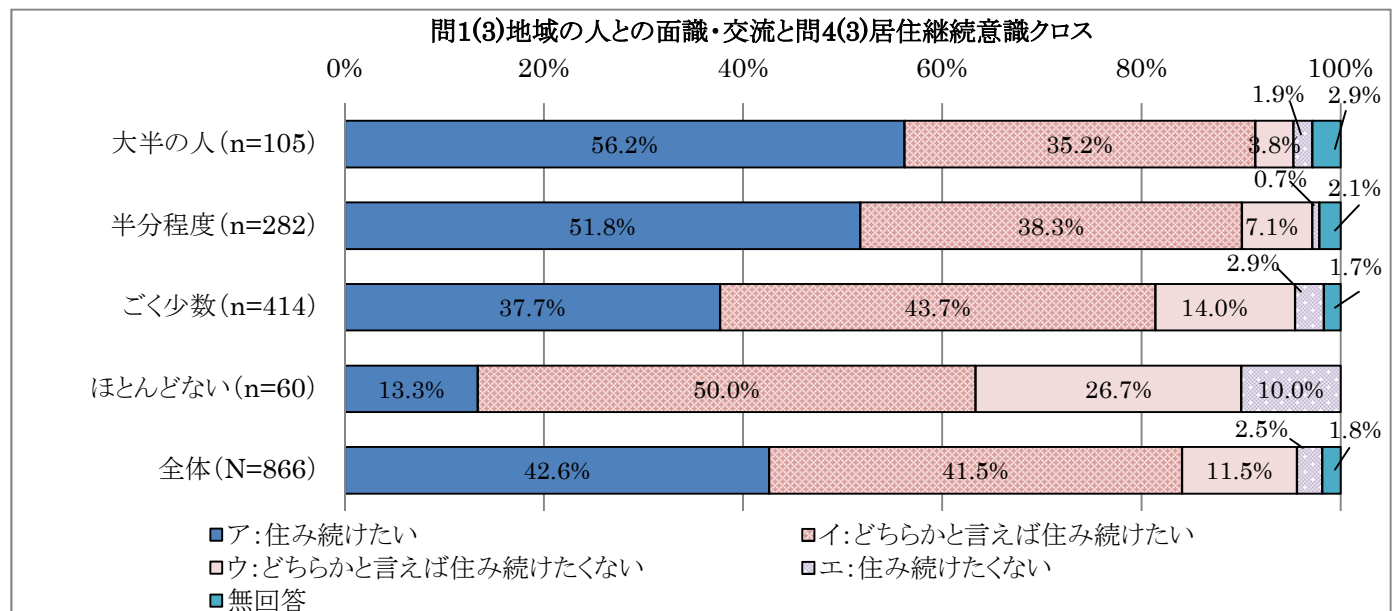
「大半の人」と面識・交流があると回答した人で、地域への愛着・誇りを「とても感じる」と回答した人の割合は53.3%で最も高い。面識・交流が「ほとんどない」と回答した人で、地域への愛着・誇りを「全く感じない」と回答した割合が15.0%で最も高い。面識・交流がある人ほど、地域への愛着・誇りを感じている傾向が見られる。



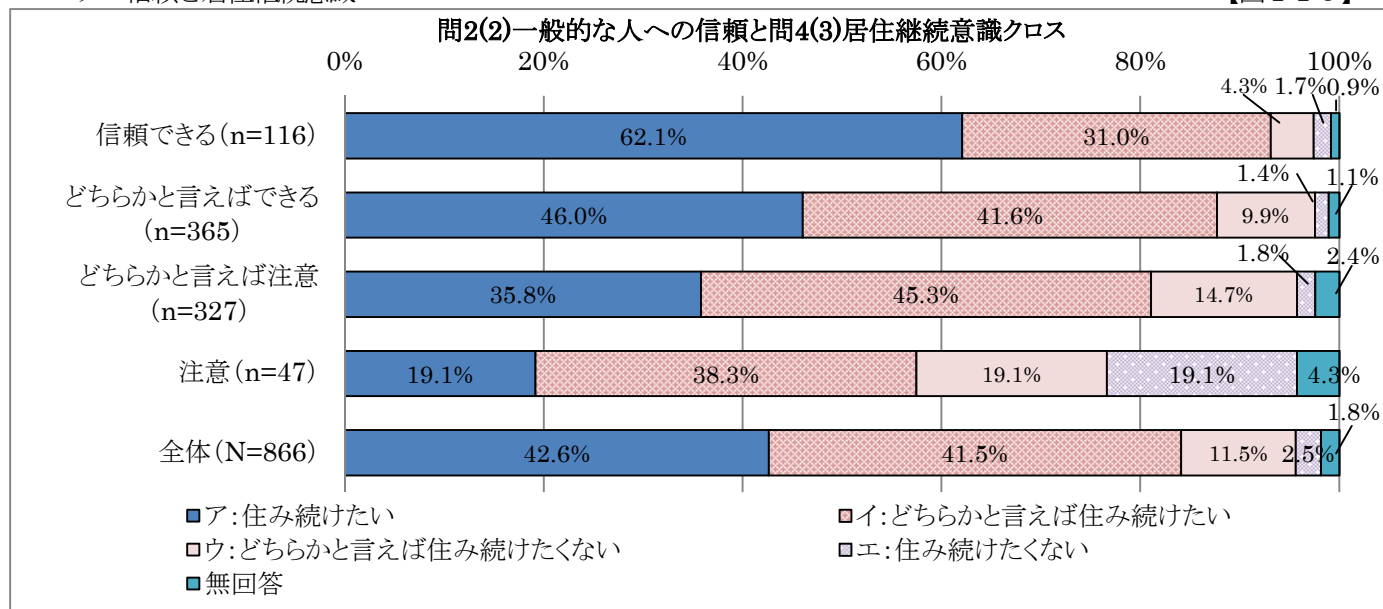
一般的に人は「信頼できる」と感じていると回答した人は、地域への愛着・誇りを「とても感じる」と回答した割合が45.7%で最も高い。一般的に人は「注意」するに越したことはない」と回答した人は、地域への愛着・誇りを「全く感じない」と回答した割合が19.1%で最も高い。一般的に人を信頼している人ほど、地域への愛着・誇りを感じている傾向が見られる。



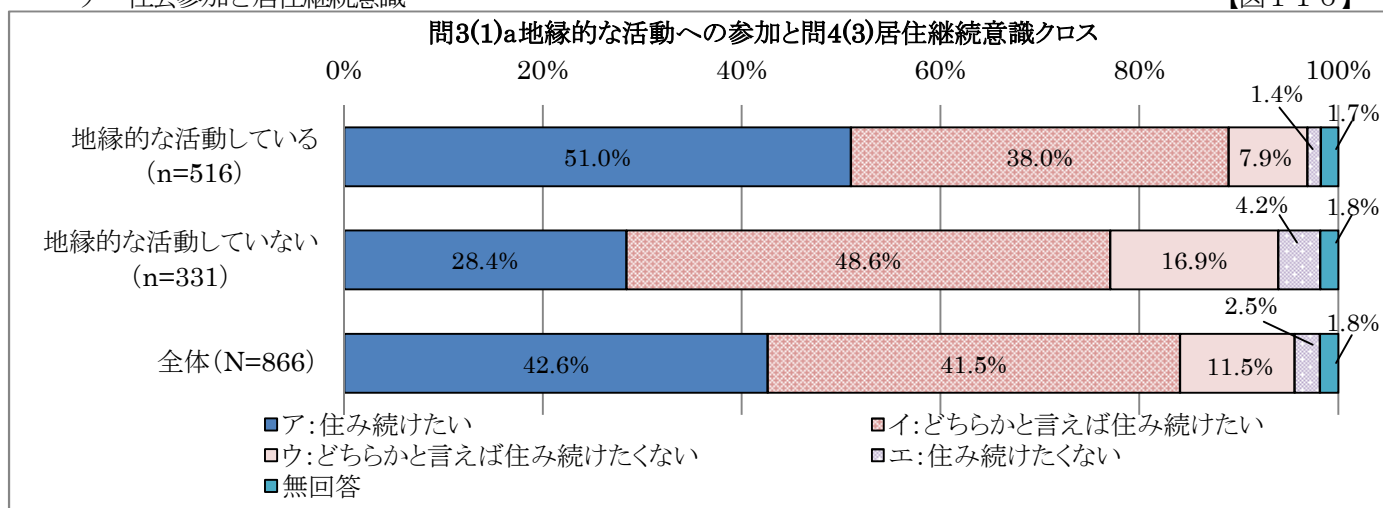
地縁的な活動をしていると回答した人は、地域への愛着・誇りを「とても感じている」と回答した割合が、25.2%で、地縁的な活動をしていないと回答した人よりも11.0ポイント上回っている。地縁的な活動をしている人の方が、していない人よりも地域への愛着・誇りを感じている傾向が見られる。



面識・交流が「大半の人」とあると回答した人は、地域に「住み続けたい」と回答した割合は56.2%、「半分程度」とあると回答した人では51.8%である。面識・交流がある人ほど、居住継続意識が強くなる傾向が見られる。



一般的に人は「信頼できる」と回答した人は、地域に「住み続けたい」と回答した割合が62.1%である。一般的に人を信頼している人は、居住継続意識が強くなる傾向が見られる。



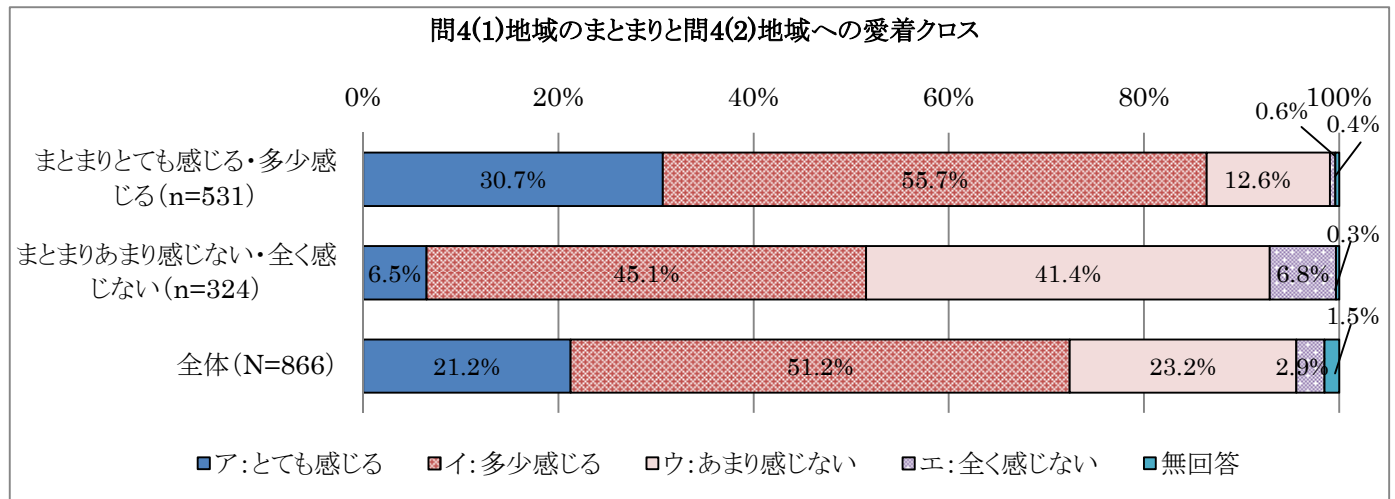
地縁的な活動をしていると回答した人は、地域に「住み続けたい」と回答した割合は51.0%である。地縁的な活動をしていないと回答した人の28.4%よりも、22.6ポイント上回っている。地縁的な活動をしている人は、していない人よりも居住継続意識が高い傾向が見られる。

2 地域のまとまり、地域への愛着・誇り、地域への居住継続意識同士の相関性

(1) 地域のまとまり、地域への愛着・誇り、地域への居住継続意識同士の相関性

① 地域のまとまりと地域への愛着・誇り

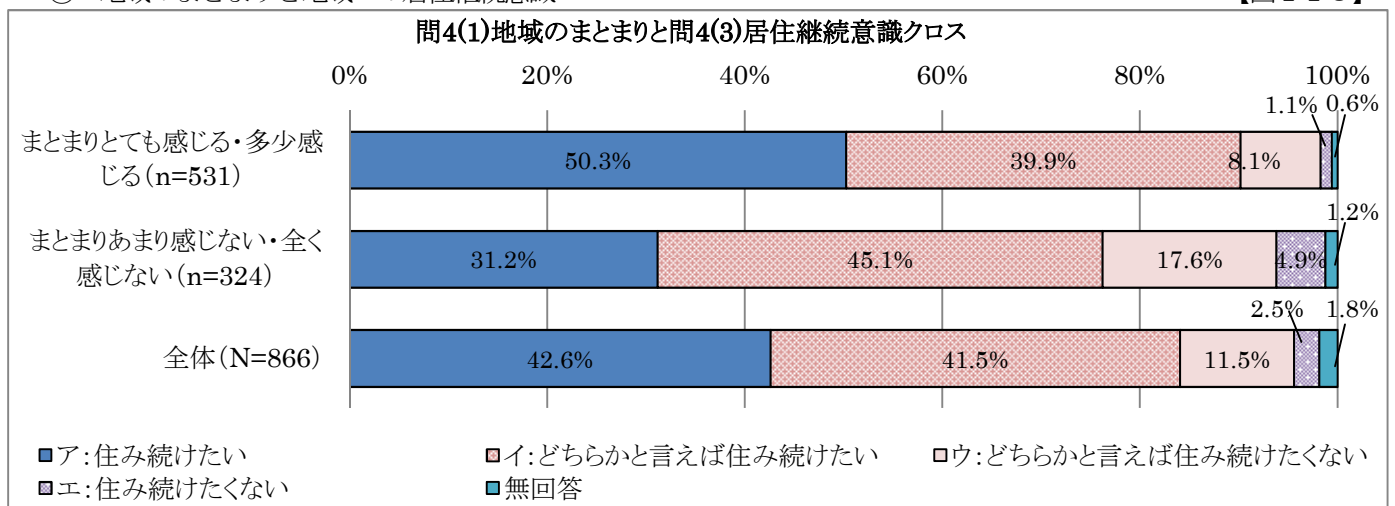
【図117】



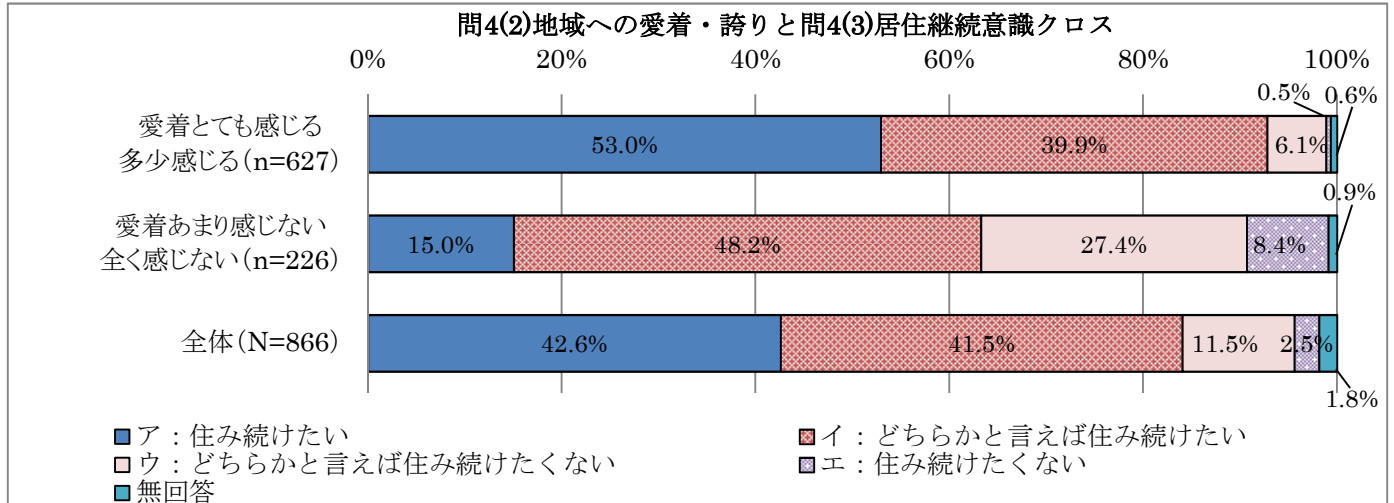
地域のまとまりを感じていると回答した人（まとまりを「とても感じる」と「多少感じる」の合計）は、地域への愛着・誇りを「とても感じる」と回答した割合が、30.7%、地域のまとまりをあまり感じない・全く感じないと回答した人では6.5%である。まとまりを感じている人ほど、地域への愛着・誇りを感じる割合が高い傾向が見られる。

② 地域のまとまりと地域への居住継続意識

【図118】



地域のまとまりを感じていると回答した人（まとまりを「とても感じる」と「多少感じる」の合計）は、地域に「住み続けたい」と回答した割合が50.3%、地域のまとまりをあまり感じない・全く感じないと回答した人では31.2%である。まとまりを感じている人ほど、地域への居住継続意識が高い傾向が見られる。



地域への愛着・誇りを感じると回答した人（愛着・誇りを「とても感じる」と「多少感じる」の合計）は、地域に「住み続けたい」と回答した割合が53.0%で、地域のまとまりをあまり感じない・全く感じないと回答した人では15.0%である。地域への愛着・誇りを感じている人ほど、地域への居住継続意識が高い傾向がみられる。

【図118】【図119】から、地域のまとまりを感じる・多少感じると地域への愛着・誇りをとても感じる・多少感じると回答した人で、「住み続けたい」と回答した割合は、さほど違いはないが、地域のまとまりをあまり感じない・全く感じないと回答した人で「住み続けたい」と回答した人の割合は31.2%、愛着・誇りをあまり感じない・全く感じないと回答した人で「住み続けたい」と感じている人は15.0%と2倍の開きがある。このことから、地域への愛着・誇りを感じない人は、まとまりを感じない人よりも、居住継続意識が低くなる傾向があると想定できる。つまり、地域のまとまりよりも、地域への愛着・誇りを感じないと居住継続意識につながりにくいものと思われる。

3 地域のまとまり、地域への愛着・誇り、地域への居住継続意識との相関性から見えてきたもの

(1) ソーシャル・キャピタルの要素との相関性

① ネットワークとの相関

- ア 地域の人との面識・交流がある人ほど、地域のまとまりを強く感じる傾向が見られる。
- イ 地域の人との面識・交流がある人ほど、地域への愛着・誇りを強く感じる傾向が見られる。
- ウ 地域の人との面識・交流がある人ほど、地域への居住継続意識が強くなる傾向が見られる。

② 信頼との相関

- ア 一般的に人は信頼できている人ほど、地域のまとまりを強く感じる傾向が見られる。
- イ 一般的に人を信頼できている人ほど、地域への愛着・誇りを強く感じる傾向が見られる。
- ウ 一般的に人を信頼できている人ほど、地域への居住継続意識が強くなる傾向が見られる。

③ 社会参加との相関

- ア 地縁的な活動をしている人の方が、していない人よりも地域のまとまりを強く感じる傾向が見られる。
- イ 地縁的な活動をしている人の方が、していない人よりも地域への愛着・誇りを強く感じる傾向が見られる。
- ウ 地縁的な活動をしている人の方が、していない人よりも地域への居住継続意識が強くなる傾向が見られる。

(2) 居住年数との相関性

- ① 居住年数が長いほど、地域のまとまりを強く感じる傾向が見られる。
- ② 居住年数が長いほど、地域への愛着・誇りを強く感じる傾向が見られる。
- ③ 居住年数が長いほど、地域への居住継続意識が強くなる傾向が見られる。

(3) 地域のまとまり、地域への愛着・誇り、地域への居住継続意識同士の相関性

- ① 地域のまとまりを感じている人ほど、地域への愛着・誇りを感じる意識も高くなる傾向が見られる。
- ② 地域のまとまりを感じている人ほど、地域への居住継続意識が強くなる傾向が見られる。
- ③ 地域への愛着・誇りを感じている人ほど、地域への居住継続意識が強くなる傾向が見られる。
- ④ 地域のまとまりよりも、地域への愛着・誇りを感じるの方が、地域への居住継続意識に影響する傾向が見られる。

V 意見・記述、その他の集計結果

1 地域活動についての記述

(1) 地域での活動について感じていること 【問3 (5) より】

① 活動から得たこと

20代	女性	地域の仲が深まってよいと思う。
20代	女性	色々な行事が行われていて楽しく交流することができる。
20代	女性	リーダーが素晴らしい人なので、活気があると思う。
20代	男性	二年に一度、地元で各町内が屋台を出して、お祭りを行うことが町の活性化になっているように感じる。
20代	男性	地域の方とスポーツを通じて関わることによって、以前より地域に愛着を感じる。
20代	女性	活動するまでは不安なことが多いけど、参加してみると人が温かくて学びがたくさんある。
20代	女性	高齢者の方々が元気で明るい。
20代	女性	地域のひとと人をつなぐ機会だと思う。
20代	女性	とても活気があっている。
20代	男性	楽しいから参加している。
20代	男性	地域内での交流に参加することで、価値感、考え方を共有し、また新たな視点で、地域に接する（関わる）ことができた。
20代	女性	以前は地域の行事などに参加していたが、今は参加していないので、参加してみるのもいいと感じている。
30代	女性	地元ではお祭りが多く毎回楽しく参加している。
40代	女性	主に育成会を中心とした活動に参加しているが市民運動会やどんど焼きなど自治会と共同の行事への参加などもあり、地域の幅広い年齢層の方と交流することで勉強になることも多い。負担を感じることも多いが、地域を盛り上げるためにも大切だと思う。
40代	女性	とても思いやりがある。
50代	女性	地域の方々とのつながりは、大切だと思う。
50代	男性	新たに引っ越してきたものなので活動を通してより親しくなれたような気がする。
60代	男性	決心するまでに時間がかかるが、参加すると楽しい。
60代	女性	地域で行われるそうじ、お祭り、自治会役員を通しての活動で、大変だと思うこともあるが、大切なことと思う。
60代	女性	自治会に参加し、地域の交流を深めている。
60代	女性	市の高齢者相談員をやっているが、人と人とのつながりがとても大切だと思っている。また、活動することで大勢の方と知り合いになることができ感謝している。
70代	女性	人とのつながりが深まった。
70代	男性	積極的に色々な活動に参加している人が多く刺激を受ける。
70代	女性	公民館を通しての参加は自主的に前向きの方が多く共感することも多く、つながりも大きく、達成感もあり楽しい。

② 地域活動の課題等

ア 負担感

20代	女性	人とのつながりは大変。
20代	女性	祭り等が多くて子どもがいるので面倒くさい。
20代	女性	役職に就くと大変そうである。
30代	女性	都合が悪いことをやらないといけなかったりするので面倒くさい。
30代	男性	休日も仕事のためなかなか地域活動をする時間余裕がない。

40代	男性	面倒な時もある。
40代	女性	業務にされると負担。
40代	女性	年代別で対応に気遣いをするのが苦痛に感じる事がある。
40代	男性	活動が土日。土日は仕事なので参加できない。
50代	女性	2か月に1回くらいの割合で、飲み会があり大変。女性は用意や片づけをするので負担。年に2回くらいならいいのだが。
50代	女性	地域の行事、風習、決まり事は景色としては美しいものですが、その中に入ると不合理なことが多く、その拘束力に驚かされる。
60代	男性	いろいろな活動があり、参加したいと思っているが、時間（時刻）のこともあり難しい面もある。

イ 交流が少ない・参加者が固定化 等

20代	男性	希薄。
20代	男性	昔より薄れてきたと感じる。
20代	女性	全く交流がない。
20代	女性	人との関わりがほとんどない。
20代	女性	地域での活動自体があまりない。参加するとしたら父や祖母。
20代	女性	活動が（回数・内容ともに）あまり活発でないと思う。
20代	女性	盛り上がりが衰えてきているものがあるように感じる。
20代	女性	年に何度か行事はあるが、参加人数が年々減ってきているような気がする。
20代	女性	活動自体が少なくなったと思う。
20代	男性	学生と地域が集まる機会少ない。
20代	女性	地域で活動している行事等の数は多く、活発だが、決まった人しか参加しておらず、なかなか参加しにくい。
20代	女性	参加率が高い地域もあれば、低い地域もあり、地域によって活動に対する意欲の格差があるように感じる。また参加する人も特定されてきてしまっていると感じる。
20代	男性	町会などは老人が多く、入りにくい。また政治・宗教的な活動はあまり好ましくない。
30代	女性	昔から住んでいる方達に入り込めない雰囲気がある。
30代	女性	参加する人、しない人がいつも一緒。
30代	女性	参加する方の顔ぶれがいつも同じに思うことがある。
30代	女性	あまり若い人の参加が少ない。
40代	女性	参加したいがきっかけがない。
40代	女性	子どもが義務教育終了とともに参加が少なくなる。
40代	女性	子育てが終わると活動が少なくなる。
40代	女性	マンションに住んでいる人たちは子ども会育成会に入らないが、登校班は利用するので、なかなかその子や親と交流することができない。
40代	男性	自分+家族に関わる活動については地域で関わるが、その他の活動に関してはきっかけがないと関われない。
40代	女性	活動に関心を有する人が減少しているのではないかと
40代	女性	地域での活動はその家の年長者や世帯主が出ることが多いので、同年代や同性の人との交流がない。新しい人が地域の活動に関心がないことがさびしく感じる。
40代	女性	地域全体での行事に参加する人が少なくなり、それにともない中止になることが多い。
40代	男性	子どもを中心とした行事への参加人数が少ない
40代	女性	出席する人はいつも同じ人。役員は何年も変わらない。
40代	女性	年々集まりに出てこない人が増え、いつも同じメンバーでの活動となっている。義務を果たさず、権利を主張してくる人が多く、やりづらい…。

40代	女性	参加する顔ぶれが、いつも同じ。特に役員等々は、引き受ける方とそうでない方と差がある。
40代	男性	お年寄りの方が増えてきて、活動に参加することができないことが見受けられる。
40代	男性	自治意識の強いエリアであり、その中にも派閥的なものがあり、よいときは非常にまとまるが、もめたときは根に持つ傾向が強く、やり方や付き合い方に非常に気を使わなければいけない（他の地域に比べて）。
40代	女性	子どもよりもお年寄りが増えてきて、地域の役割も変わってきているのがよく分かります。心にゆとりがなくなるような気がしている。
40代	男性	参加する人はいつも決まっている。どうしたら新しい人に参加してもらえるかが課題。
50代	女性	順回りでその分担や役目があるときに参加することが主で、日常的にはあまり関わりをもていないと感じる。自分だけではなく、周囲の人たちも同様であると感じる。
50代	男性	子供が中学を卒業した頃から地域との交流が少なくなった。
50代	女性	子どもたちが小中学校を修了してしまうと地域の人とのふれあいがぐっと減ってしまい、さびしい。
50代	女性	地域社会との交流も重要であるのは分かっているが、なかなか中に入ることができない状態である。
50代	女性	子どもが大きくなると少なくなる。
50代	女性	若い人の参加を望む。
50代	女性	同じ人が、いろいろなところで活動しているが、なかなか後が続かない。
60代	女性	体育祭や神社の祭り等若い人が足りず、強制的に出なくてはいけないことに。これから先が心配。
60代	男性	参加者が少ない。
60代	女性	回覧板等での広報があるが、あまり知られていないこともあまり活発化しない一因と思います。昔のような地域のつながりが薄くなっている。
60代	女性	参加しない人はすべてに参加しないので、共通認識をもつのが難しいし、決まり事等徹底できない。
60代	女性	同年代での活動はありますが、若い世代との交流が少ない。
60代	男性	活動、交流の場が少ない。
60代	男性	年配者が多くなり、子どもの数が減っていることが心配。
60代	男性	子どもが少ないと思う。
60代	男性	古い住民が数名くらいで固めて若い人が入りづらい環境。
60代	女性	同じ人が長年役員をしているので若い人が入りにくい。
60代	男性	地域の古くからいる人ととけこみにくいところがある。
70代	男性	夫婦で勤めており班内はほとんど不在。女性たちはよく話もするが、ご主人はあいさつもしない人がおり、行事にも参加しない人が多く、交流が少ない。班の引継ぎも女性たちで毎年行っており、今年から時間が取れるようになったので、変えていきたい。
70代	女性	地域が農業主体の区域のためか、地元の人中心で年齢も高齢化している上、若い人は勤めとかに行っているため、行事にほとんど参加しない。今後の活動に不安を感じる。（転入者にとっては少々窮屈なところがある）
70代	男性	高齢者、特に男性の参加が少ない。
70代	男性	顔ぶれがだいたい同じである。
70代	男性	祭りでもボランティアでも同じ様な人が多い。
70代	男性	新しい役員不足で困難している。

ウ 情報提供の不足 等

30代	女性	外国人の方が地域の活動に参加していない。参加する方法を知らないと思う。
30代	女性	どこでどんな活動をしているか正直よくわからない。
30代	女性	広報に力が入っていないのか、やっていることを知らない。ふと寄った時に何しているのだろうと知ることが多い。

40代	男性	問3c（ボランティア・NPO・市民活動）の情報が入ってこない
50代	女性	何の活動があるのかわからない。広めてくれたら参加できることがあると思う。
60代	女性	温度の差を感じることがあり、一生懸命な人と冷めている人をどのように活動に参加してもらうことが今の課題。
60代	男性	活動する方法が見つからない。
70代	女性	声掛けがあれば出席したいが、それがほとんどないことが多い。

エ その他

20代	女性	ごみ拾いと言っているのにごみを拾っていないのはいただけないと思う。
20代	男性	一人一人の価値観が違う。
30代	男性	最近住宅団地ができて治安が悪くなった。
40代	男性	活動については一般的に理解しているが、共存という意識は薄れてきていると思う。個人を主張しているだけの人が増えているのではないのでしょうか。ただこれは少子化、共働きという世の中の流れなのだと思う。
40代	女性	時代にあったことに変更してほしい
50代	女性	考え方色々あるが、個人の都合のよく考える方が多くなっている。
60代	男性	酒飲む席が年に数回（花見、忘年会等）あり、時間は長い、けんかになるなどひどい地区もままある。
60代	男性	新たなものがない。（毎年同じ企画）
60代	男性	フラットにできる場が少ない。
60代	男性	若い人たちにいかに理解していただくかの難しさ。
60代	女性	いつも参加しない人がいるが出てくださいと言いつらい。
60代	男性	以前のように地域や地元へ愛着を求めたり感じたりしている人の減少を感じる。自分勝手というか無神経というかそんな人の増加。
70代	男性	若い世帯の人々は地域に愛着などを感じていないように見受けられる。また、高齢者は愛着を感じているが身体が弱まり活動に参加できない状態である。
70代	男性	男性のプライドの良し悪しが多く聞こえてくる。
70代	男性	農村部であることから地区内に若者が少ない。
無	無	引越して来た方をよそ者として避けること。

③ 意見・提案・改善策 等

20代	男性	老若男女を問わず、参加できる活動をしたい。 Ex.かるた大会 etc…
20代	女性	もっと地域間の交流があればよいと思う。
20代	女性	子どもが少なく過疎化しているので地域での活動も少なく、周囲は年齢が合う人がいないので地元へ若い人たちが戻ってくるような何かメリットを作れるとよいと思う。
50代	女性	夜の活動を増やしてほしい。仕事をもっていると参加できない時がある。
50代	男性	定年を迎えた場合の交流の場として、人とのつながりを深めておきたい。
50代	男性	それぞれの人の得意分野を引き出して、活動の幅を広くする。
60代	男性	ボランティア活動は自分のペースで行うことができるので気分的にリラックスできる。ノルマがないのはよいことだと思う。
60代	男性	回覧板などで活動内容は周知されているようであるが、あまり関心はなかったのを見ていなかった。今後はよく確認するようにしたい。
60代	男性	地域外から移転してきて8年になるが、いまだに「よそ者」あつかい。地域でのイベント、運動会、敬老会などは古くからの人々のみで行われ、興味がわからない。→自治会活動では会費を取られるのみ→もっとオープンで魅力ある活動をしてほしい。
60代	男性	自治会では、役員の活動（働きかけ）によって、差がありすぎる。市役所中心の運営なら、もっと役員に働きかけてほしい。

60代	女性	気軽にたくさんの人、特に一人暮らしや高齢者世帯の人が参加できるような工夫があるといい。
60代	女性	ほとんどの人が地域活動に関心があり、できれば参画したいと考えているようである。参画のきっかけをつくる仕掛けを進める人材が必要。
60代	男性	各自がもっと責任をもってほしい。
60代	女性	ボランティア等で貢献した分をポイントにして、介護が必要になったときにお世話になれたらよいと思う。
60代	男性	参加の機会を失った頃があり、今後できる限り参加するよう心がけていきたい。
60代	女性	60代後半なのでその年代の方たちと気軽に交流できるといいなと思っています。また、少し時間ができたら行きたい。
60代	男性	「仕事やその他の活動が忙しいので、地域の活動に参加できない」という人が多いが、活動の時間はやる気があれば生み出せるものであって、やる気がない人の言い訳だと思う。
60代	女性	隣近所の交流が薄れているので行事等続けていってほしい。皆で一緒に成し遂げることは大事だと思う。
60代	女性	年齢が高齢化しているので若い方もどんどん参加できるように地域・市・県で考えてほしい。
60代	男性	コミュニケーション。行事への積極的参加。
60代	女性	もっと大勢の人が参加しやすい事業があればよいと思う。
60代	男性	他地域より引っ越ししてきたので、知人がなく積極的に参加をし地域にとけこむようにしている。
70代	女性	老人会を活発に。
70代	男性	新興住宅地なので、自治会単位の行事だけではなく、町全体でやる町民大運動会を復活してほしい。
70代	女性	小さくてもよいので交流があるとよい。
70代	女性	一歩踏み出せば顔なじみができる。一人でも思いきって参加することの大切であると思う。
70代	女性	もっと多くの人が参加してくれるとよいと思う。

④ その他

20代	男性	引っ越したばかりで分からない。
40代	男性	先輩が高齢化しており、業務をいつかは引き継がなければならないが、今すぐと言われると仕事の関係で厳しい。退職後ならばOKなのだが。
60代	男性	リーダーや役員不足及び役割の大変さに頭が下がる。
60代	女性	参加したいが勤務や介護のため出席できないので申し訳なく思う。
60代	女性	知らない方何人か道路等のゴミ拾い等をみかける。グループになっているらしく、同じジャンパーを着ていた。スバラシイ事!!

(2) よりよい地域をつくるために必要だと思うこと 【問5（7）より】

① 付き合い・交流の機会等

20代	女性	昔からの人たちとの関わりをつくっていくこと。
20代	女性	地域の事業を増やして若い人も出やすい事業をつくる。
20代	女性	地域住民とのコミュニケーションを密にする。
20代	女性	たくさんコミュニケーションをとること。
20代	女性	近所の人との交流をする場をつくる。行事やお祭りなど。
20代	女性	交流を深める。
20代	男性	隣りにだれが住んでいるのか分かる程度の付き合い。
20代	女性	人との関わりを深める活動をする。
20代	男性	みんなで何かやるような行事をつくる。
20代	女性	普段から交流（挨拶）を。
20代	男性	積極的にボランティア活動等に参加し、多くの人たちと交流をもつこと。
20代	男性	やはり、イベントを多くするのがよいと思う。
20代	男性	地域で交流会を開く。
20代	女性	子どものためには地域の交流は必要だと思うが、干渉しすぎるのもトラブルになるものと思う。
20代	男性	挨拶をしっかりする。
20代	女性	魅力的な行事を実施。宣伝。
20代	女性	もう少しイベント等を増やし、地域全体で活動し、いろんな人と交流できることが必要だと思う。
20代	男性	定期的な集まり（スポーツ大会や季節ごとのイベントなど）が大切だと思う。地域の方が密接に関わり合うことが大切だと思う。
20代	女性	人と人との関わり
20代	女性	毎日のあいさつ。鍋パーティーを一緒にやる。
20代	女性	地域ごとでのイベントなど、地域の人と交流できる時間をもっとつくるべきだと思う。そして、年にどんな行事が行われているのかを地域の人に知ってもらう事が大切だと思う。知らない人が多いと思う。あと、参加しやすい環境をつくる事も大切だと思う。
20代	女性	挨拶をして思いやりをもつ。
20代	女性	現在少子・高齢化のため、高齢者の1人住まいも少なくないと思う。また、子どもは祖父母と一緒に住まれていることが多いと思う。地域で子どもと高齢者のふれあいの場を設けるだけで、見方も変わってくるのではないかな。
20代	女性	挨拶をする。噂話はしない。
20代	女性	地域住民が参加できるボランティアの機会を増やす。地域住民が交流できるイベントを考える。
20代	女性	地域の関わりを増やす。挨拶程度でいいから、まずそこから始める。
20代	女性	コミュニケーション（挨拶）
20代	女性	地域内での交流の場を設ける。持続するように「若い力」を大いに発揮できるものを取り入れる。
20代	女性	自分が住む地域について知り、愛着をもつこと。世代を問わず、地域の人々との交流の機会（イベントなど）を増やすこと。
20代	女性	地域でのまとまりが必要だと思う。
20代	女性	日常の挨拶。
20代	女性	地域住人のコミュニケーションを密に取ること。
20代	女性	近場でレクリエーション活動を開催するなどして、コミュニケーションの場を広める。
20代	女性	行事をもっと増やして、地域の人々との交流の場を増やしていくこと。

20代	女性	地域の人々が交流できるようなイベントや集会を定期的に行い、地域の人々がお互いに交流し合い、地域の中で意欲の格差が生じないように配慮する必要があると思う。あまりかしこまったような集まりではなく、年配の方も若者も気軽に交流できるような場がつけられるとよいと思う。
20代	男性	地域での交流の機会の充実が必要だと思う。
20代	女性	地域内でどのような取組をしているかなど積極的に把握し、参加していくこと。
20代	男性	風通しのよい地域、人間関係づくり。
20代	女性	地域の人たち同士が交流する場所や機会が必要。
20代	女性	まずは顔見知りになることが大切だと思う。 地域によっては若い世代の家族が家建て、地域の年齢層に差がある場合もあるため。
20代	男性	ボランティア活動（ゴミ拾い等）。
20代	男性	まだわからないが、まとめることが一番大切だと思う。
20代	女性	交流できる場、機会。
20代	女性	同じアパートの人たちとの交流。
20代	女性	地域行事等をさかんにする。
20代	男性	近所の人との挨拶など、ちょっとした声かけ。
20代	男性	定期的な集まり。
20代	男性	気軽に集れる場所があればいい。
20代	男性	全員参加型のイベントなど。
20代	男性	人が楽しみながら自然と集まれる場をつくること。 他人まかせにしないこと。
20代	男性	地域のつながり多方向での連携、交流。
20代	女性	地域の人たちとの交流とお互いに協力し合うことはとても必要だと思う。
30代	女性	人がつながること。積極的に参加したいと思えるイベント。口コミで広げてつなげる人。回覧板の効力はほぼない。おせっかいおばちゃん、おじちゃん。「イオン」に行くより魅力的なもの（暇だとみんなイオンに行く）。暇があったら集まれる場所。
30代	女性	昔から住んでいる人たちが新しく仲間になった方々を受入れ、住みよい空気、空間作りをすることだと思う。
30代	女性	地域の行事に進んで参加すること。いろんな人と会話すること。
30代	女性	日常的なつながり（コミュニケーションなど）を大切にすること。
30代	女性	積極的に声かけ（挨拶等）。
30代	女性	異年齢間の交流を増やす。
30代	女性	町のイベントを小さなことでもよいので発信してほしい。やっても町民が分からないと意味がない。サークル等、仕事帰りでも参加できる夜できるものがたくさんあるとよい。
30代	男性	地域の人を知ること、関心をもつこと、声をかけること、会話をすることとだと思う。
40代	女性	地域の人と関わりをもつ。
40代	男性	家族が気軽に参加し、体験などのイベントから家族・地域で共有できるものがもっとあった方がよいと思う。趣味などを生かして交流することが一番早い。
40代	女性	強制的に集まらせるような会合ではなく、自ら行きたいと思うような魅力ある地域活動を期待する。
40代	女性	自治会町内会等で交流つながりをもてる場をつくる。積極的に参加したいと思えるイベント。
40代	女性	地域の行事に参加するなど人とのふれあい。
40代	男性	何気ない会話。
40代	女性	面倒なことも交流の1つであると思う。意見の違う人がたくさん集まって、よりよい地域にしていくの

		だという意識をもって、誇りをもってほしい。
40代	女性	地域におみこし等のお祭りがあるといいと思う。新しい振興地なのでない。親も一緒に楽しめるお祭りがいいと思う。
40代	男性	より積極的な社会参画の意識。
40代	男性	地域交流に消極的な人があると思うが、消極的な人が抵抗なく地域行事などに参加できるようコーディネートする人がいるとよいのでは。
40代	女性	今、住んでいる地域は過疎化が激しく、ほとんど高齢者の家になってきている。若い人が地元に戻ってきたくるような魅力ある地域づくり、人と人とのつながりの強化が必要だと思う。
40代	女性	昔からの行事を大切に、新しい事にも耳を傾ける。人とふれ合う事を積極的にして、安心安全な地域づくりをする。
40代	女性	コミュニケーション。
40代	男性	会話。心の余裕。金銭の余裕。時間の余裕。
40代	女性	地域活動の参加（子どもも一緒に）。
40代	男性	古株（長老）方の意見も大事だが、もっと若い人たち（20～40代）も運営・参加していつてもらいたい。伝統行事が多い地域でもあるので。
40代	女性	地域で行われるお祭りや行事に参加すること。
40代	男性	地域の活動に積極的に参加すること。
40代	男性	あいさつができる関係づくり。
40代	男性	地域のまとまり。
50代	男性	今の時間で許される範囲で地域行事に参加する。
50代	男性	全員参加の地域会合やイベント、奉仕活動を通じて、地元の人との交流を深める必要があると思う。
50代	女性	活動を広め、全員等に分かるように人と人とのつながれるようなものをつくってほしいと思う。
50代	女性	人と人とのつながりが大切だと思う。自分自身が積極的に参加するように心がけていくことも必要だと思う。
50代	男性	挨拶はとても大切。
50代	男性	積極的な挨拶、声掛け等。
50代	女性	交流の場が減っているため、子どもを通しての知り合いはできるが、それ以外は機会がない。
50代	男性	各人が参加しやすい行事等を行い交流を深めること。
50代	女性	小学校区で、子ども達を中心に地域がまとまり、盛り上がったらいと思う。
50代	男性	大型商業施設の進出により急激な都市化が進んでアパートやマンションも建設され、そこに暮らす方々がどんな方なのか分からない。街行く人も顔を知らない人がほとんど。昔からの地域の方とは互いにあいさつや会話ができるが、新住民の方や商業施設への通勤の方との挨拶はない。どうしたらよいのか分からず不安。
60代	男性	性格的なものもあるので、100%の人がいろいろな催し（例えば盆踊り、公民館体育祭 etc）に参加はできないと思うが、人間関係を円滑にするためには、是非、参加して互いの顔を覚えていただきたい。
60代	女性	出会ったら挨拶をし合う。
60代	男性	行事等の参加者が年々少なくなっている。参加しやすい行事を考えていかなければならないと思う。
60代	男性	いろいろな行事に参加し、コミュニケーションを図ること。
60代	女性	もう少し近所どうし仲良くできたらと思う。
60代	男性	ゆるやかなつながりがもてるような場があるといいと思うようになった。地域には様々な人がいて、合わせるの難しい。

60代	女性	お近くの方々と声をかけあって暮らしていけたらと思う。助け合っていけたらよいと…。
60代	男性	互いに理解し合うため、会う機会（交流）をもつこと。
60代	男性	町内会の班単位での交流から始める。回覧板等はポストに入れるよりも手渡しがいと思う。
60代	男性	参加すること
60代	女性	市や各地区ごとにもっとみんなで参加できる何かを立ち上げたらいいと思います。
60代	女性	コミュニケーションが大切なので、挨拶から始めたい。常に気遣いを忘れず、明るい地域づくりを目指したいです。
60代	女性	近所への声かけ
60代	女性	地域に気軽にいれる場所
60代	女性	まずは町内から…1年に1回くらい新年会とかあるとよいか？立場を知る意味でも
60代	女性	社会の形態が変化して（1人暮らしの人が多い、少子化等）地域での交流がむずかしくなってきたが、いっそう必要であると感じる。
60代	女性	町内を大切に交流を深めたいと思います。
60代	男性	つながり
60代	男性	できれば全員参加が必要だと思います。
60代	男性	近隣の人とのコミュニケーション。役所等の積極的活用。
60代	女性	コミュニケーションだと思います。現在住んでいる所は高齢化が進み、若者との世代交代が必要。自治会運営していく上でも具体的にはまだまだ。
60代	女性	高齢者と子どもたちのつながりが必要と思います。
60代	女性	義務としてではなく常にコミュニケーションを取って信頼関係を築けるようにしたいと思います。
60代	女性	現在配偶者を3年前になくし、一人暮らしです。なるべくご近所の人とは仲良くしたいと思う。
60代	男性	役員だけのイベント・祭り等になりがちであり、全体に呼びかけが必要だと思います。
70代	男性	あいさつ運動の展開：あいさつは生活の基本だと思う。
70代	男性	よりよい地域をつくるためにはどんな場合にも参加すること
70代	女性	挨拶をする。地域内の商店を利用する。趣味のクラブに参加する。
70代	男性	地域での「集まり」に多くの人に参加し、語り合い、助け合うシステムが必要だが、「集まり」はどんなものがよいか、「楽しい集まり」とは何か、考えている。
70代	女性	みんなが気楽に集まれる場所が多くあればよいと思う。
70代	女性	参加しない方が多いので是非とも参加して欲しい。また、子ども育成会があっても子どもたちの参加がとて少なくて困っている。
70代	女性	高齢者に一歩外に出るための企画
70代	女性	地域の公民館活動にみんなが参加できるといいと思います。
70代	女性	地域の人へ 地域でのイベントにもっと参加してほしいと思っている
70代	男性	みんなで声をかけあうことです
70代	男性	地域の交流もあるものの公民館に集まったりで、班ごとの清掃や行事が見られない。向いた方を向いている人が多い。前に住んでいた埴田東地区は交流が多く、楽しかった。
70代	女性	自治会の公民館を中心とした地域のつながりをつくるための事業。
70代	女性	高齢者と若い世代の交流。
70代	女性	情報をきちんと伝えること。また、回覧等は止めておかず、すぐに回すこと。（期日のすぎた回覧は困る）地域行事には積極的に参加する（協力すること）。
無	女性	子供に気がるに言葉掛ける空気。あいさつが飛びかう雰囲気。
無	男性	関わりを多くすること。

② 思いやり・協力

20代	女性	皆で協力して地域をつくる。
20代	男性	ともに思いやりをもって、日々に生かす。
20代	女性	助け合いや何かあった時に協力しようとする意志。
30代	女性	福祉に力を入れること。
30代	女性	それぞれの年代がそれぞれの役割を認識し、できることをしつつ、互いを助け合えるような関係があると、信頼の心も高まると思う。
30代	女性	独居老人の地域での声掛け。シングルマザーや貧困者へのサポート。社会で問題になっていることに目を向けてほしい。
30代	女性	高齢化が進んでいるので助け合いが必要だと思う。
30代	女性	町の協力。子どものために何をすべきか考えてほしい。学区外登校の問題を早くいい方向へ解決してほしい。
30代	男性	地域全体で子育て家庭を支える環境づくりが必要だと思う。
40代	女性	思いやりをもつこと。
40代	女性	・「人のために働く」ということはいつか自分に返ってくるということをきちんと学ぶ機会をつくっていく。 ・子どもたちを共に育てているという地域の思いを育てる場がほしい。
40代	男性	色々な状況で引っ越して来る人がいます。地域で何十年と住んでいる年配の方が、もっと若い人たちとウェルカムな気持ちで迎えてくれるとよいと思う。
40代	女性	お互いにお互いの生活に寄り添うような考え方をもち、あまり無理強いせず生活していくことではないでしょうか。
40代	女性	地域の人に対して無関心になることなく、共存できる方法を見つけることが必要。家の近所に独居老人の方がいます。
40代	女性	自分がよかれと思って人に勧めたり、意見を押し通そうとしたりしても、地域のためにはよくならないと思うので、お互いの立場を理解しあって、意見を出し合った方がよいと思う。
40代	男性	相互の思いやり。
40代	女性	地域に協力的になる。
50代	女性	何でも協力し合うこと。
50代	女性	育成会・自治会の活動により、多くの方が参加できるような環境づくり。新しい方が入ったときに入りやすい状況にする努力。オープンな会の運営。
50代	女性	相手を想う気持ち。
60代	女性	やさしい見守り。
60代	女性	思いやりの心をもつことが大切だと思う。
60代	男性	他人の立場環境等をよく理解すること。
60代	男性	地域の団結力。
60代	女性	連帯感、他人の悪口を言わない、他の人のよいところを認める。
60代	女性	できる範囲での助け合い。
60代	女性	お互いに信頼し合う助け合う精神をもつこと。

③ 自覚・責任

20代	女性	1人1人がきちんと自覚すること。
20代	女性	地域のルールを1人1人が守る。
50代	女性	時代と共に人間関係が変化し、生きづらくなってきた。地域の前に人間育成（健全な精神）本当の教育、自分で考えて創造し生きる力を身に付ける。1人1人の人間力が地域の活性化になると思う。

60代	男性	地域のことに人頼みや人任せにせず、できることは積極的に自分で行うなど、地域に参加する。
70代	女性	自分で出来ることは、積極的に参加することが大切。
70代	男性	住民1人1人の自覚。我がふるさとをよくしていこうとする心がけ。
60代	男性	地域内で各人の責任意識をもつこと。

④ 環境等の整備等

20代	男性	みどりを増やす
30代	男性	我地区には公園がないため、子どもからお年寄りまで、散歩や遊びなど多目的広場的なものがほしいと思っている。年齢を問わず交流できる機会にもなる。
40代	男性	カラス対策→電線等の改善等。
50代	女性	工業団地ができるとよいと思う。・労働力が地元で確保できる仕事があればよいと思う（他の市町へ行かずにすむ）。
60代	女性	行政サービスを一定基準満たした上での協働意識。この最低ラインのサービスを保障しなければ町民はついてこないと思う。
60代	女性	地域から出た議員さんの助けを借りて、1つずつクリアすることが大切である。
60代	男性	企業誘致→若者の働く場の創造→地域平均年齢の若年化・IT企業など都心でなくても可能な企業に働きかけ。
60代	男性	地域の人々のつながりが深まるような手立てを地域（自治会・行政）などが率先して行っていくとよいと思う。特に得々としている人も地域にいたので生かしていくとよいと思う。行政と地域の協力があるとよいのではないかな。
60代	男性	地域の活動に重複したものがある。統一はできないか、特に補助について感じる。NPO等の活動内容を調べる方法がわからない。
60代	女性	・安心・安全な環境づくり。 ・スムーズにコミュニケーションが取れる体制づくり。 ・色々な情報を分かりやすく個々の家庭に届ける（プライバシーに配慮しつつ）。
60代	男性	交通の便がよくなないと住み続けられない。
70代	男性	地区内で高齢化が著しい現状から見て、行政は従来以上に積極的な関わりをすべき。現状に任せていると活動は低下していくのは確実。
70代	男性	高齢化が進んでいるので、医療・福祉・商業地の充実を進めてもらいたい。
70代	女性	住んでよかったと思うような行政側の施策。

⑤ リーダーの育成 等

70代	男性	組織をうまく生かせるリーダーの育成。行政の資金面の協力。
70代	女性	まとめ役をできる人が必要。
60代	男性	県及び市町村が積極的に参加し、地域づくりのリーダーシップを発揮してほしい。
60代	女性	地域の人たちが様々な行事や活動、ボランティア（掃除等）に気軽に参加できるように率先して先に立ってリード（？）できる人をたくさん養成する（育てる）。もしくは募る。参加できる各種の行事や遊びなどを考え出す。

⑥ 若者と共に

60代	男性	若い人たちの考えを取り入れた各種施策（いかに関心をもたせるか）。現実問題として自治会・育成会を主にやらざるを得ない。各種スポーツ大会は自治会連合会でやるから野球やゴルフと言った種目をムダにやっている。アンケートを取り、必要最小限のレクをやる等、根本的に変える必要がある。
70代	女性	若い世代が地域に新築し、入ってきているので、若者も一緒に活動できたらよいと思います。

20代	男性	若者も参加できるよう現代技術（インターネットなど）を積極的に利用するべき。現在若者の地域参加が少なくなっていることを問題にしているが、我々が参加できるような環境はないし、明らかに除外しようとしているか理解がない。
60代	男性	子ども達、若い人が住みやすい町づくり。

⑦ その他

20代	女性	もっとお店を増やした方がいいと思う。
20代	女性	私にはよく分からない。
20代	女性	交通マナーがホントにひどいと思うので改善が必要だと思います。
20代	女性	学校と地域の連携。
40代	男性	地域のコミュニティにおいてある程度自由に意見が言える環境が必要ではないかと思います。
50代	男性	時間的な余裕・若者の定住、並びに行事への参加・居住者の高齢化により行事の実施も徐々に困難になってきている。
50代	男性	広く意見を聴いて集める。
50代	男性	新しく来られた方々を取り込む方策。
60代	男性	核家族化を改善し、家族のつながりの大切さを広めたら…。地域の子どもはみんなで育てる環境や環境づくり。
60代	男性	安心安全が第一である。
60代	男性	奉仕の精神。
60代	男性	子供達に文化や歴史を伝えること。
60代	男性	高齢者向けのセミナーを企画してほしい。
60代	女性	民生委員の活動が見えにくいので、これから一人暮らし、二人暮らしの方が増えてくるので心配。
70代	男性	町自体の活性化の必要と思われるが全住民の65%以上が60歳以上となり超高齢化が進んでいるので、町内行事の開催も大変である。
70代	女性	若い人が地域に残ってくれることだと思う。
70代	女性	自然が豊かで素晴らしい地域だといつも思っている。その中に、教養文化の香りが加わるとさらに素晴らしいの質が、高まるだろうと思っているのだが、今のところ具体的なものが見えてこない。
70代	女性	核家族でなく昔のような家族制度が必要に思う。
70代	男性	シルバー大学に入学できて多くの方と集い、講師の先生の話が聞けて感じたことを各地区でもミニ大学のようなものがあって体験できればと思った。
70代	女性	若い人たちが活発に…小さなことでも声かけ。
70代	女性	地域の方と男女年齢を問わず、意見を交換し、常に会話し合える関係をつくり、地域のために協力する心構えをもつことが大事と思う。
70代	女性	地震の時の避難の話が聞きたい。
70代	男性	年齢的にバランスが取れていればスムーズに展開していけると思う。若い人が少なくまとめにくい。
70代	女性	趣味などグループ活動の推進。
70代	女性	交通について便利さがとほしい。

2 その他のクロス集計結果

(1) 地域活動から得たもの（年代別）

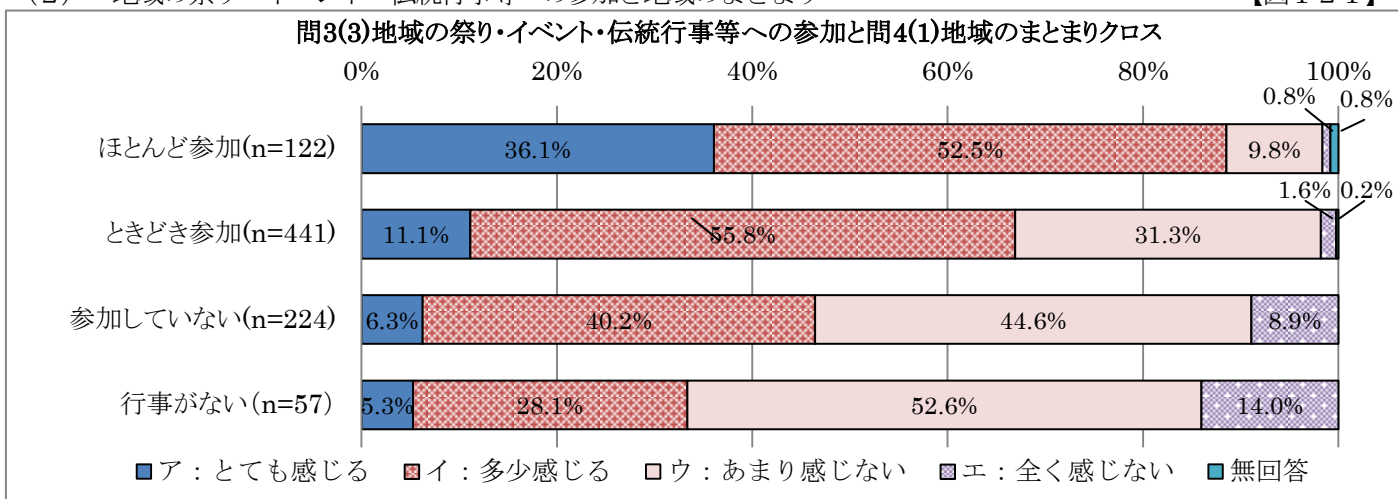
【表120】

問3(2)地域活動参加から得たもの（年代別）【MA】									
	ア：達成感・充実感	イ：知識やノウハウ	ウ：貢献	エ：仲間	オ：人とのつながり	カ：愛着	キ：しくみや問題	ク：成果の実感	ケ：その他
～29歳 (n=249)	28.5%	14.5%	12.9%	13.3%	23.3%	11.6%	4.8%	11.6%	1.2%
30～39歳 (n=104)	22.1%	11.5%	11.5%	26.0%	41.3%	14.4%	18.3%	13.5%	2.9%
40～49歳 (n=136)	25.0%	26.5%	25.0%	23.5%	50.0%	19.1%	16.2%	15.4%	1.5%
50～59歳 (n=68)	26.5%	20.6%	36.8%	29.4%	61.8%	17.6%	30.9%	22.1%	0.0%
60～69歳 (n=216)	27.3%	31.9%	24.5%	32.4%	43.5%	21.8%	19.0%	19.9%	0.0%
70歳～ (n=83)	34.9%	36.1%	22.9%	36.1%	57.8%	20.5%	20.5%	15.7%	1.2%
全体 (N=866)	27.4%	23.1%	20.3%	24.9%	41.1%	17.1%	15.4%	15.7%	1.0%

「問3(1)の地域活動に参加すること」から得られたものとして、各年代で「人とのつながり」と回答した割合が高い。

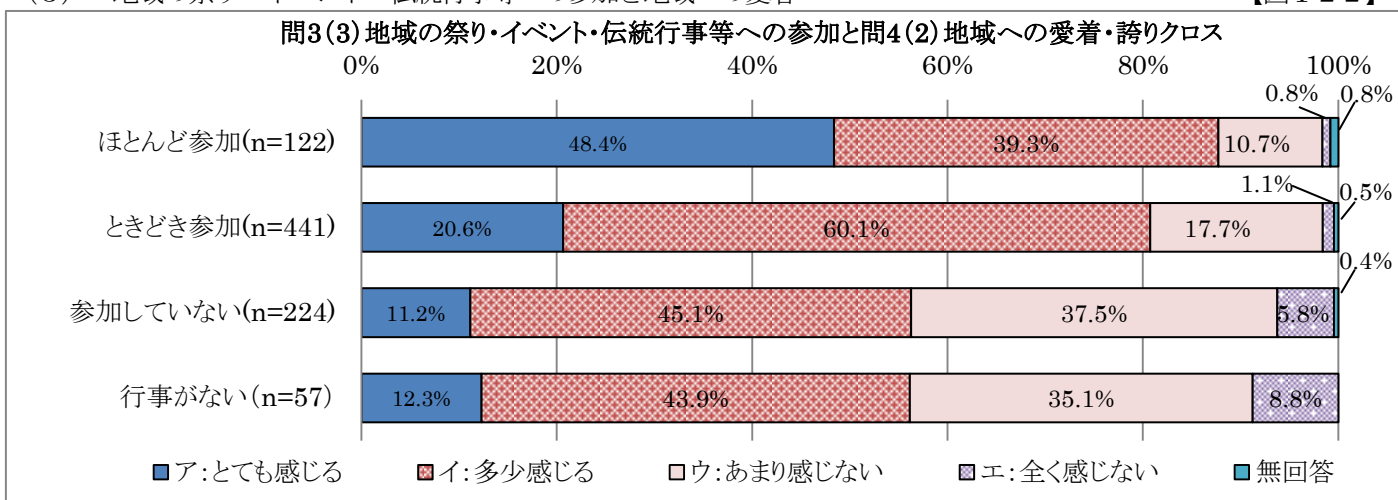
(2) 地域の祭り・イベント・伝統行事等への参加と地域のまとまり

【図121】

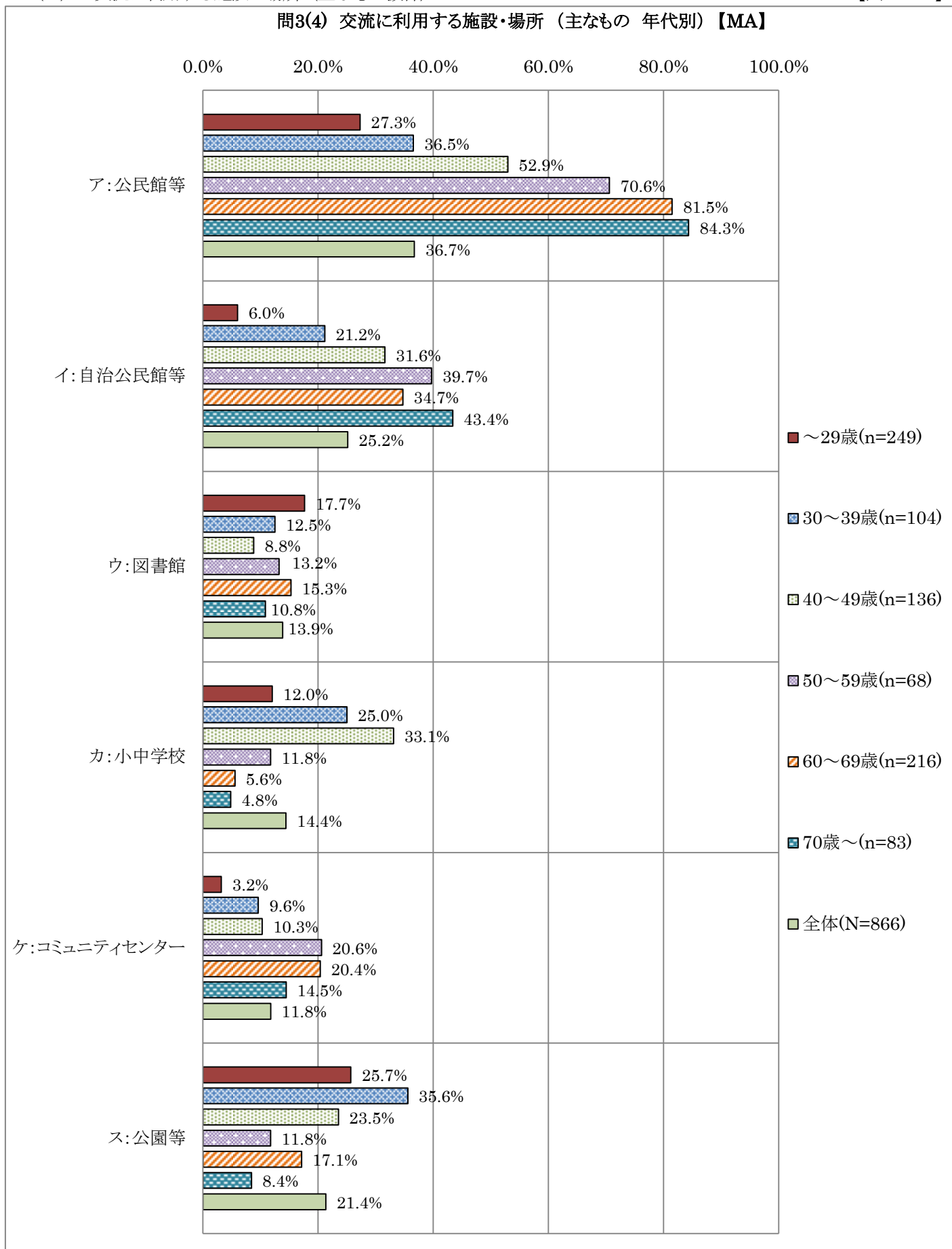


(3) 地域の祭り・イベント・伝統行事等への参加と地域への愛着

【図122】



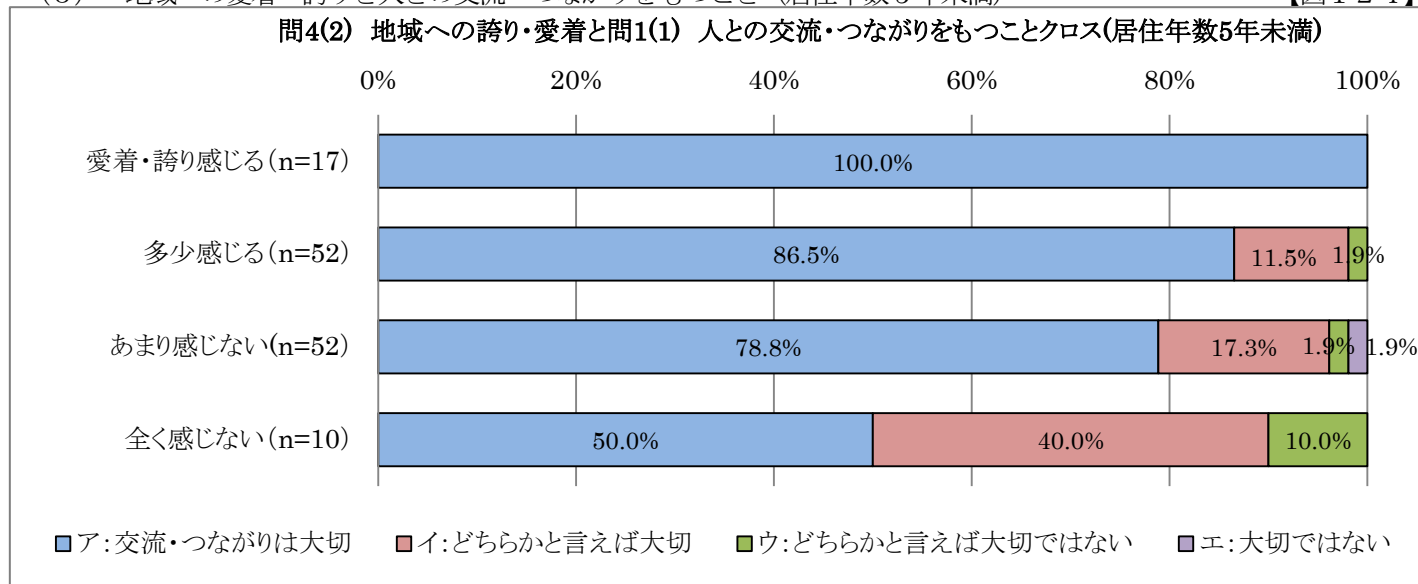
【図121】【図122】から、地域の祭り・イベント・伝統行事等に「ほとんど参加」と回答した人は、地域のまとまりや地域への愛着・誇りを「とても感じる」と回答した割合も高いことが分かる。特に地域への愛着・誇りは48.4%が「とても感じる」と回答している。



交流に使う場所として、各年代とも「公民館」は利用していると回答した割合が最も高い。また、年代が高くなるにつれて利用する割合も高くなる。50代以降は「公民館」に続いて「自治公民館」の利用率が高い。「小中学校」は40代の利用率が高い。「公園等」は、30代の利用率が高い。

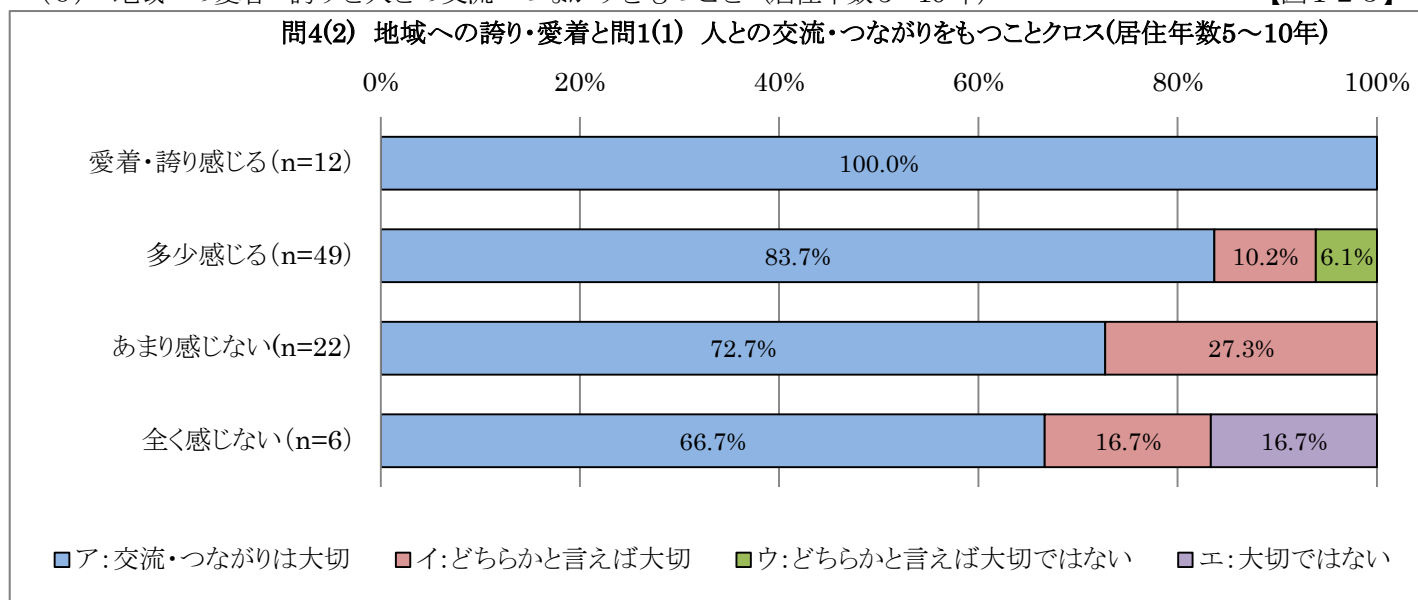
(5) 地域への愛着・誇りと人との交流・つながりをもつこと（居住年数5年未満）

【図124】



(6) 地域への愛着・誇りと人との交流・つながりをもつこと（居住年数5～10年）

【図125】



居住年数が5年未満、5～10年で、地域への「愛着・誇りをとても感じる」と回答した人の全員が、問1(1)「人と直接会って話をしたり、一緒に活動したりして、交流・つながりをもつこと」は「大切だと思う」と回答している。

Ⅵ とちぎ県民の絆づくりに向けて

1 調査結果のまとめ

(1) とちぎ県民の絆

今回の調査の目的の1つは、現在本県教育委員会が進めている「栃木県生涯学習推進計画第4期計画『新・とちぎ学びかがやきプラン』」における基本目標である「とちぎ県民の絆づくり」をより具体的に捉えることである。

調査では、ソーシャル・キャピタルという視点から、本県の人と人とのつながりの状況や要因を捉えることから、「とちぎ県民の絆づくり」を明らかにしていった。

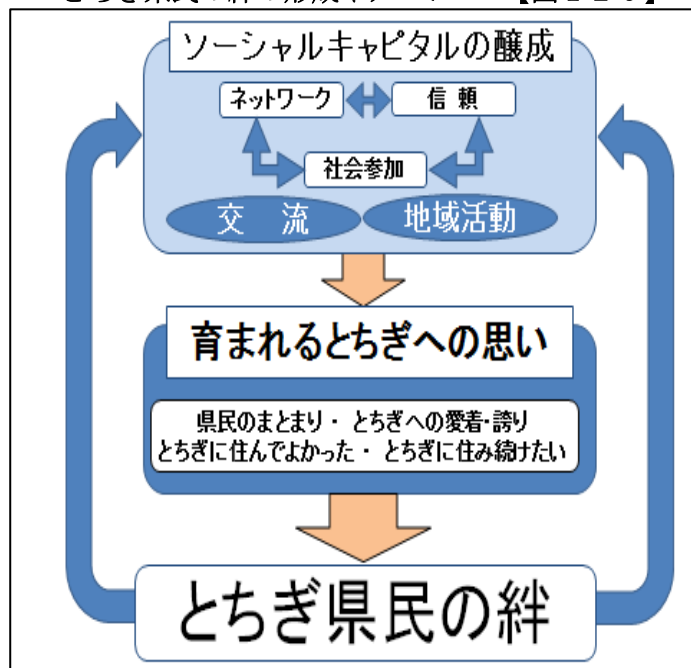
これまでの報告の通り、まず、ソーシャル・キャピタルの醸成には、年代、居住年数、同居家族等の影響が見られた。そして、ソーシャル・キャピタルのそれぞれの要素は、1つの要素のみが独立して醸成されていくものではなく、「ネットワーク」「信頼」「社会参加（互酬性の規範意識）」というそれぞれの要素同士が密接に関連し合って醸成されていくことが見えてきた。

また、ソーシャル・キャピタルの醸成は、地域のまとまり、地域への愛着・誇りを感じる意識、地域への居住継続意識といった、「地域への思い」の醸成とも大きな関係性があることが確認できた。

これらを踏まえ、「とちぎ県民の絆」というものを考えてみると、豊かな人間関係をもち、「とちぎに住んでよかった」「これからもとちぎに住み続けたい」という「とちぎへの思い」を感じる県民同士のつながり、つまり、交流・地域活動を通して信頼関係を育むことによって、地域への愛着や誇り、そして、地域に住み続けたいという意識をもった人同士のつながりということと捉えることができるのではないだろうか。

また、「とちぎ県民の絆づくり」を形成するイメージを【図126】のように表してみた。ソーシャル・キャピタルの醸成は、地域での交流を活性化させ、様々な活動を生み出すものと考えられる。そして、そこで育まれた「とちぎへの思い」をもった人同士のつながりである「とちぎ県民の絆」が作られていくという流れである。絆でつながった県民同士は、さらなる交流や地域活動へと循環し、「とちぎへの思い」、「とちぎ県民の絆」はより一層強くなっていくものというように捉えた。

とちぎ県民の絆の形成イメージ 【図126】



(2) とちぎ県民の絆づくりに向けて ～事業展開への提案～

今回の調査のもう1つの目的は、本県社会教育・生涯学習行政の今後の施策の方向性を示すことである。

近年、県外に目を向けると、生涯学習行政の首長部局への移管や事業の縮小等に向かう事例も見られた。しかし、東日本大震災に際して、被災地の多くで見られた住民の落ち着いた行動と速やかに復興に取り組む姿は、日頃から人と人がつながり、協力を大切にしてきた賜であることが明らかになり、社会教育の重要性が再確認されることとなった。

社会教育の大きな目標は、よりよい地域づくりにある。そこで、今後の本県の地域づくりという観点から、とちぎ県民の絆をより強いものしていくための施策の方向性として、大きく3点を提案する。

① 県民同士の交流の機会の充実 ～挨拶の励行と幅広い交流の機会の創出～

調査結果から、ソーシャル・キャピタルの要素の中でも、「ネットワーク」、特に「地域の人との付き合い」を深めていくことが、「ネットワーク」そのものだけでなく、「信頼」「社会参加（互酬性の規範意識）」のそれぞれの要素を醸成していくポイントであることが見えてきた。

言うまでもないが、付き合いの基本は「あいさつ」である。問 5(7)「よりよい地域をつくるために必要だと思うこと」への回答記述には、「普段から交流（挨拶）を（20 代女性）」、「あいさつができる関係づくり（40 代男性）」、「出会ったらあいさつをし合う（60 代女性）」等々、幅広い年代から挨拶を重視する声が寄せられている。まずは、スローガンづくりやあいさつ週間等、教育委員会のみならず各方面で従来から挨拶の取組は行っているものと思われるが、さらなる働きかけをしていくことを確認したい。

人とのつながりをつくるには、地域活動に参加することが有効である。（【表 1 2 0】）

全県民が地域の人、友人、知人等との付き合い、交流があることは非常に望ましいことである。しかし、同居家族等の関係（独り暮らし等）により、なかなか人との交流の機会がもてない人がいることも想定できるし、若者と他の世代との交流が不足しているという声も聞かれる。

また、調査での「社会参加」では、「地縁的な活動」への参加意識が高く、充実した取組が行われている様子がうかがえたが、家族構成や年代の影響も大きい。未婚者や子供がいない家庭、親世代からの世代交代を受けていない若者等にとっては活動する機会がないとしてもやむを得ない。さらには、活動が多いことは良いことではあるが、負担を感じることも少なくはない。

そこで、これらに関わらずに参加できる活動として、地域のイベント等とボランティア活動等への参加の奨励を提案したい。地域の祭り・イベント・伝統行事等への参加率は、地縁的な活動への参加率を上回っており、参加しやすい活動であることがうかがえる。また、地域のまとまり、地域への愛着・誇りを感じる意識との関連も見られる。（【図 1 2 1】【図 1 2 2】）

問 5(7)「よりよい地域をつくるために必要だと思うこと」への回答には、「定期的なイベント（スポーツ大会や季節ごとのイベントなど）が大切だと思う。（20 代男性）」、「自治会・町内会等で交流つながりをもてる場をつくる。積極的に参加したいと思えるイベント。（40 代女性）」等の記述が見られ、若い世代にもイベントは適切な交流の機会であることが意識されている様子がうかがえる。

ボランティア・NPO・市民活動への参加は、同居家族、や居住年数等による取組へ影響が少ない活動であることが確認できた。

また、「ボランティア活動は自分のペースで行うことができるので、気分的にリラックスできる。ノルマがないのは良いことだと思う。（60 代男性）」という記述があり、参加負担が比較的少ない活動でもあることがうかがえる。

イベントやボランティア活動等の開催・実施に当たっては、多くの人に届くような広報の充実等、情報が行き渡る工夫も考慮していく必要がある。

また、交流の場所として、公民館（生涯学習センター、コミュニティセンター含む）、自治公民館等は、年代を問わず多くの県民から利用されている。利用は若い世代が多いが、地域の公園も交流場所としては今後注目していくべきであろう。（【図 1 2 3】）

様々な障害もあろうが、気軽に交流できる機会や場づくりは、よりよい地域づくりのためには必要不可欠である。企画・実施は単独の部署が独自に進めるよりも、関係部局、関係機関との連携はもとより、地域のリーダーをはじめ地域住民とともに計画して推進していくことが、様々な課題を乗り越え、効果をさらに大きくしていくものと思われる。

② 地域を学ぶ学習機会提供の充実 ～地域の魅力、すばらしさを学ぶ～

今回の調査からは、ソーシャル・キャピタルの醸成と地域への愛着・誇りを感じる意識には、密接な関連があることがうかがえた。愛着・誇りは押し付けられるものではないが、生涯学習・社会教育行政として、よりよい地域づくりのためにも愛着・誇りを感じる意識を高めていくための支援は必要であろう。

そこで、大きな2つ目として、郷土のすばらしさの発信と地域を学ぶ学習機会提供の充実を図ることを提案したい。本県は印象が薄い県というイメージで見られることもあるが、自然、歴史、文化財の豊かさ等、全国にアピールできるものはたくさんある。これらの本県の魅力やすばらしさを学ぶことは、愛着や誇りを

育むことに大いにつながるものとする。

また、普段は目に付かなかったり、気に留めなかったりしているが、県内至るところに現在でも受け継がれている、その地域、地方の伝統行事や習俗、伝承、守られてきた自然や歴史遺産等について学ぶことは、地域への関心を高め、地域おこし等の活動を生み出すきっかけにもなり得ると思われる。

これらの学習機会をより効果的なものにする手立てとして、地域のシンクタンクである、公民館、博物館、資料館、図書館、美術館等の生涯学習関連施設との連携は有効であろう。各施設には人的、物的資源が豊富に蓄えられている。これらを講座等に生かすことは、受講者の興味・関心を高め、充実した学びとなることであろう。

また、学びを通じた交流を図れるよう、講話で終了とするのではなく、わずかな時間であってもグループトーク等の時間を設けて講座の感想や地域への関心等を語り合うことは、さらなる学びや活動にもつながることと期待できる。

③ 受け継いでいきたい「人との交流・つながりの大切さ」 ～顔と顔の見える関係づくり～

年代を重ね、居住年数を重ねることは、ソーシャル・キャピタルの醸成や地域のまとまり、地域への愛着・誇り等の意識を高めるための要因の1つであった。しかし、年代や居住年数を重ねることは、当然ながらすぐにできることではない。そこで生涯学習・社会教育行政として、本県に住んでよかったという意識、本県に住み続けたいという居住継続意識を高めていくことが、結果的にはソーシャル・キャピタルや地域への思いを醸成することにつながるものと考えられることから2つの提案をしてきた。

ここで注目してみたのは、居住年数が短くても地域への愛着や誇りをもつ人がいるということである。例えば、居住年数5年未満、居住年数5～10年という居住年数が短い回答者の中にも愛着・誇りを感じる意識が高い回答者がいる。そこで、属性や他の問いとのクロス集計を行ったところ、問1(1)「人と会って話をしたり、一緒に活動したりして、交流・つながりをもつこと」への回答に特徴が見られた。【図124】【図125】の通り、「地域への愛着や誇りをととても感じる」と回答した人は、いずれも問1(1)の問いに対して「大切だと思う」割合が100%であった。つまり、居住年数は短くても、人と直接会って、一緒に活動したりして、交流・つながりをもつという人は、地域への愛着・誇りを感じる意識がととても高い傾向が見られる。

このことから、最後に「人との交流・つながりの大切さ」を伝えていくということを提案したい。

社会教育・生涯学習の様々な場面で「人と直接会って話をしたり、一緒に活動したりして交流・つながりをもつこと」、言い換えれば「顔と顔の見える関係づくり」が大切であるということを、声に出して言い続けていくことを心掛け、特にこれからの未来を担う若者や子どもたちにしっかりと伝えていくことが、彼らに未来を委ねていく我々大人の責務であるとする。

2 終わりに

新・とちぎ学びかがやきプラン推進プロジェクトチームでは平成24年度に実施した「地域課題に関する意識・行動調査、地域課題に関する取組状況調査」から、「高齢化」、「防災・防犯」、「住民同士の交流」、「家庭教育支援・子育て支援」、「市街中心部の空洞化」等が本県の主な地域課題であると報告している。

今回の調査で取り上げてきた、人とのつながりや地域での活動状況を分析する中で、これらの課題を根本的に解決していくためには、人々のつながりを強くし、地域住民が中心となって解決策を考え、行政とともに様々な取組を試みていくことが大切ではないかと考えた。

本調査は、とちぎ県民のつながりの概要を捉えるための一方策として、ソーシャル・キャピタルの視点を活用して分析を行ったものである、今後地域づくり等の参考として、本報告書を活用いただければ幸いである。

最後に、調査への御協力をいただいた市町教育委員会、その他関係諸機関等の皆様に対し、心から感謝を申し上げ、調査報告とさせていただきます。

〈参考文献〉

- ソーシャル・キャピタル～豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて～ 内閣府国民生活局 2003
コミュニティ機能再生とソーシャル・キャピタルに関する研究調査報告書
内閣府経済社会総合研究所編 2005
- 孤独なボウリングー米国コミュニティの崩壊と再生 ロバート・D・パットナム 柏書房 2006
- 農村におけるソーシャル・キャピタル研究会とりまとめ 農林水産省 2007
- わが国のソーシャル・キャピタル政策展開に向けて報告書(社会生活に関するアンケート調査に関する報告)
ソーシャル・キャピタル政策展開研究会 2008
- ソーシャル・キャピタル入門ー孤立から絆へ 稲葉陽二 中公新書 2011
- 地域の「社会関係資本」の構築・再創造に資する社会教育
～「人材養成」および「人材間ネットワーク育成」の意義と方向性～
(一般財団法人日本青年館「社会教育」所収 2013 年 6 月号, 6～20 頁) 佐々木英和 2013

人とのつながり、地域での活動等に関する調査

調査ご協力をお願い

本調査は、本県における地域住民同士のつながり・信頼、地域住民の社会参加状況等を把握し、今後の地域づくりに関する学びの場の充実に向けた基礎データとするものです。

ご多用中まことに恐縮ですが、この調査の目的をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。なお、この調査結果は統計的に処理し、皆さまの回答を個別に公表することはありません。

新・とちぎ学びかがやきプラン推進プロジェクトチーム（事務局：栃木県教育委員会生涯学習課）

本調査における「地域」のとらえ方について

本調査における「**地域**」とは、おおむねご自身の居住する自治会・町内会、もしくは共同で活動している連合自治会・町内会の範囲でお答えください。

以下の問1～問5の質問にお答えください。回答は直接この調査票に記入してください。

問1 人と人との交流・つながりについてうかがいます。

(1) 人と直接会って話をしたり、一緒に活動したりして、交流・つながりをもつことについて、どのように考えますか。 あてはまるもの1つに○を付けてください。

ア 大切だと思う

ウ どちらかと言えば大切だとは思わない

イ どちらかと言えば大切だと思う

エ 大切だとは思わない

(2) 地域の方とどのようなお付き合いをされていますか。 あてはまるもの1つに○を付けてください。

ア 互いに相談したり日用品の貸し借りをしたりするなど、生活面で協力し合っている人もいる

イ 日常的に立ち話をする程度の付き合いはしている

ウ あいさつ程度の最小限の付き合いしかしていない

エ 付き合いはほとんどしていない

(3) 地域のどのくらいの人と面識・交流がありますか。 あてはまるもの1つに○を付けてください。

ア 地域の大半の人と面識・交流がある

イ 地域の半分程度の人と

ウ 地域のごく少数の人とだけ

エ 面識・交流はほとんどなく、隣の人もよく分からない

(4) 友人・知人（地域内外を問わず）との付き合い・交流はありますか。 あてはまるもの1つに○を付けてください。

ア 日常的にある（ほぼ毎日）

ウ ときどきある（月に1回程度）

イ ある程度頻繁にある（週に2～3回）

エ あまりない（年に数回以下）

問2 人への信頼についてうかがいます。

- (1) 地域の人は信頼できると思いますか。それとも注意をするに越したことはないと思いますか。あてはまるもの1つに○を付けてください。

ア ほとんどの人は信頼できる	ウ どちらかと言えば注意をするに越したことはない
イ どちらかと言えば信頼できる	エ 注意をするに越したことはない

- (2) 一般的に人は信頼できると思いますか。それとも注意をするに越したことはないと思いますか。あてはまるもの1つに○を付けてください。

ア ほとんどの人は信頼できる	ウ どちらかと言えば注意をするに越したことはない
イ どちらかと言えば信頼できる	エ 注意をするに越したことはない

問3 地域での活動への参加についてうかがいます。

- (1) 現在、以下のa～dの項目への参加状況について、それぞれあてはまる数字1つに○を付けてください。

	週に 3回以上	週に 1～2回	月に 2～3回	月に 1回程度	年に 数回程度	参加して いない
a 地縁的な活動 自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、子ども会育成会等	1	2	3	4	5	6
b グループやサークル活動 スポーツ・趣味・子育て・講座 修了者で立ち上げたもの等	1	2	3	4	5	6
c ボランティア、NPO、市民活動 まちづくり、福祉、スポーツ指導、環境保護、防災・防犯等	1	2	3	4	5	6
d その他の団体活動 商工会、業種組合、宗教、政治等	1	2	3	4	5	6

- (2) 上記問3(1) a～dの1つでも1～5に○を付けた方にうかがいます。活動に参加してどんなことを得ましたか。あてはまるものすべてに○を付けてください。

ア 達成感・充実感を味わえた	カ 地域への愛着が深まった
イ 知識やノウハウが豊かになった	キ 地域・社会のしくみや問題がわかった
ウ 地域・社会に対する貢献ができた	ク 活動の成果を実感できた
エ 価値観を共有できる仲間ができた	ケ その他 下の()内に具体的にお書きください。
オ 地域のさまざまな人とのつながりができた	

裏面に続きます

(3) 地域での祭り、イベント、伝統行事等への参加状況についてうかがいます。あてはまるもの1つに○を付けてください。

- | | | | |
|---|------------|---|------------------------------|
| ア | ほとんど参加している | ウ | 地域での祭り、イベント、伝統行事等はあるが参加していない |
| イ | ときどき参加している | エ | 地域で実施している祭り、イベント、伝統行事等がない |

(4) 人と交流するときによく利用する施設・場所について、あてはまるもの（主なもの3つまで）に○を付けてください。

- | | | | |
|---|-----------------------|---|-------------------------|
| ア | 公民館（宇都宮市の地区市民センターを含む） | ケ | コミュニティセンター |
| イ | 自治会が運営する集会所（自治公民館を含む） | コ | 子育て支援センター |
| ウ | 図書館 | サ | 男女共同参画センター |
| エ | 博物館 | シ | ボランティアセンター |
| オ | 生涯学習センター | ス | 公園・運動公園 |
| カ | 小中学校 | セ | 民間のスポーツクラブ・ジム |
| キ | 高等学校 | ソ | その他 下の（ ）内に具体的にお書きください。 |
| ク | 大学等の高等教育機関 | | [] |

(5) 地域での活動について感じていることがありましたら、下欄にお書きください。

--

問4 お住まいの地域について感じていることについてうかがいます。

(1) あなたの地域はまとまりがあると感じますか。あてはまるもの1つに○を付けてください。

- | | | | | | | | |
|---|--------|---|-------|---|---------|---|--------|
| ア | とても感じる | イ | 多少感じる | ウ | あまり感じない | エ | 全く感じない |
|---|--------|---|-------|---|---------|---|--------|

(2) 地域に愛着や誇りを感じていますか。あてはまるもの1つに○を付けてください。

- | | | | | | | | |
|---|--------|---|-------|---|---------|---|--------|
| ア | とても感じる | イ | 多少感じる | ウ | あまり感じない | エ | 全く感じない |
|---|--------|---|-------|---|---------|---|--------|

(3) この地域にも今後も住みたいと思いますか。あてはまるもの1つに○を付けてください。

- | | | | |
|---|----------------|---|------------------|
| ア | 住み続けたい | ウ | どちらかといえば住み続けたくない |
| イ | どちらかといえば住み続けたい | エ | 住み続けたくない |

問5 あなたご自身のことについてうかがいます。

(1) あなたの性別について、あてはまるものに○を付けてください。

- | | | | |
|---|---|---|---|
| ア | 女 | イ | 男 |
|---|---|---|---|

(2) あなたの現在の年齢（回答時の満年齢で結構です）は、以下のどれに該当しますか。あてはまるものに○を付けてください。

- | | | | |
|---|--------|---|--------|
| ア | 29歳以下 | エ | 50～59歳 |
| イ | 30～39歳 | オ | 60～69歳 |
| ウ | 40～49歳 | カ | 70歳以上 |

(3) あなたのお住まいの市町を以下から選んで、番号に○を付けてください。

県南	【下都賀地区】 【安足地区】	1 壬生町 7 佐野市	2 野木町 8 足利市	3 岩舟町	4 小山市	5 栃木市	6 下野市
県央	【河内地区】 【上都賀地区】 【芳賀地区】	9 宇都宮市 14 益子町	10 上三川町 15 茂木町	11 鹿沼市 16 市貝町	12 日光市 17 芳賀町	13 真岡市	
県北	【塩谷南那須地区】 【那須地区】	18 矢板市 23 那珂川町	19 さくら市 24 大田原市	20 那須烏山市 25 那須町	21 塩谷町 26 那須塩原市	22 高根沢町	
県外		27 その他（県名等）（市町村名等）					

(4) あなたの現在のお仕事等について、もっともよくあてはまるもの1つに○を付けてください。

ア 自営業	エ 専業主婦・主夫
イ 常勤職員（会社員、公務員等）	オ 学生
ウ 非常勤職員（臨時・パート・日雇い等）	カ 仕事はしていない

(5) あなたは今の地域に、合計してどのくらいお住まいですか。あてはまるもの1つに○を付けてく
ださい。

ア	5年未満	エ	21～30年	キ	51年以上
イ	5～10年	オ	31～40年		
ウ	11～20年	カ	41～50年		

(6) あなたが同居している家族について、あてはまる人すべてに○を付けてください。

ア 配偶者	エ 孫・ひ孫	キ 配偶者の親
イ 子ども	オ 祖父母	ク 自分の兄弟姉妹
ウ 子どもの配偶者	カ 自分の親	ケ 配偶者の兄弟姉妹

(7) あなたがよりよい地域をつくるために必要だと思うことがありましたら、下欄にお書きください。

--

☆ 調査全体を通して、お気づきの点がありましたら、下欄にお書きください。

--

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

お問合せ先

栃木県総合教育センター生涯学習部

TEL 028-665-7206

FAX 028-665-7219

栃木県教育委員会事務局生涯学習課

TEL 028-623-3408

FAX 028-623-3406

平成25年度新・とちぎ学びかがやきプラン推進事業プラン推進プロジェクトチーム委員名簿

No.	区 分	所 属	役 職	氏 名
1	学識経験者	宇都宮大学地域連携教育研究センター	准教授	佐々木 英 和
2	高等教育機関	大学コンソーシアムとちぎ (作新学院大学女子短期大学部)	教授	西 田 直 樹
3	生涯学習 関連施設	太平少年自然の家	副主幹	中 田 伸 幸
4		県立博物館人文課	特別研究員	篠 崎 茂 雄
5	河内	上三川町中央公民館	主査	杉 山 昇
6		河内教育事務所ふれあい学習課	社会教育主事	福 田 隆 行
7	上都賀	鹿沼市教育委員会生涯学習課	生涯学習係長	鈴 木 隆 志
8		上都賀教育事務所ふれあい学習課	副主幹	伊 藤 洋 二
9	芳賀	益子町教育委員会生涯学習課	生涯学習係長	河 原 平
10		芳賀教育事務所ふれあい学習課	社会教育主事	築 真 也
11	下都賀	岩舟町教育委員会社会教育課	主事	野 尻 博 之
12		下都賀教育事務所ふれあい学習課	副主幹	秋 山 貴 子
13	塩谷南那須	さくら市教育委員会生涯学習課	生涯学習係長	佐 藤 康 夫
14		塩谷南那須教育事務所ふれあい学習課	社会教育主事	江 田 清 水
15	那須	那須町教育委員会生涯学習課	課長補佐	室 井 健 一
16		那須教育事務所ふれあい学習課	副主幹	田 代 充
17	安足	足利市教育委員会生涯学習課	副主幹	鷲 津 康 弘
18		安足教育事務所ふれあい学習課	副主幹	塚 田 良 雄

事 務 局

No.	区 分	所 属	役 職	氏 名
1	事務局	栃木県教育委員会事務局生涯学習課	課長	上 田 裕 司
2		〃	主幹兼課長補佐 (総括)	仲 山 浩 正
3		栃木県総合教育センター生涯学習部	部長	篠 原 秀 章
4		〃	副主幹	近 藤 正
5		〃	社会教育主事	添 谷 元 良
6		〃	〃	佐 藤 孔 之
7		栃木県教育委員会事務局生涯学習課	副主幹	丹 治 良 行
8		〃	〃	井 上 昌 幸
9		〃	主査	西 形 孝 子
10		〃	社会教育主事	稲 田 健 男

平成26年度新・とちぎ学びかがやきプラン推進事業プラン推進プロジェクトチーム委員名簿

No.	区 分	所 属	役 職	氏 名
1	学識経験者	宇都宮大学地域連携教育研究センター	准教授	佐々木 英 和
2	高等教育機関	大学コンソーシアムとちぎ (作新学院大学女子短期大学部)	教授	西 田 直 樹
3	生涯学習関連施設	芳賀青年の家	副主幹	添 谷 敦
4		県立博物館	特別研究員	篠 崎 茂 雄
5	河内	河内教育事務所ふれあい学習課	社会教育主事	森 戸 敦
6	上都賀	上都賀教育事務所ふれあい学習課	副主幹	伊 藤 洋 二
7	芳賀	市貝町教育委員会生涯学習課	課長補佐兼 生涯学習 担当係長	川 又 孝 宏
8		芳賀教育事務所ふれあい学習課	社会教育主事	築 真 也
9	下都賀	小山市教育委員会生涯学習課	生涯学習係長	町 田 行 雄
10		栃木市教育委員会生涯学習課	課長補佐兼 生涯学習チー ムリーダー	中 山 幸 夫
11		下都賀教育事務所ふれあい学習課	副主幹	秋 山 貴 子
12	塩谷南那須	那須烏山市教育委員会生涯学習課	生涯学習担当 主幹兼総括	水 沼 透
13		塩谷町教育委員会生涯学習課	課長補佐兼 生涯学習担当	神 山 直 行
14		塩谷南那須教育事務所ふれあい学習課	副主幹	江 田 清 水
15	那須	那須塩原市教育委員会生涯学習課	副主幹・ 指導主事兼 社会教育主事	吉 田 一 志
16		那須教育事務所ふれあい学習課	副主幹	和 田 淳 子
17	安足	安足教育事務所ふれあい学習課	社会教育主事	近 藤 正 和

事 務 局

No.	区 分	所 属	役 職	氏 名
1	事務局	栃木県教育委員会事務局生涯学習課	課長	上 田 裕 司
2		〃	主幹兼課長補佐 (総括)	仲 山 浩 正
3		栃木県総合教育センター生涯学習部	部長	猪 瀬 清 隆
4		〃	部長補佐	近 藤 正
5		〃	副主幹	添 谷 元 良
6		栃木県教育委員会事務局生涯学習課	課長補佐	平 野 紀 子
7		〃	社会教育主事	粕 谷 知 之

ソーシャル・キャピタルの醸成に関する調査研究報告書
～とちぎ県民の絆づくりに向けて～
(栃木県総合教育センター生涯学習部 調査)

平成 27 年 3 月

発行：新・とちぎ学びかがやきプラン推進プロジェクトチーム

〈事務局〉

栃木県教育委員会事務局生涯学習課

〒320-8501 栃木県宇都宮市塙田 1-1-20 TEL 028-623-3408 FAX 028-623-3406

栃木県総合教育センター生涯学習部

〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町 1070 TEL 028-665-7206 FAX 028-665-7219